島原市統計ハンドブック

令和６年３月

島原市

はじめに

本ハンドブックは、島原市の自然、人口、経済、観光、福祉、教育など各分野にわたる基本的な統計資料を収録し、島原市の現状と推移を明らかにするとともに、隣接する雲仙市、南島原市を含んだ島原半島３市（以下「半島３市」という。）の比較や、島原市が長崎県及び半島３市の中でどのような位置付けにあるのかを把握し、現代的課題を客観的に見つめ直し、今後の市政の推進に役立てようとするものです。

また、島原市の特色あるデータを収集し、島原の魅力を再確認するとともに、島原を訪れるあらゆる人たちへの情報提供など、幅広く利用できることを目的としております。

ご利用上の注意

○ 計数については、単位未満を四捨五入で表示しているため、総数と内訳の合計が一致しない場合があります。このため、表間においても、数値が一致しない場合がありますのでご注意下さい。
○ 統計データの出所は、特に表記している場合を除き、目次に記載しております。
○ 平成１７年までのデータは、旧島原市と旧有明町の計となります。

目　　次

1．土地、自然	統計資料名	頁
(1) 島原市の位置	国土地理院　長崎県　市区町村の役所･役場及び東西南北端点の経度緯度（世界測地系）（令和4年1月時点）	1
(2) 島原市の主な山	国土地理院　長崎県の主な山岳標高	1
(3) 島原市の主な河川	2023　島原半島要覧	1
(4) 島原市の面積	国土地理院　全国都道府県市区町村別面積調　（令和5年10月面積）	2
「※参考　島原市の地目別土地面積」	税務課資料　土地に関する概要調書等報告書	
(5) 道路延長	道路課資料	2
2．人口、世帯		
(1) 島原市の人口と世帯の状況	市民窓口サービス課資料　年齢別人口統計表（令和5年12月末）、令和2年　国勢調査	3
(2) 長崎県及び半島3市における島原市の総人口と世帯の状況	令和2年　国勢調査	5
(3) 島原市の産業別就業人口の状況	令和2年　国勢調査	9
(4) 長崎県及び半島3市における島原市の産業別就業人口の状況		11
(5) その他の人口に関する資料	令和2年　国勢調査 、市民窓口サービス課資料	15
3．産業、経済		
(1) 島原市の経済活動別総生産額	令和2年度　市町民経済計算	17
(2) 長崎県及び半島3市における島原市の総生産額の状況		
(3) 卸売業、小売業	令和3年　経済センサス－活動調査	20
(4) 製造業	令和4年　経済構造実態調査（製造業事業所）	28
(5) 農業	令和2年度　市町民経済計算 2020年　農林業センサス	35
(6) 林業		38
(7) 水産業	2018年　漁業センサス、令和2年度　市町民経済計算	40
(8) 島原市の主な農水産物の出荷量、産出量	【指定野菜の生産出荷量】農林水産省　作物統計調査　野菜生産出荷統計 【海産物の年間産出量】 長崎農林水産統計年報	42
4．観光		
(1) 観光客数	しまばら観光課資料	43
(2) 公共交通機関利用状況	政策企画課、しまばら観光課（島原市観光客実態調査）、各課資料	44
(3) 各観光施設の入場者等の状況	しまばら観光課、農林課、商工振興課、各課資料	45
(4) 文化財の観光客の状況	社会教育課資料	48
(5) 島原市の年間イベント	しまばら観光課、商工振興課、スポーツ課、各課資料	48
(6) 温泉施設の利用状況	しまばら観光課、有明支所資料	51
(7) 島原の特産品、工芸品、郷土料理	農林課、耕地水産課、商工振興課、各課資料	53

5．社会福祉、保健、環境		
(1) 生活保護の状況	福祉課資料　長崎県生活保護速報	57
(2) 保育所・幼稚園の状況	こども課資料	57
(3) 医療の状況	福祉課資料　　医療施設調査 医師・歯科医師・薬剤師調査	58
(4) ごみの状況	環境課資料　一般廃棄物処理実態調査	60
6．教育、文化		
(1) 小学校の状況	教育総務課資料　教育統計調査報告	61
(2) 中学校の状況		
(3) 高等学校の状況		62
(4) 特別支援学校の状況		
(5) 図書館の状況	『長崎県長崎図書館要覧』 県内市町立図書館等の状況より	63
(6) 文化財の状況	社会教育課資料	64
7．市民生活		
(1) 居住、安全	市民安全課資料、令和4年交通統計、市民協働課資料	65
(2) 水道	水道課資料	66
(3) 町内会・自治会	市民協働課資料	66
8．財政		
(1) 島原市の歳入、歳出の状況	島原市決算の概要、財政状況より（島原市決算カード）	67
(2) 島原市の地方債、積立金の状況		68
(3) 各種指数		70
(4) 令和4年度決算内訳の比較		71
9．市政の状況		
(1) 国、県の指定状況		73
(2) 今後予定されている大型事業		73
１０．我がまち自慢		
(1) 島原市の日本一、日本初など		74
(2) 島原市の長崎県一、長崎県初など		76
(3) その他		77

１．土地、自然

（１）島原の位置

①　島原市の東西南北端点

（令和 4年1月時点）

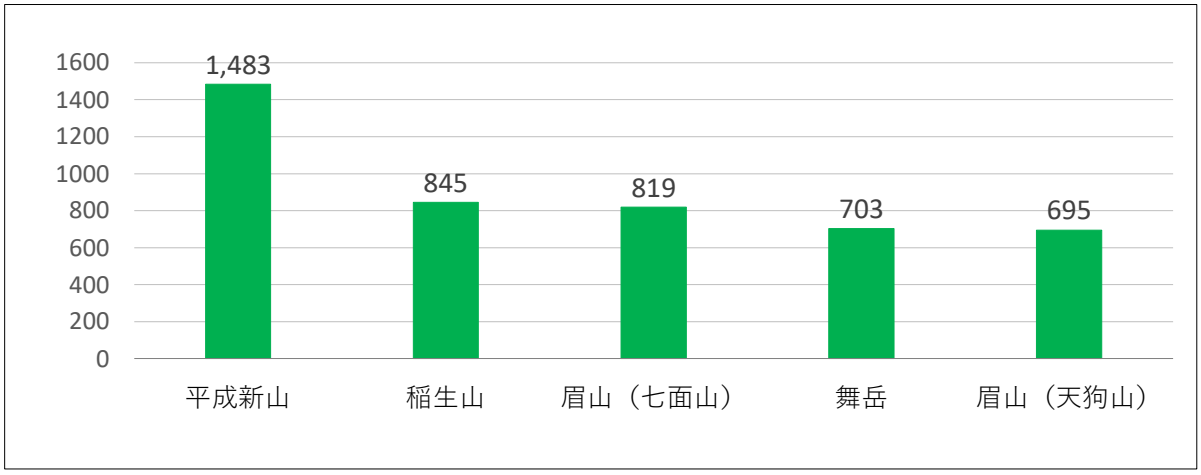
東端	北緯３２度４６分１８秒	東経１３０度２３分２５秒
西端	北緯３２度４６分２１秒	東経１３０度１６分２３秒
南端	北緯３２度４４分１４秒	東経１３０度２２分２５秒
北端	北緯３２度５２分０１秒	東経１３０度１９分１３秒

②　市役所（本庁舎）の位置

北緯	３２度４７分１７秒
東緯	１３０度２２分13秒

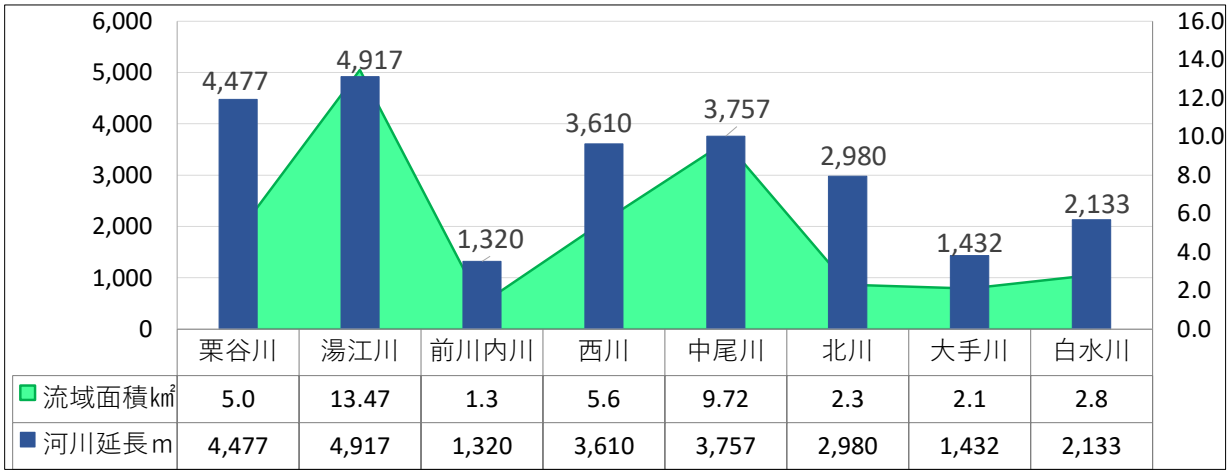
（２）島原市の主な山（標高の高い順に記載）

（単位：m）



（３）島原市の主な河川（北側から順に記載）

（単位：m、 k ㎡）



	栗谷川	湯江川	前川内川	西川	中尾川	北川	大手川	白水川
流域面積㎢	5.0	13.47	1.3	5.6	9.72	2.3	2.1	2.8
河川延長m	4,477	4,917	1,320	3,610	3,757	2,980	1,432	2,133

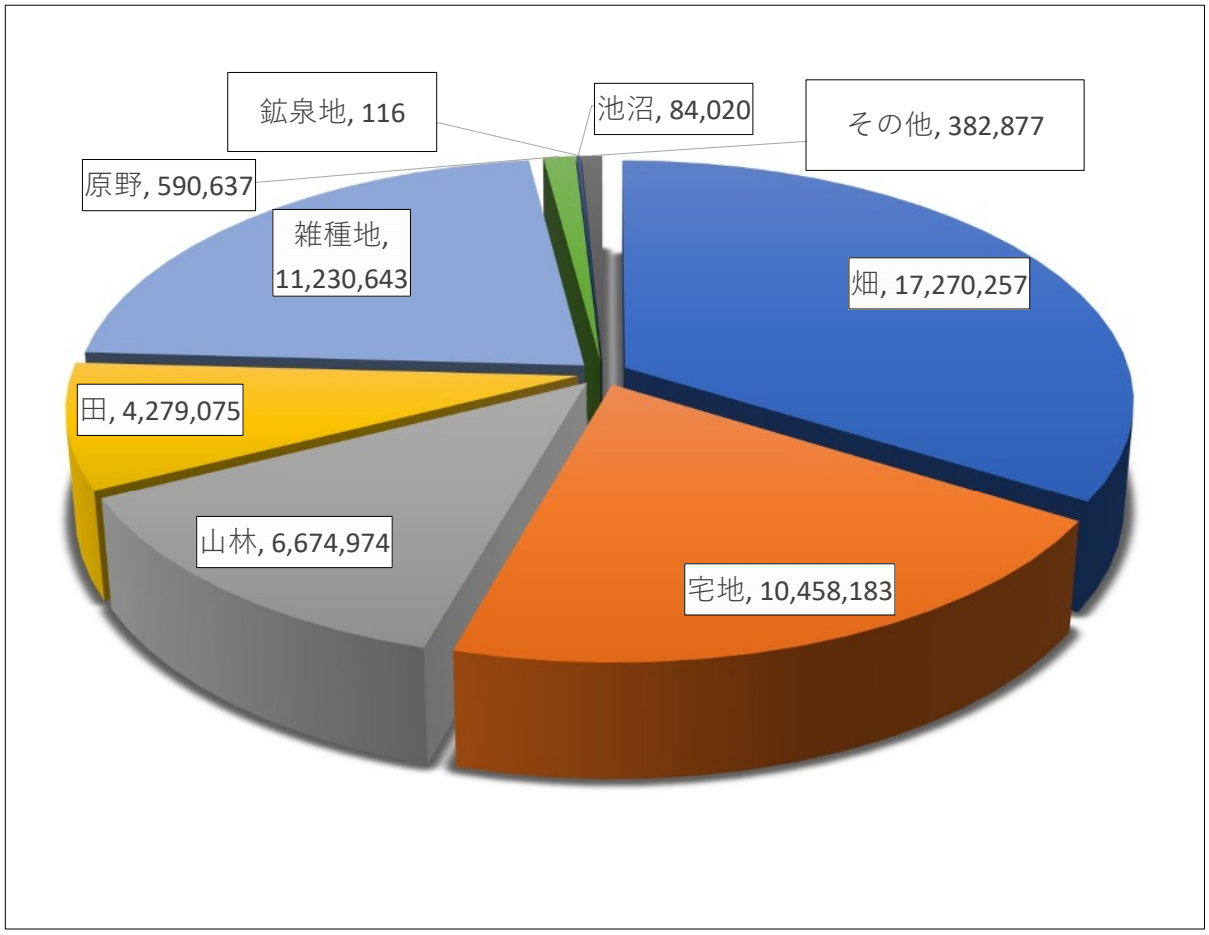
１．土地、自然

（４）島原市の面積 （令和５年10月1日時点）

	面積（㎢）	島原半島における割合（％）	長崎県における割合（％）
島原市	82.96	17.7	2.0
雲仙市	214.31	45.9	5.2
南島原市	170.13	36.4	4.1
半島３市	467.4	100	11.3
長崎県	4,131.05	－	－

参考：島原市の地目別土地面積 （令和 ５年１月現在）

※ただし、国有林、里道、水路の地積を除く （単位：㎡）



（５）道路延長（令和 5年４月１日現在）

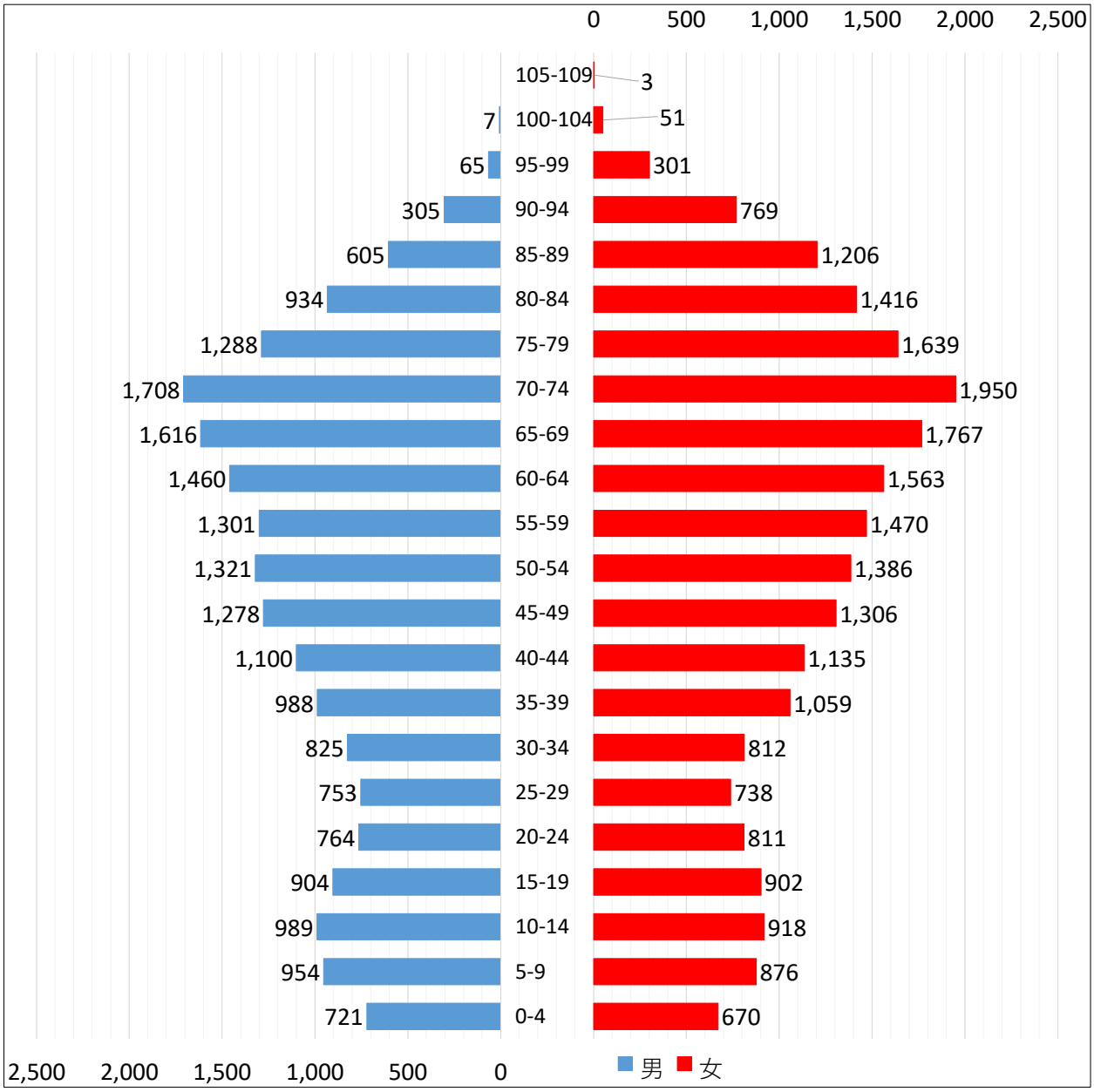
島原市内の市道総延長	558,276ｍ		
島原市内の県道総延長	40,004ｍ		
島原市内の国道総延長	28,912ｍ	国道５７号	3,620ｍ
		２５１号	25,292ｍ

２．人口、世帯

（１）島原市の人口と世帯の状況

①　年齢区分ごとの男女別人口（令和5年１２月３１日現在）

（単位：人）



年齢区分	人口（単位：人）
１００歳以上	61
８０～９９歳	5,601
６０～７９歳	12,991
４０～５９歳	10,297
２０～３９歳	6,750
０～１９歳	6,934
合　　計	42,634

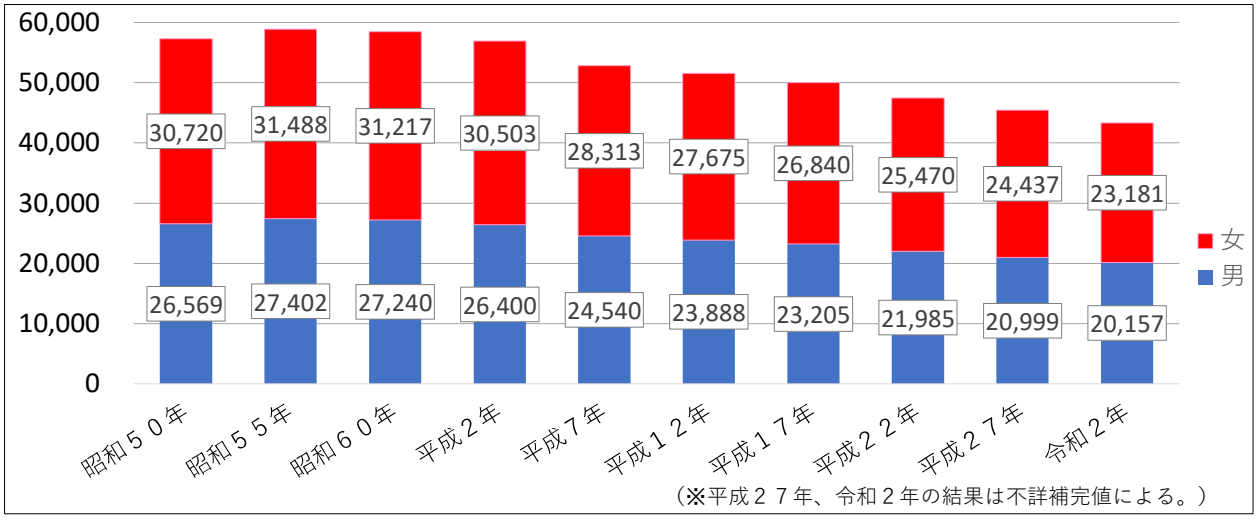
年齢区分ごとの人口は、２０年代ごとに区分した場合、６０～７９歳の人口が一番多く、若くなるに従って少なくなっている。

　また、２０～３４歳の人口が少なくなっているが、これは高校卒業後の若者の流出が要因であると考えられる。

２．人口、世帯

②　男女別人口の推移　（令和２年国勢調査）

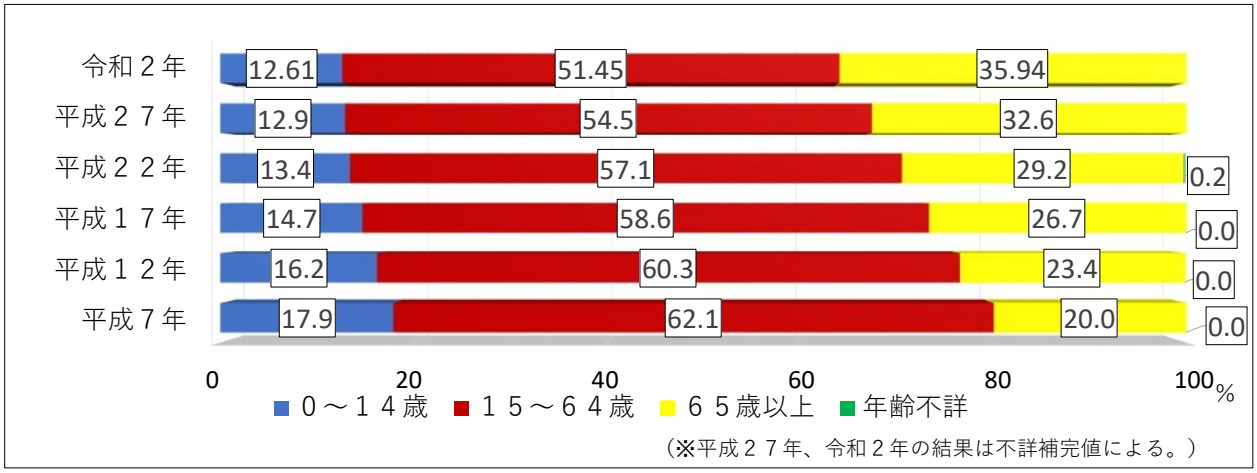
（単位：人）



令和2年は男女とも、ピークだった昭和５５年の人口の74％まで減少している。

③　年齢区分別人口割合の推移

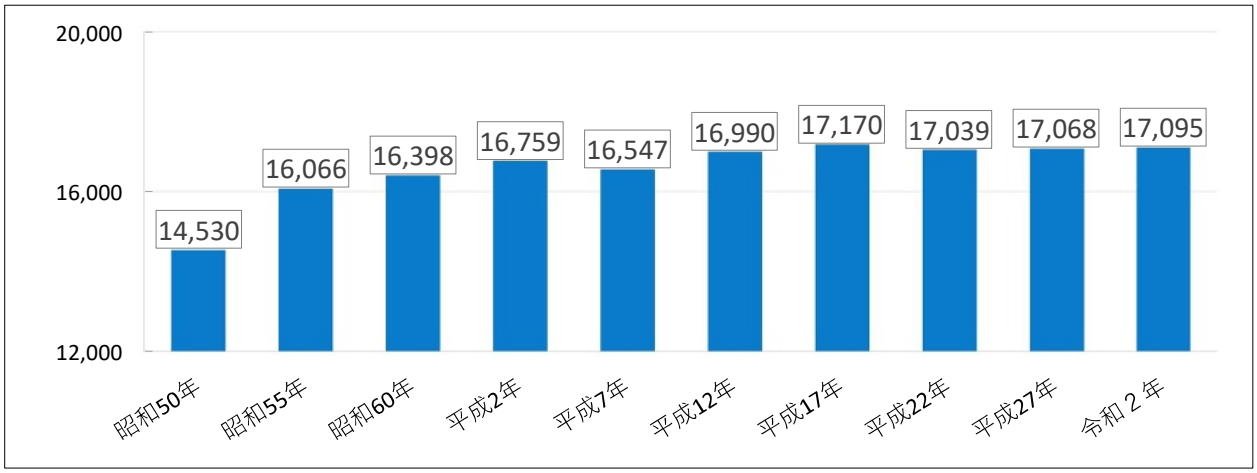
（単位：％）



０～１４歳の人口は急激に減少し、６５歳以上の人口は急激に増加している。

④　世帯数の推移

（単位：世帯）



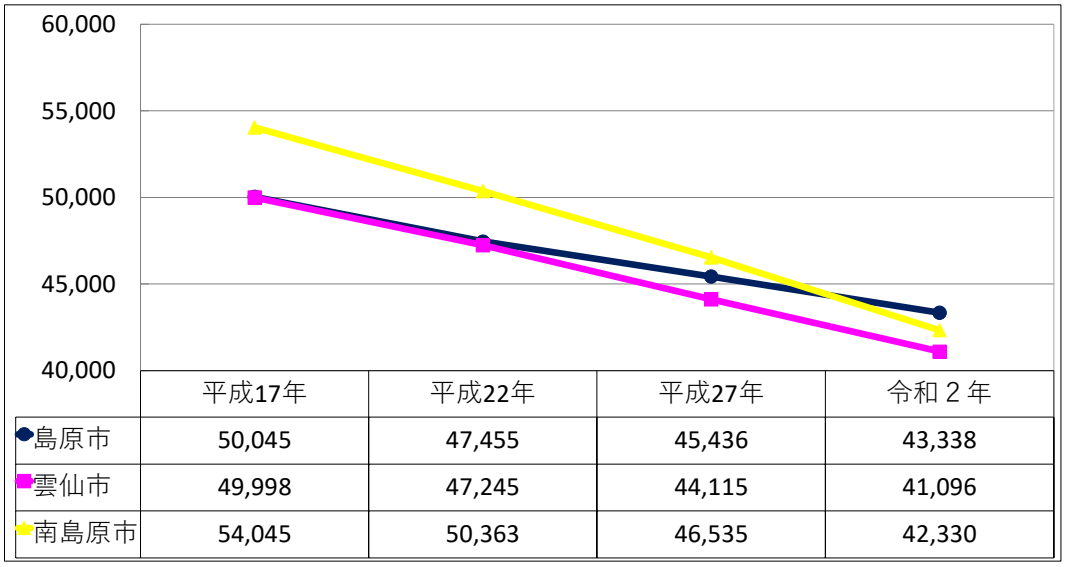
令和２年国勢調査の結果、世帯数は平成２７年調査時より27世帯増えている。

2．人口、世帯

（2）長崎県及び半島３市における島原市の総人口と世帯の状況

①　人口の推移　（令和２年国勢調査）

（単位：人）



	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
島原市	50,045	47,455	45,436	43,338
雲仙市	49,998	47,245	44,115	41,096
南島原市	54,045	50,363	46,535	42,330

（※平成２７年、令和２年の結果は不詳補完値による。）

半島３市の総人口は、減少傾向にあるが、半島３市の中では島原市の人口減少率が4.7%と最も低い。（参考）島原市の住基人口 42,634人（令和５年１２月末）

【人口の割合】

（単位：人）

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	1,516,523	1,478,632	1,426,779	1,377,187	1,312,317
島原市の割合	3.4%	3.4%	3.3%	3.3%	3.3%
半島３市	160,838	154,088	145,063	136,086	126,764
島原市の割合	32.1%	32.5%	32.7%	33.4%	34.2%

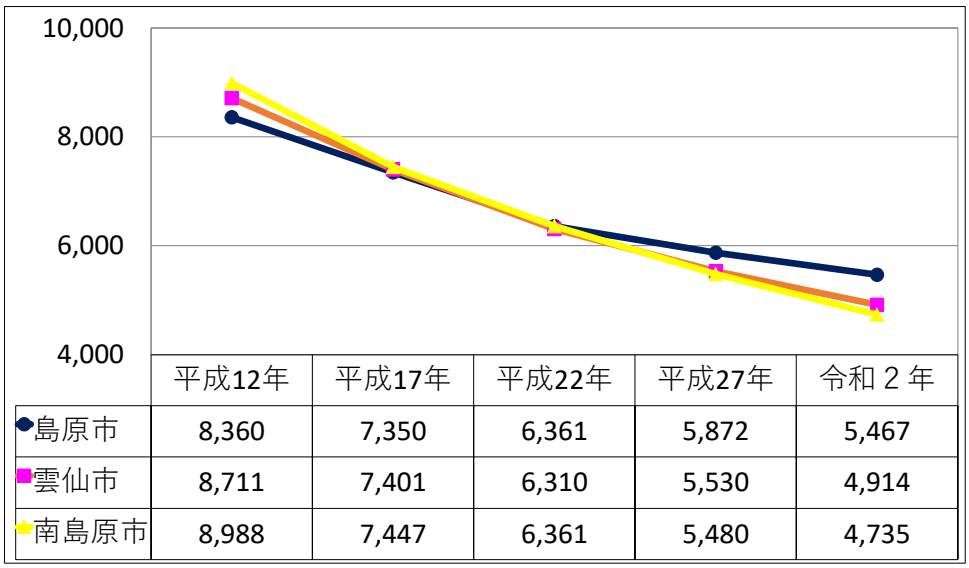
半島他２市より本市は人口減少率が鈍化している。

2．人口、世帯

②　年齢区分別にみた人口の推移

【０～１４歳の人口の推移】

（単位：人）



	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
島原市	8,360	7,350	6,361	5,872	5,467
雲仙市	8,711	7,401	6,310	5,530	4,914
南島原市	8,988	7,447	6,361	5,480	4,735

（※平成２７年、令和２年の結果は不詳補完値による。）

半島３市の人口は、急激に減少している。

（参考）島原市の住基人口 5,128人（令和５年１２月末）

【０～１４歳の人口の割合】

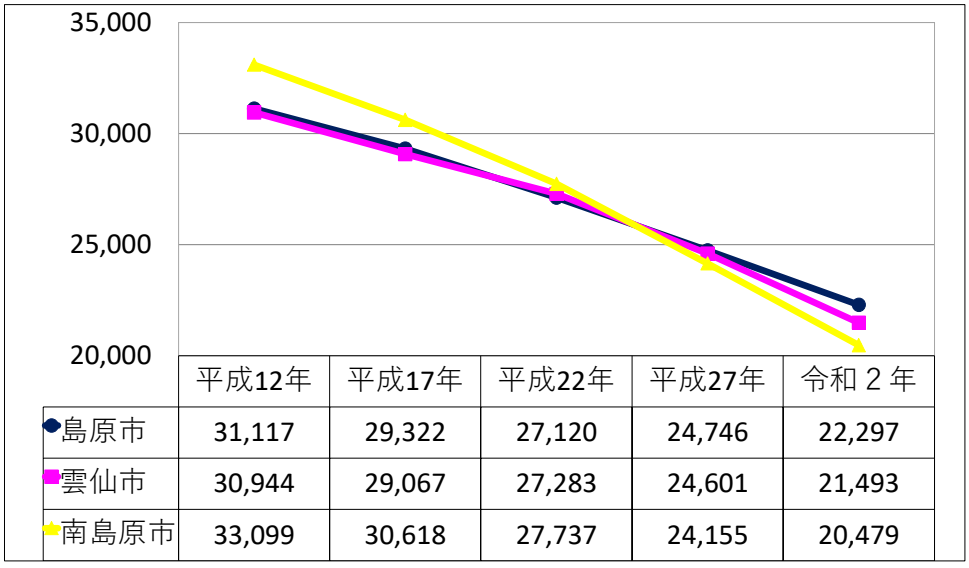
（単位：人）

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	243,046	215,987	193,428	178,092	164,573
島原市の割合	3.4%	3.4%	3.3%	3.3%	3.3%
半島３市	26,059	22,198	19,032	16,882	15,116
島原市の割合	32.1%	33.1%	33.4%	34.8%	36.2%

半島３市における島原市の割合は1.4%増加している。

【１５～６４歳の人口推移】

（単位：人）



	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
島原市	31,117	29,322	27,120	24,746	22,297
雲仙市	30,944	29,067	27,283	24,601	21,493
南島原市	33,099	30,618	27,737	24,155	20,479

（※平成２７年、令和２年の結果は不詳補完値による。）

半島３市の人口は、共に激減している。

（参考）島原市の住基人口21,876人（令和５年１２月末）

２．人口、世帯

【１５～６４歳の人口割合】

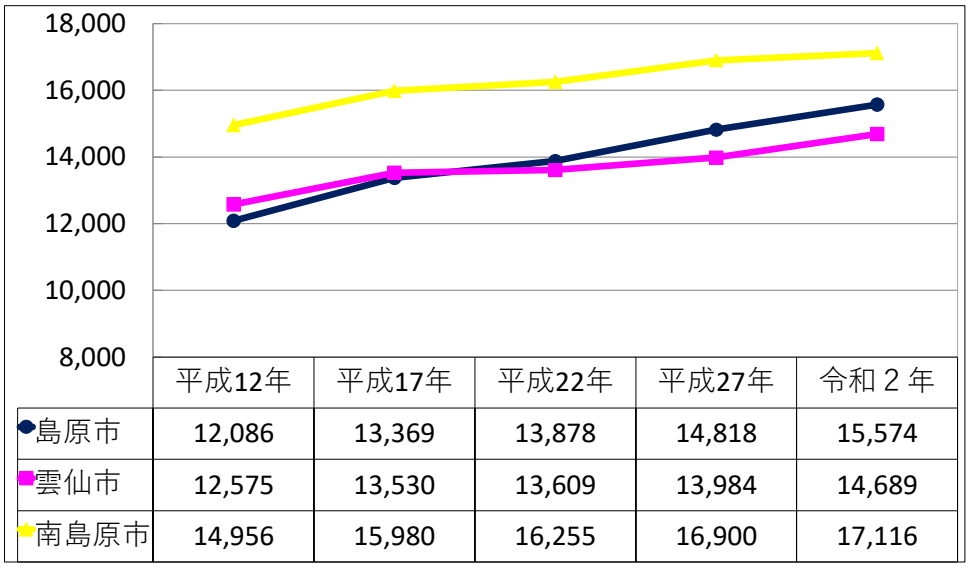
（単位：人）

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	956,692	913,224	857,416	791,956	714,726
島原市の割合	3.3%	3.2%	3.2%	3.1%	3.1%
半島３市	95,160	89,007	82,140	73,502	64,269
島原市の割合	32.7%	32.9%	33.0%	33.7%	34.7%

島原市の割合は、長崎県内では減少傾向だが、半島３市ではわずかに増加傾向にある。

【６５歳以上の人口推移】

（単位：人）



	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
島原市	12,086	13,369	13,878	14,818	15,574
雲仙市	12,575	13,530	13,609	13,984	14,689
南島原市	14,956	15,980	16,255	16,900	17,116

（※平成２７年、令和２年の結果は不詳補完値による。）

半島３市の人口は、共に増加し高齢化が進む。

（参考）

島原市の住基人口15,630人（令和５年１２月末）

【６５歳以上の人口割合】

（単位：人）

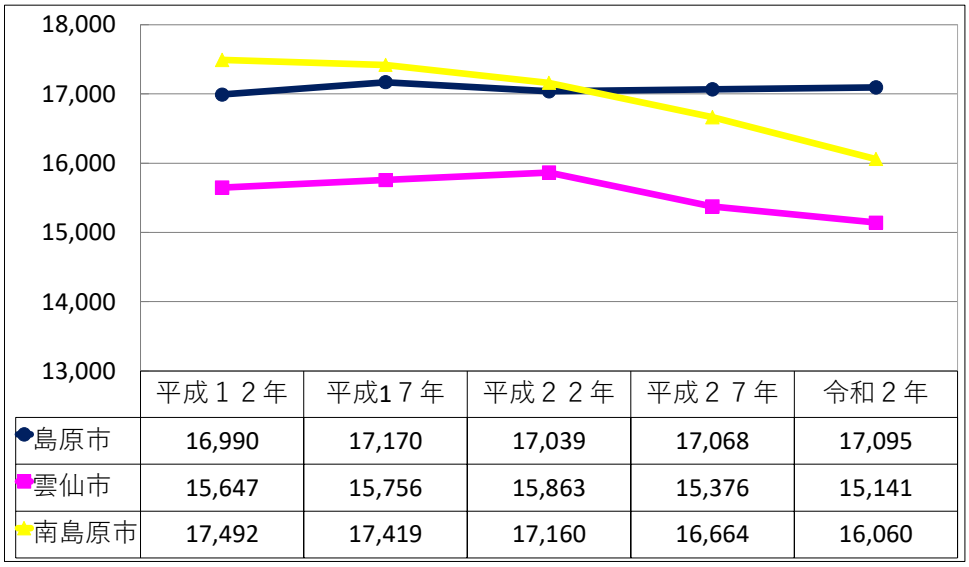
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	315,871	348,820	369,290	407,139	433,018
島原市の割合	3.8%	3.8%	3.8%	3.6%	3.6%
半島３市	39,617	42,879	43,742	45,702	47,379
島原市の割合	30.5%	31.2%	31.7%	32.4%	32.8%

半島３市における島原市の割合は、微増傾向にある。

2．人口、世帯

③　世帯数の推移　（令和２年国勢調査）

（単位：世帯）



	平成１２年	平成17年	平成２２年	平成２７年	令和２年
島原市	16,990	17,170	17,039	17,068	17,095
雲仙市	15,647	15,756	15,863	15,376	15,141
南島原市	17,492	17,419	17,160	16,664	16,060

世帯数は、島原市で増加している。

【世帯数の割合】

（単位：世帯）

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	544,878	553,620	558,660	560,720	556,130
島原市の割合	3.1%	3.1%	3.0%	3.0%	3.1%
半島３市	50,129	50,345	50,062	49,108	48,296
島原市の割合	33.9%	34.1%	34.0%	34.8%	35.4%

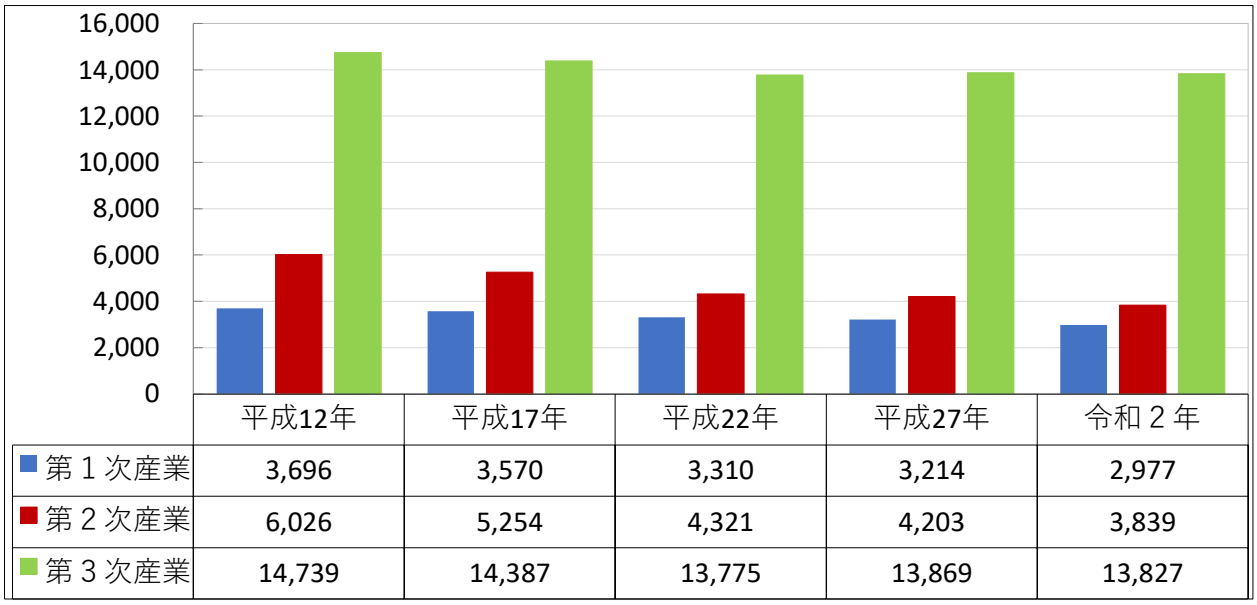
半島３市における島原市の割合は増加している。

2．人口、世帯

（3）島原市の産業別就業人口の状況

① 人口の推移

（単位：人）



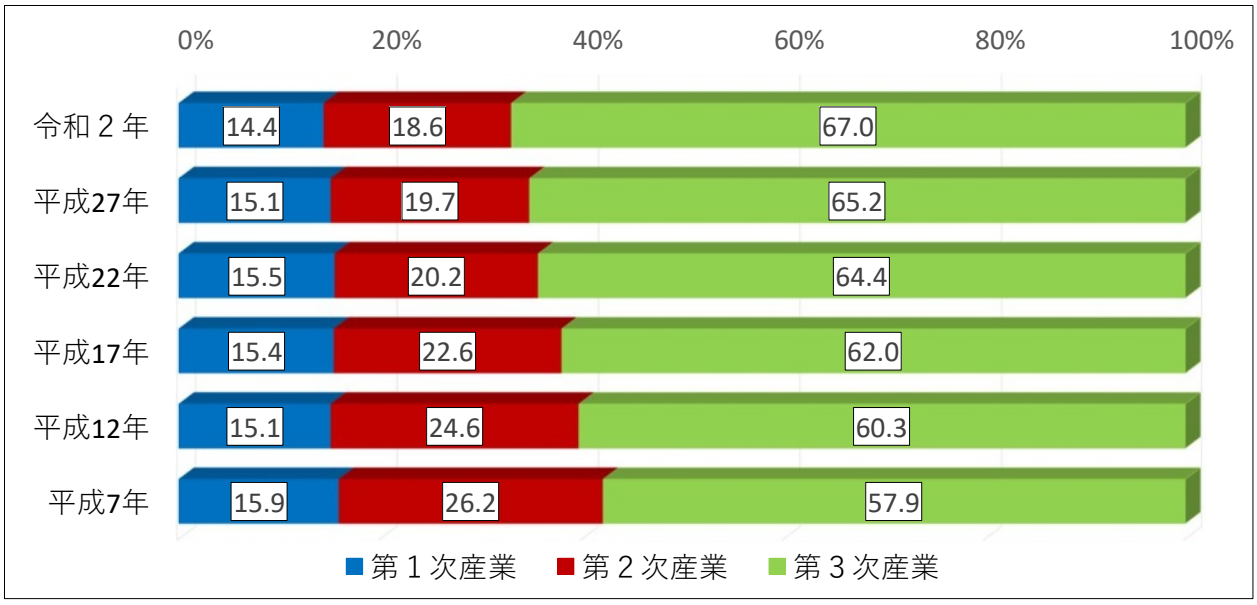
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
第１次産業	3,696	3,570	3,310	3,214	2,977
第２次産業	6,026	5,254	4,321	4,203	3,839
第３次産業	14,739	14,387	13,775	13,869	13,827

就業人口は、各産業とも減少している。

（注）上記数値には「分類不能産業」が未算入のため、１２頁の合計とは合わない。

【就業人口の構造比の推移】

（単位：%）



人口構成比の推移をみると、第一次産業は横ばい、第２次産業は減少、第３次産業は増加している。

２．人口、世帯

② 産業分類別就業人口の推移

（単位：人）

産業分類	平成１２年	平成１７年	平成２２年	平成２７年	令和２年
農業	3,173	3,116	2,956	2,917	2,737
林業	11	13	14	9	15
漁業	512	441	340	288	225
第１次産業計	3,696	3,570	3,310	3,214	2,977
鉱業	5	7	1	-	2
建設業	3,037	2,513	1,920	1,817	1,794
製造業	2,984	2,734	2,400	2,386	2,043
第２次産業計	6,026	5,254	4,321	4,203	3,839
電気・ガス・熱供給・水道業	107	78	71	79	84
運輸業・郵便業	992	800	909	800	722
情報通信業	（運輸・郵便業に含む）	（運輸・郵便業に含む）	（運輸・郵便業に含む）	（運輸・郵便業に含む）	92
卸売・小売	5,550	3,272	3,598	3,088	3,024
宿泊業，飲食サービス業	（宿泊：サービス業に、飲食店：卸・小に含む）	1,114	1,210	1,188	1,097
金融業・保険業	466	407	358	360	325
不動産業・物品賃貸業	66	68	127	131	118
学術研究・専門・技術サービス業	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	368
生活関連サービス業・娯楽業	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	710
教育・学習支援業	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	1,060
医療・福祉	（サービス業に含む）	3,101	3,407	3,814	4,133
複合サービス事業	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	（サービス業に含む）	292
サービス業	6,663	3,788	3,287	3,583	960
公務・その他	895	817	808	826	842
第３次産業計	14,739	13,445	13,775	13,869	13,827

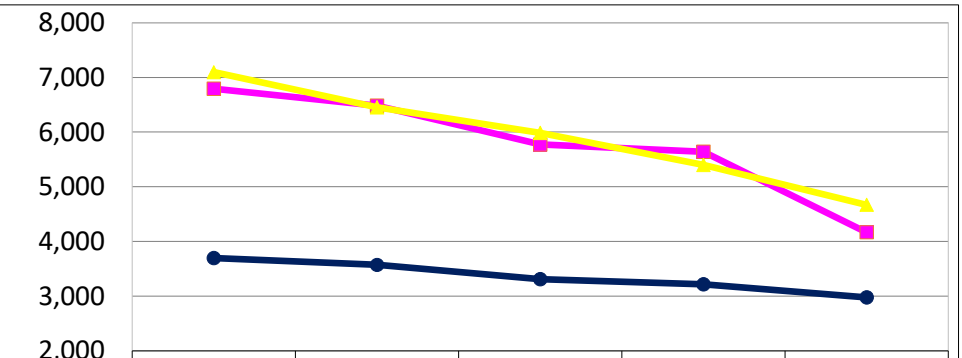
※ 分類不能産業は未算入。島原市では、第１次産業、第２次産業が減少し、第３次産業については、ほぼ横ばいを続けている。

2．人口、世帯

（４）長崎県及び半島３市における島原市の産業別就業人口の状況

①　第１次産業人口の推移

（単位：人）



	平成１２年	平成１７年	平成２２年	平成２７年	令和２年
島原市	3,696	3,570	3,310	3,214	2,977
雲仙市	6,795	6,481	5,771	5,642	4,167
南島原市	7,095	6,452	5,986	5,398	4,669

半島３市の就業人口は、共に減少している。

島原市の減少の主な要因は、農業・漁業を営む人が減っているためである。

【第１次産業人口の割合】

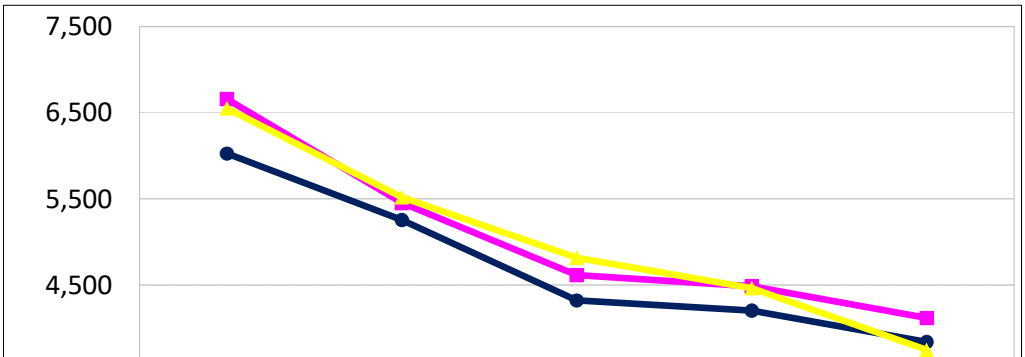
（単位：人）

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	67,198	62,011	51,695	47,812	40,802
島原市の割合	5.5%	5.8%	6.4%	6.7%	7.3%
半島３市	17,586	16,503	15,067	14,254	11,813
島原市の割合	21.0%	21.6%	22.0%	22.5%	25.2%

長崎県及び半島３市における島原市の割合は、増加傾向にある。

②　第２次産業人口の推移

（単位：人）



	平成１２年	平成１７年	平成２２年	平成２７年	令和２年
島原市	6,026	5,254	4,321	4,203	3,839
雲仙市	6,659	5,453	4,614	4,484	4,116
南島原市	6,550	5,517	4,817	4,461	3,744

半島３市の就業人口は、共に減少している。

島原市の減少の主な要因は、建設業及び製造業従事者が減っているためである。

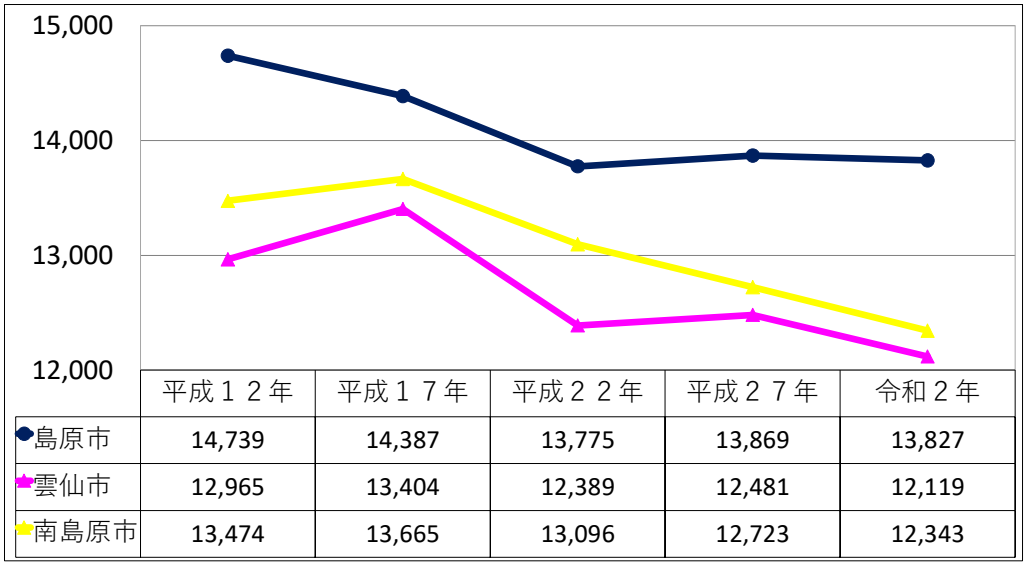
2．人口、世帯

【第２次産業人口の割合】　（単位：人）

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	165,956	140,390	127,183	125,674	116,363
島原市の割合	3.6%	3.7%	3.4%	3.3%	3.3%
半島３市	19,235	16,224	13,752	13,148	11,699
島原市の割合	31.3%	32.4%	31.4%	32.0%	32.8%

島原市の割合は、長崎県内で減少、半島３市では横ばいの傾向にある。

③　第３次産業人口の推移　（単位：人）



	平成１２年	平成１７年	平成２２年	平成２７年	令和２年
島原市	14,739	14,387	13,775	13,869	13,827
雲仙市	12,965	13,404	12,389	12,481	12,119
南島原市	13,474	13,665	13,096	12,723	12,343

半島３市の就業人口は減少傾向にある。

島原市で増加した産業は、医療・福祉事業従事者が増加している。

【第３次産業人口の割合】　（単位：人）

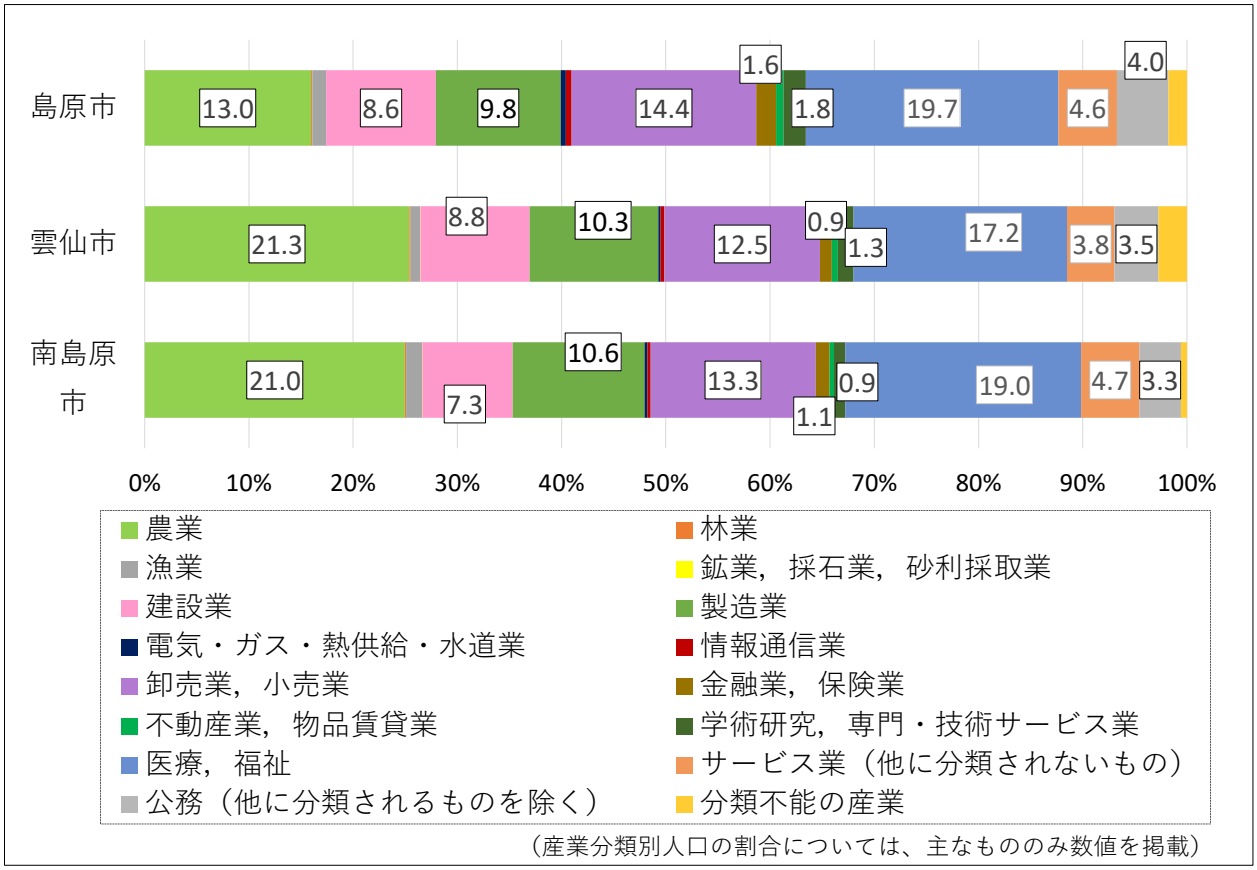
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	466,197	473,801	450,757	450,488	446,057
島原市の割合	3.2%	3.0%	3.1%	3.1%	3.1%
半島３市	41,195	41,525	39,260	39,073	38,289
島原市の割合	35.8%	34.6%	35.1%	35.5%	36.1%

島原市の割合は、長崎県内においては横ばい、半島３市においては微増となっている。

2．人口、世帯

④　産業分類別就業人口の状況（令和２年）

（単位：%）



（産業分類別人口の割合については、主なもののみ数値を掲載）

半島３市の中で、島原市は、卸売・小売の就業人口の占める割合が高く、農業の就業人口の割合が低いことが分かる。

２．人口、世帯

【島原市の産業分類別就業人口の状況】（令和２年）

（単位：人）

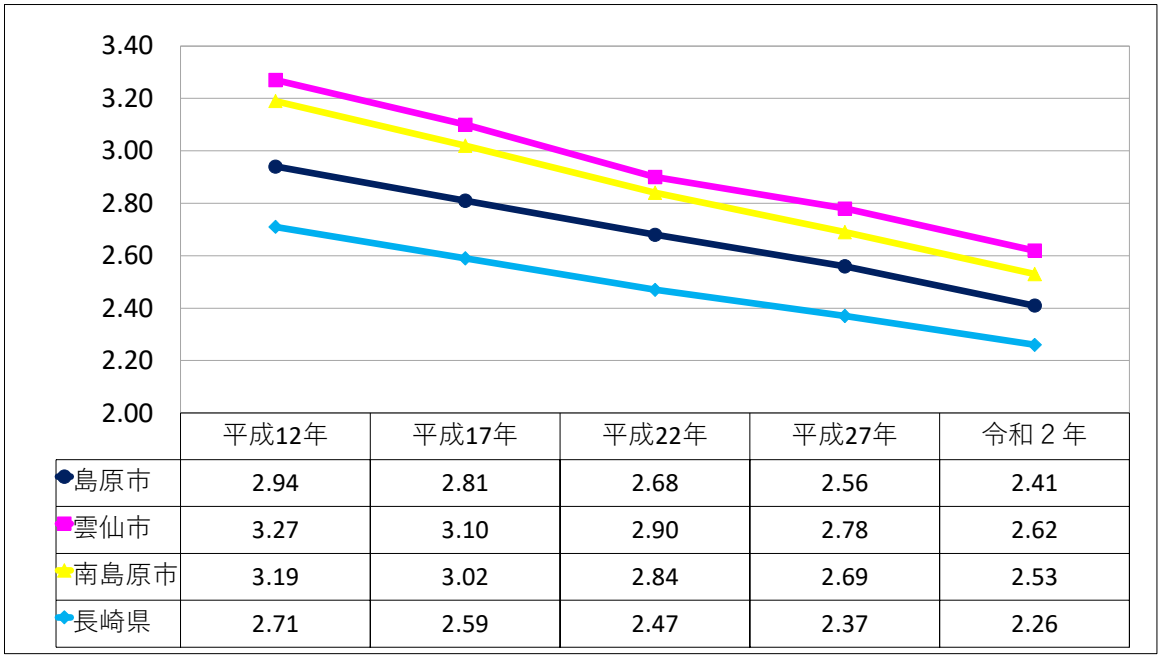
項　　目	島原市	雲仙市	南島原市
農業	2,737	4,579	4,386
林業	15	20	13
漁業	225	162	270
鉱業	2	5	6
建設業	1,794	1,887	1,518
製造業	2,043	2,224	2,220
電気・ガス・熱供給・水道業	84	40	48
情報通信業	92	67	53
運輸業・郵便業	722	695	677
卸売・小売	3,024	2,691	2,782
金融業・保険業	325	202	231
不動産業，物品賃貸業	118	105	76
学術研究，専門・技術サービス業	368	270	189
宿泊業，飲食サービス業	1,097	1,162	905
生活関連サービス業，娯楽業	710	550	539
教育，学習支援業	1,060	727	785
医療・福祉	4,133	3,691	3,969
複合サービス事業	292	340	408
サービス業（他に分類されないもの）	960	818	983
公務	842	761	698
分類不能産業	303	494	105
合　　計	20,946	21,490	20,861

2．人口、世帯

（５）その他の人口に関する資料

①　一般世帯(※1)における１世帯当たり世帯人員の推移

（単位：人）



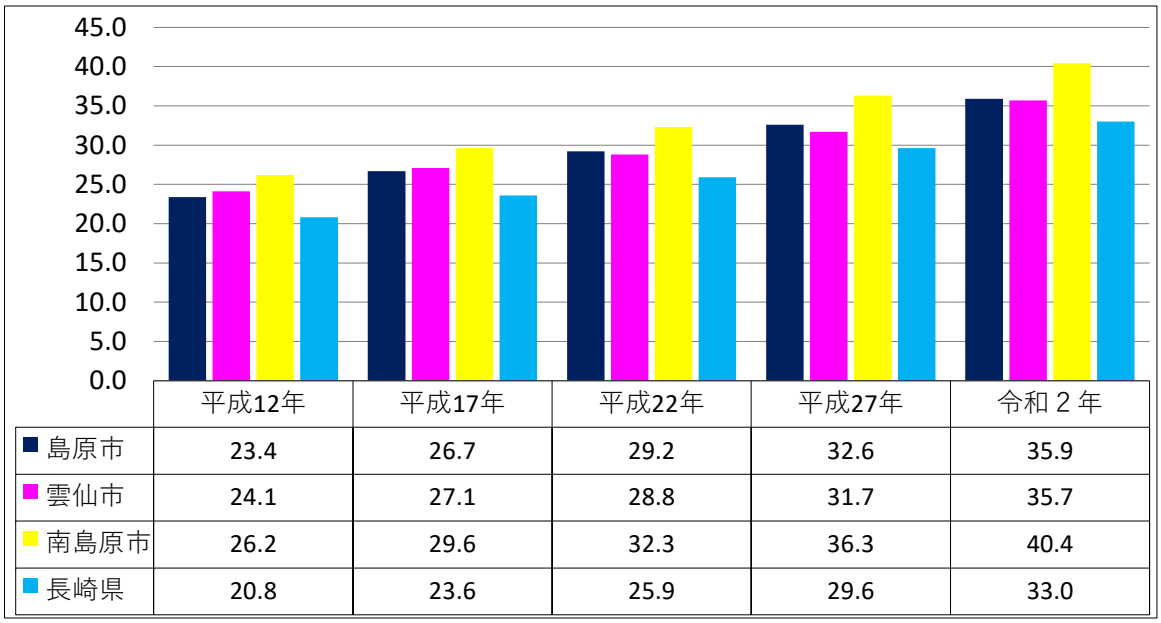
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
島原市	2.94	2.81	2.68	2.56	2.41
雲仙市	3.27	3.10	2.90	2.78	2.62
南島原市	3.19	3.02	2.84	2.69	2.53
長崎県	2.71	2.59	2.47	2.37	2.26

島原市の世帯人員は、半島３市の中では一番少なく、長崎県と比較すると多い。

（※１）一般世帯とは、老人ホームなどの社会施設等を除いたもの。

②　高齢化率の推移

（単位：%）



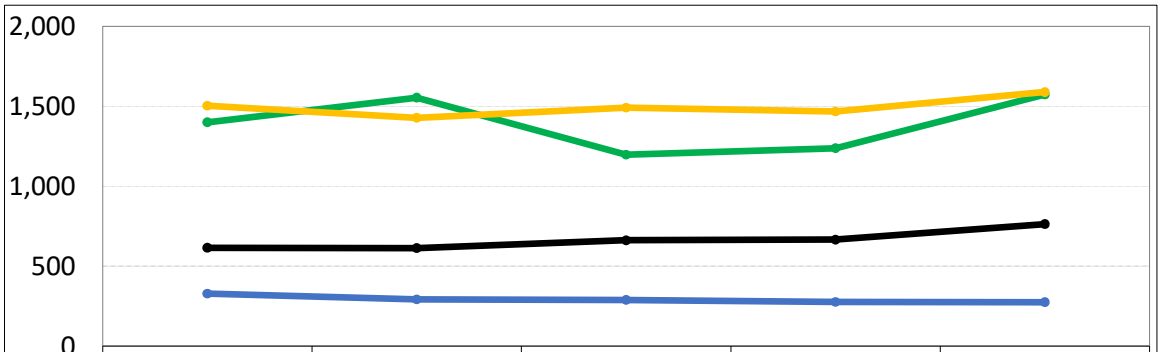
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
島原市	23.4	26.7	29.2	32.6	35.9
雲仙市	24.1	27.1	28.8	31.7	35.7
南島原市	26.2	29.6	32.3	36.3	40.4
長崎県	20.8	23.6	25.9	29.6	33.0

半島３市の高齢化率（６５歳以上）は、上昇を続けている。

2．人口、世帯

③　島原市の移動人口の推移

（単位：人）



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
出生	328	292	289	276	275
死亡	615	613	662	666	763
転入	1,400	1,554	1,197	1,238	1,574
転出	1,503	1,428	1,491	1,467	1,589

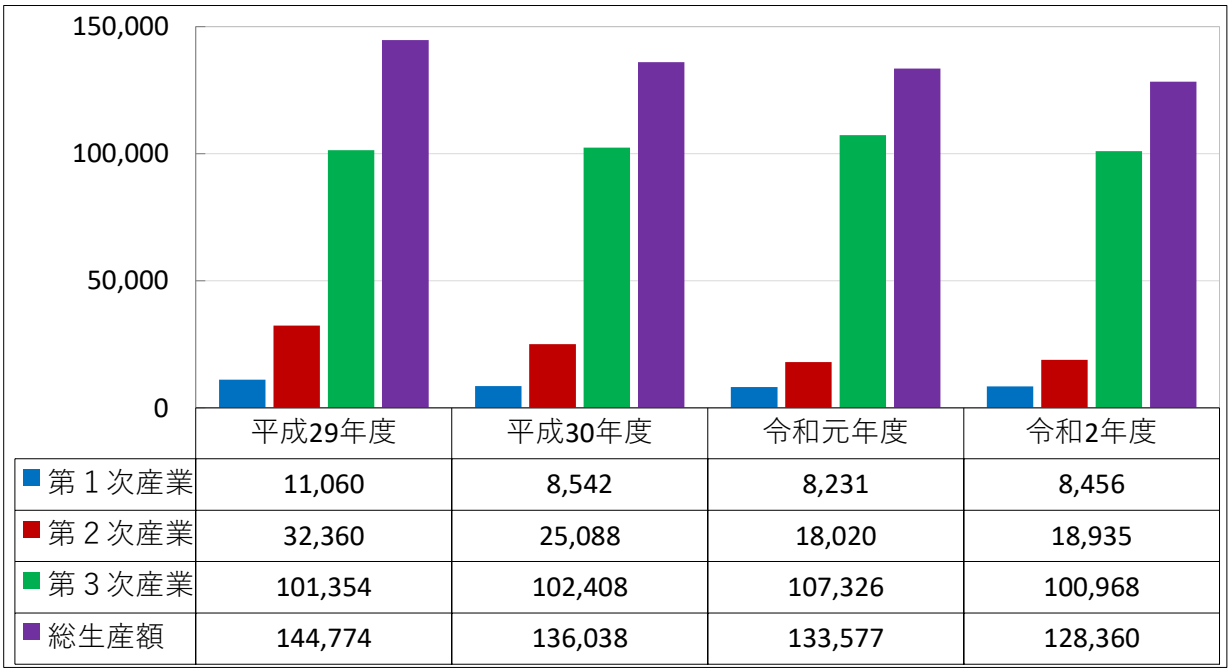
令和４年度の自然動態は、出生が５年連続減少となり、社会動態は転入及び転出が前年度を上回った。

3．産業、経済

（１）島原市の経済活動別総生産額

（＝島原市の経済の規模などを明らかにする指標）

（単位：百万円）



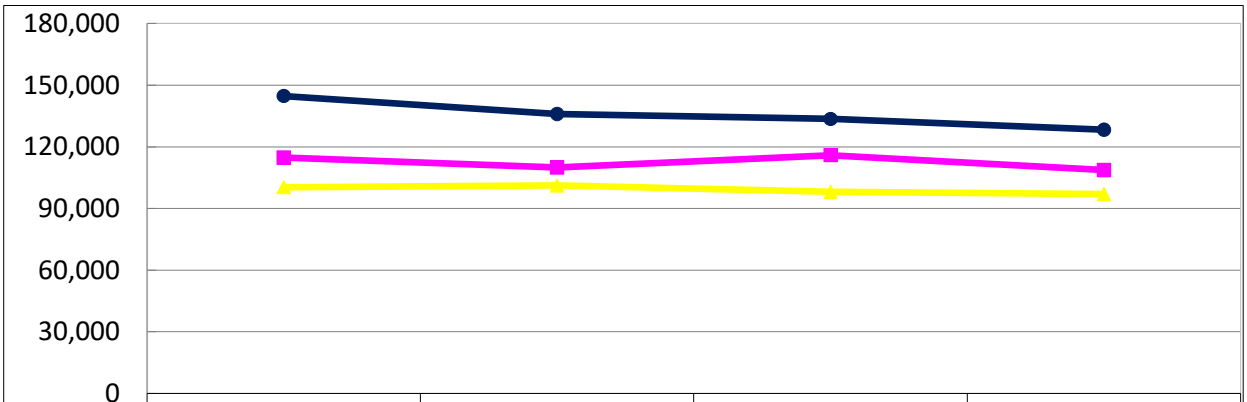
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
第１次産業	11,060	8,542	8,231	8,456
第２次産業	32,360	25,088	18,020	18,935
第３次産業	101,354	102,408	107,326	100,968
総生産額	144,774	136,038	133,577	128,360

令和２年度は、第１次産業、第２次産業が増加したが、第３次産業は減少したため、総生産額は前年度を下回った。（※総生産額は「輸入品に課せられる税・関税等」を差し引いた額を計上している。）

（２）長崎県及び半島３市における島原市の総生産額の状況

①　総生産額の推移　（令和２年度）

（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
島原市	144,774	136,038	133,577	128,360
雲仙市	114,848	109,953	115,961	108,684
南島原市	100,363	101,177	98,117	97,063

対前年度増加率をみると、島原市△3.2、南島原市△0.2、雲仙市△5.6となり３市ともに減少している。

3．産業、経済

【総生産額の割合】

（単位：百万円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
長崎県	4,549,825	4,648,652	4,770,241	4,528,999
島原市の割合	3.2%	2.9%	2.8%	2.8%
半島３市	359,985	347,168	347,655	334,107
島原市の割合	40.2%	39.1%	38.4%	38.4%

島原市の割合は、長崎県及び半島３市共に減少傾向にある。

② 産業分類別総生産額 （令和2年度）

【総生産額の比較】

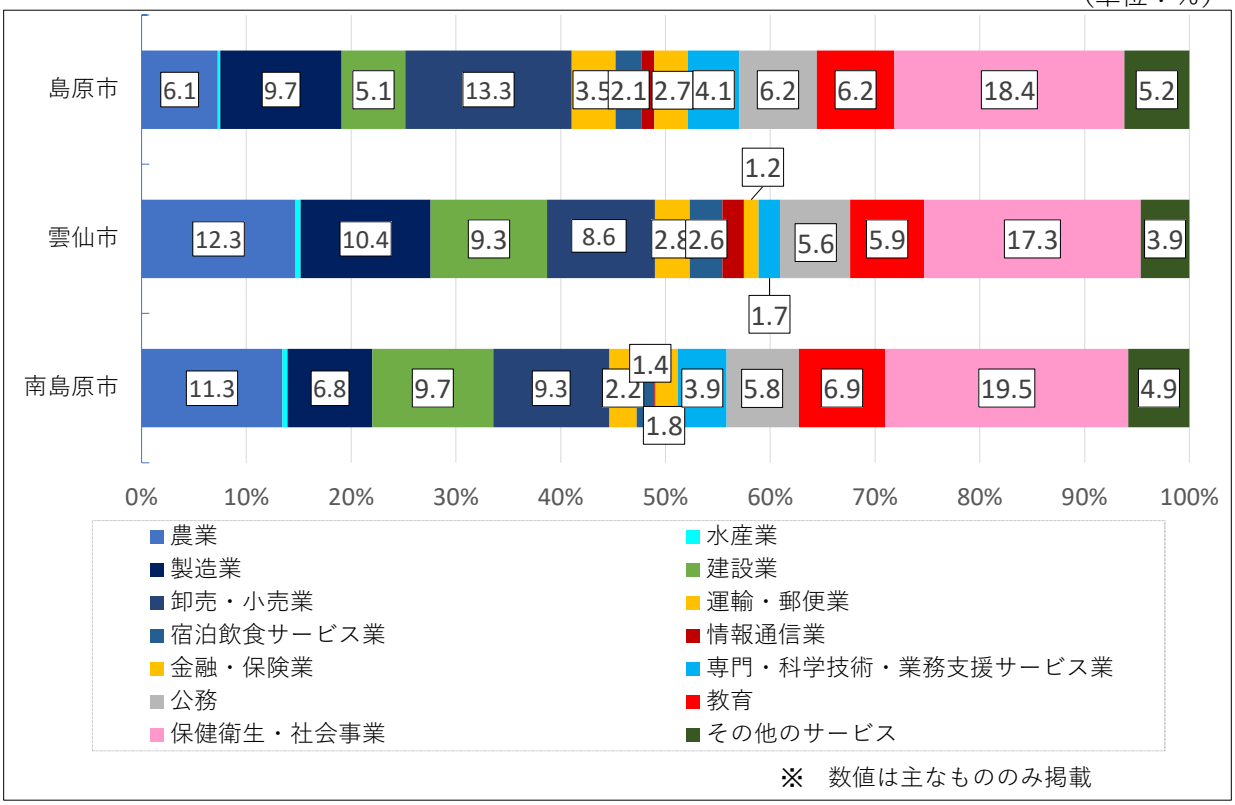
（単位：百万円）

	項目	島原市	雲仙市	南島原市
(1)	農業	7,864	13,431	10,952
(2)	林業	297	633	1,148
(3)	水産業	296	412	395
(4)	鉱業	-	-	133
(5)	製造業	12,421	11,323	6,601
(6)	電気・ガス・水道・廃棄物処理業	6,149	3,134	831
(7)	建設業	6,514	10,099	9,416
(8)	卸売・小売業	17,166	9,341	9,050
(9)	運輸・郵便業	4,450	3,043	2,123
(10)	宿泊飲食サービス業	2,646	2,869	1,361
(11)	情報通信業	1,298	1,839	136
(12)	金融・保険業	3,415	1,269	1,729
(13)	不動産業	14,381	13,781	13,271
(14)	専門・科学技術・業務支援サービス業	5,225	1,893	3,822
(15)	公務	7,998	6,129	5,663
(16)	教育	7,967	6,432	6,710
(17)	保健衛生・社会事業	23,641	18,833	18,988
(18)	その他サービス業	6,632	4,223	4,734
(19)	輸入品に課される税・関税等	275	233	208
	合計	128,635	108,917	97,271

3．産業、経済

【総生産割合の比較】（令和2年度）

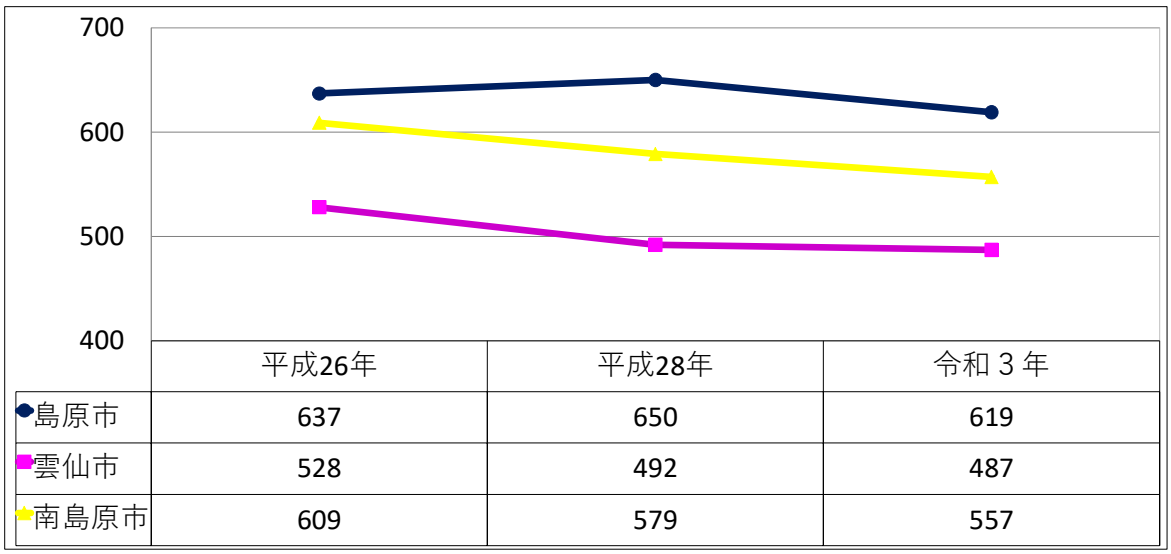
（単位：%）



3．産業、経済

（３）卸売業、小売業

①　事業所数の推移　　（単位：事業所）



	平成26年	平成28年	令和３年
島原市	637	650	619
雲仙市	528	492	487
南島原市	609	579	557

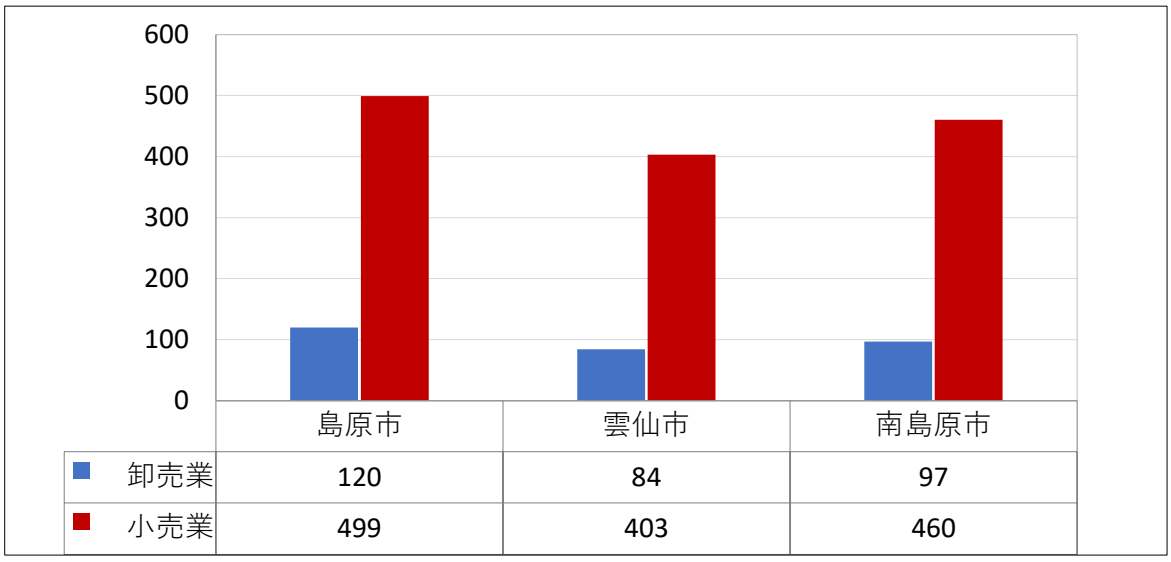
島原市は、平成２８年から令和３年にかけて減少した。

【事業所数の割合】　　（単位：事業所）

	平成26年	平成28年	令和３年
長崎県	14,231	14,737	13,641
島原市の割合	4.5%	4.4%	4.5%
半島３市	1,774	1,721	1,663
島原市の割合	36.0%	37.8%	37.2%

島原市の割合は、長崎県内および半島３市で横ばいが続く。

【事業所数の比較】　（令和３年）　　（単位：事業所）



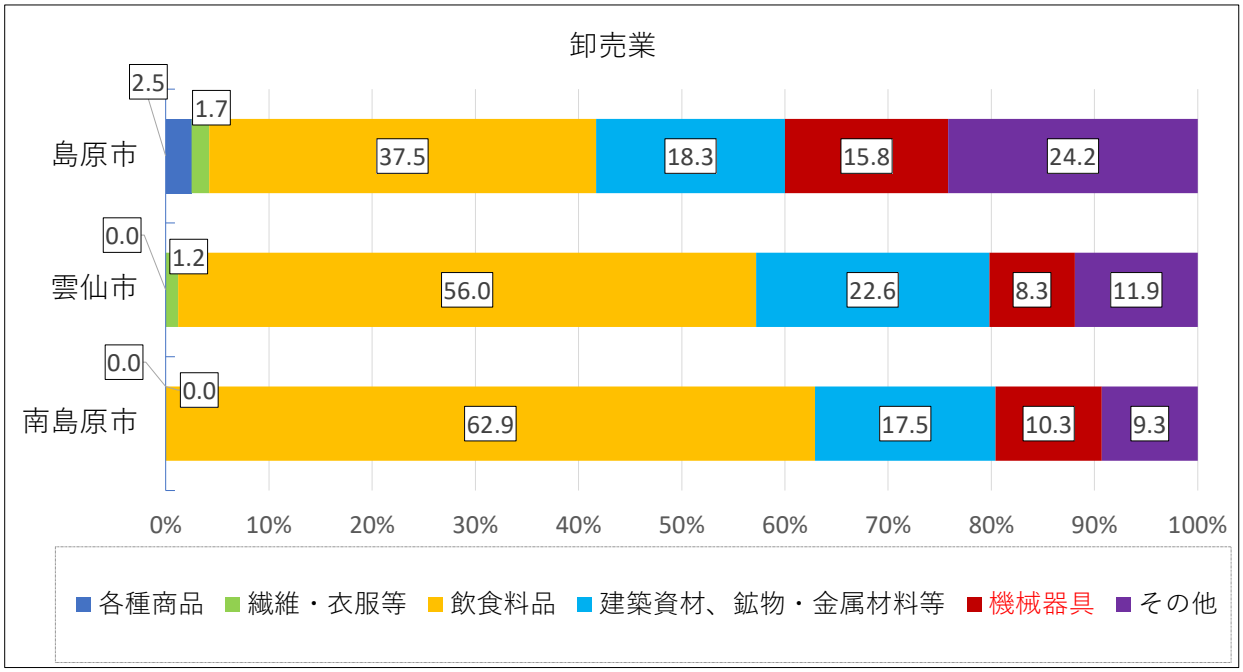
	島原市	雲仙市	南島原市
卸売業	120	84	97
小売業	499	403	460

島原市は、卸売業も小売業も事業所数が一番多い。

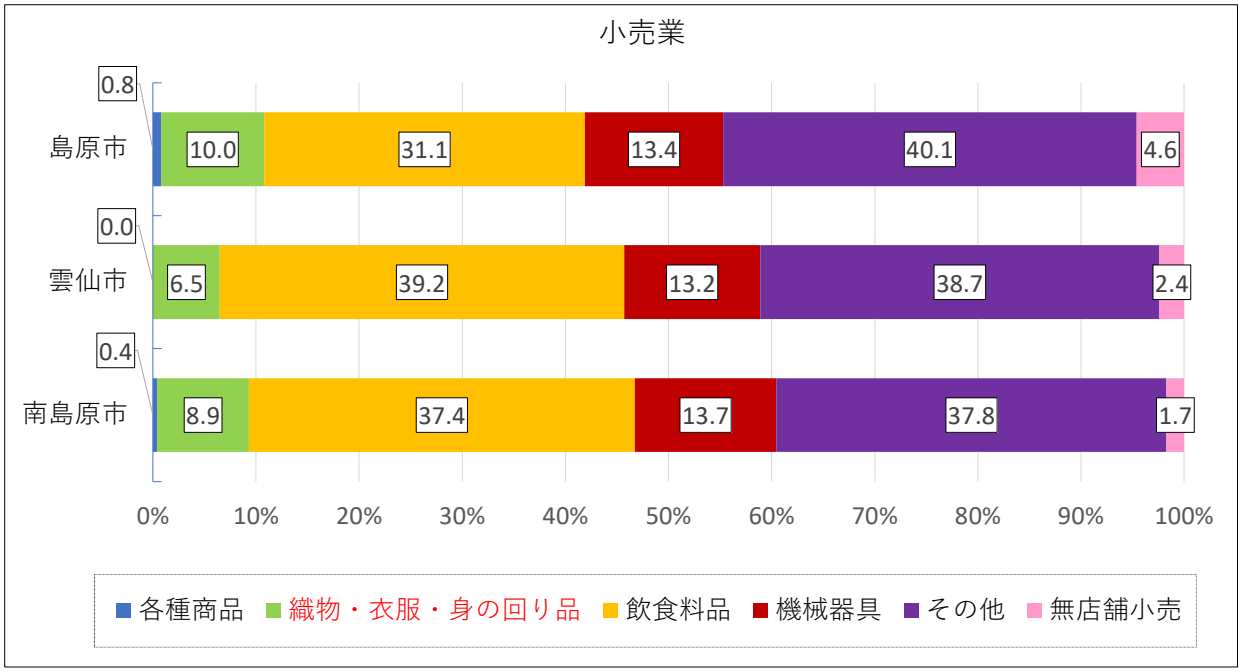
3．産業、経済

【業種別事業所数の割合】　（令和３年）

（単位：％）



（単位：％）

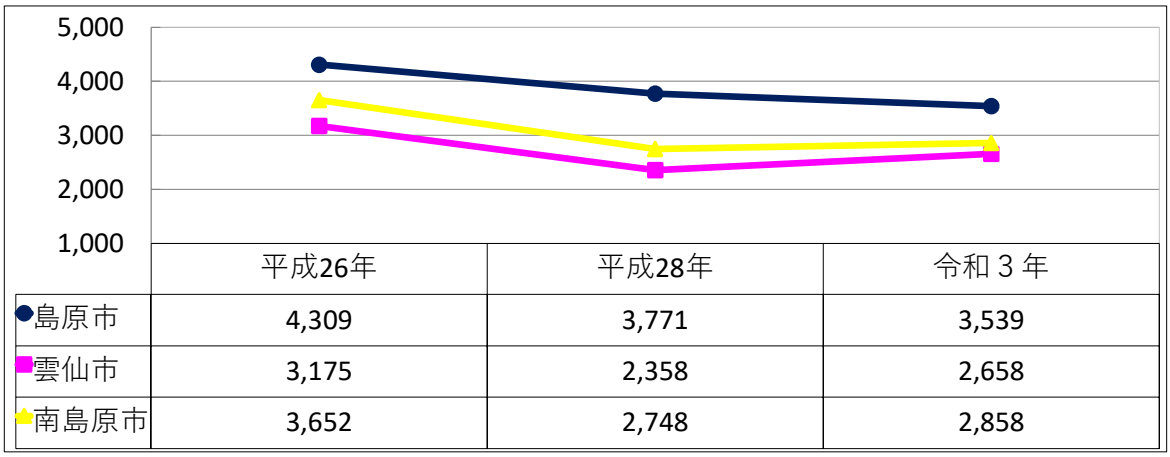


島原市は、卸売業については、機械器具の占める割合が、小売業については織物・衣服・身の回り品の占める割合が、半島３市の中で一番高い。

3．産業、経済

② 従業者数の推移 （令和３年）

（単位：人）



	平成26年	平成28年	令和３年
島原市	4,309	3,771	3,539
雲仙市	3,175	2,358	2,658
南島原市	3,652	2,748	2,858

令和３年の従業者数は、島原市は減少している。

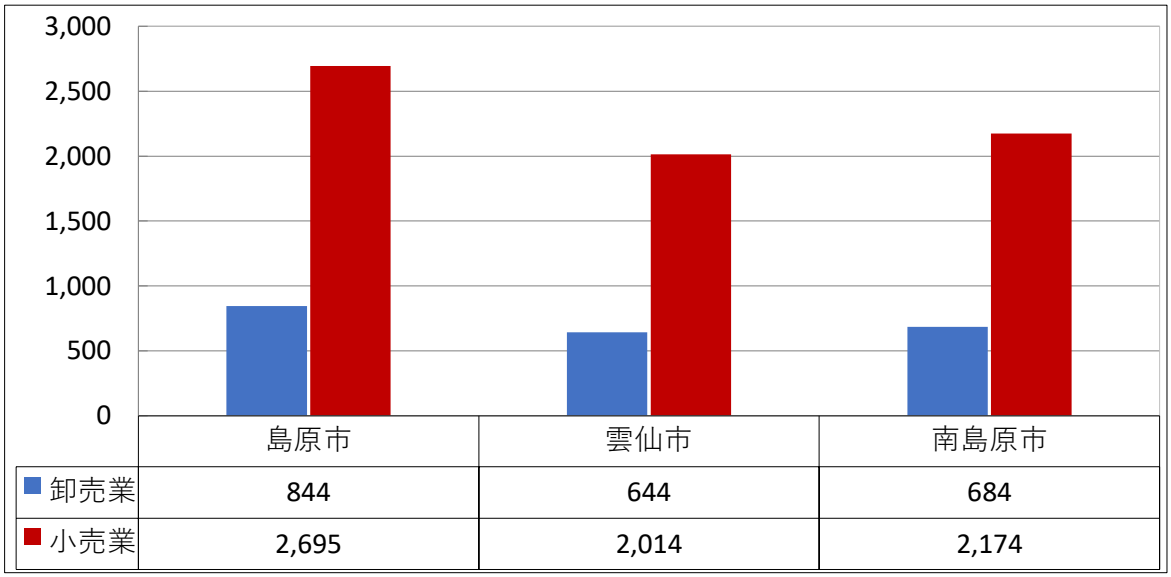
【従業者数の割合】

（単位：人）

	平成２６年	平成２８年	令和３年
長崎県	90,933	95,219	93,943
島原市の割合	4.7%	4.0%	3.8%
半島３市	8,723	8,877	9,055
島原市の割合	39.1%	42.5%	39.1%

【従業者数の比較】 （令和３年）

（単位：人）

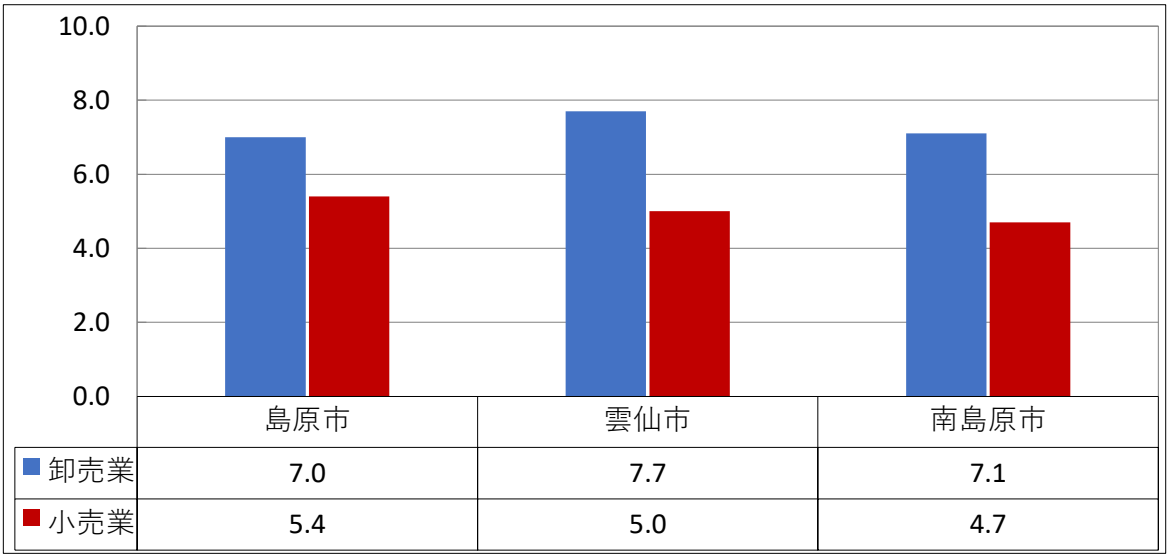


	島原市	雲仙市	南島原市
卸売業	844	644	684
小売業	2,695	2,014	2,174

島原市は、卸売業も小売業も従業者数が一番多い。

3．産業、経済

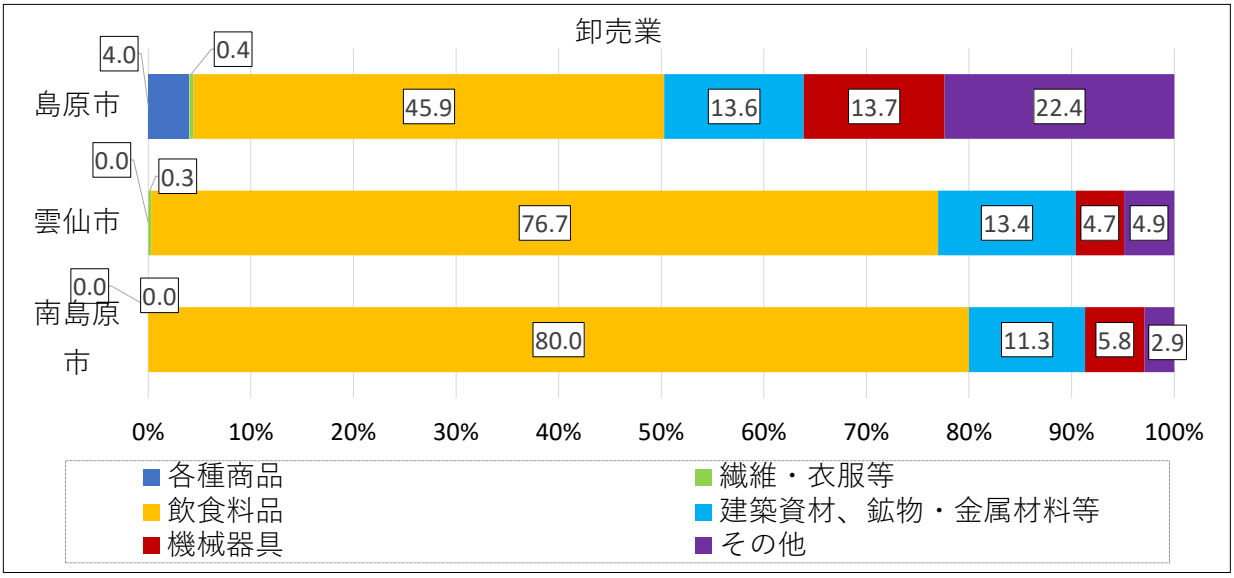
【１事業所あたりの従業者数】（令和３年）　（単位：人）



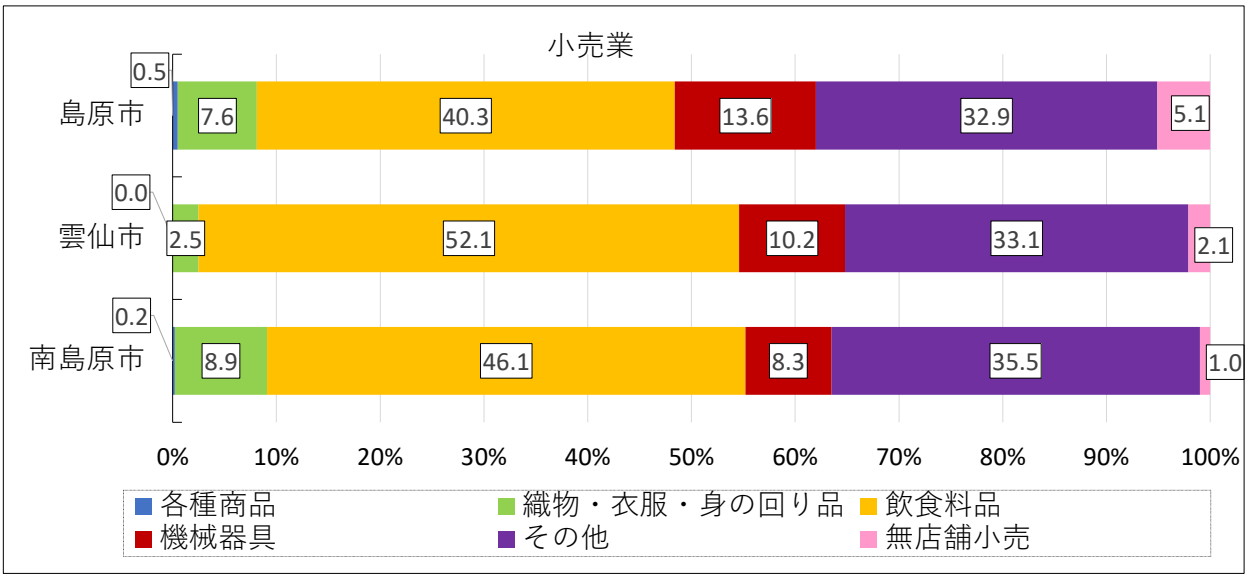
	島原市	雲仙市	南島原市
卸売業	7.0	7.7	7.1
小売業	5.4	5.0	4.7

3．産業、経済

【業種別従業者数の割合】（令和３年）　　（単位：％）



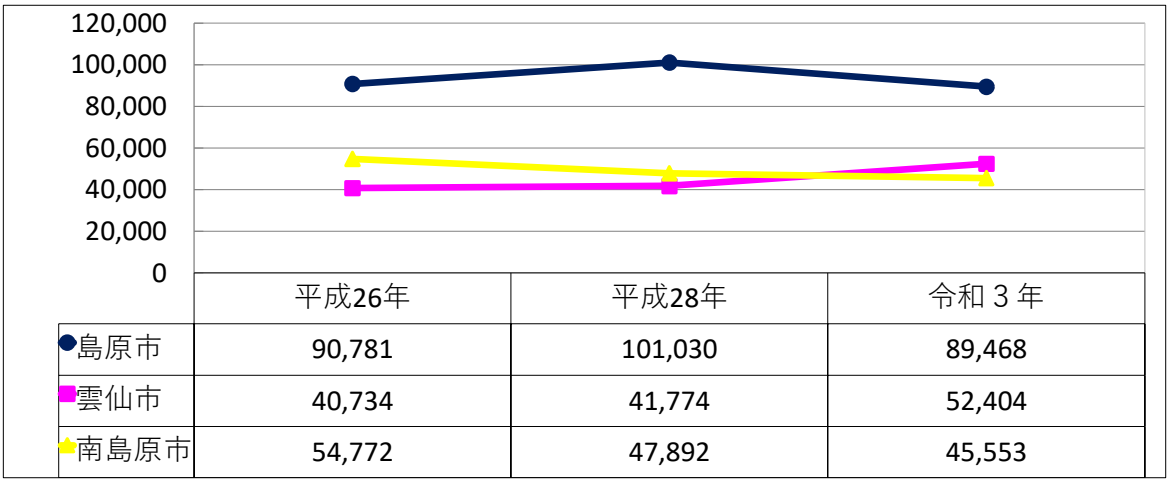
（単位：％）



島原市は、卸・小売業ともに機械器具の従業者数の割合が半島３市の中で一番高い。

3．産業、経済

③　年間販売額の推移　　（単位：百万円）



	平成26年	平成28年	令和３年
島原市	90,781	101,030	89,468
雲仙市	40,734	41,774	52,404
南島原市	54,772	47,892	45,553

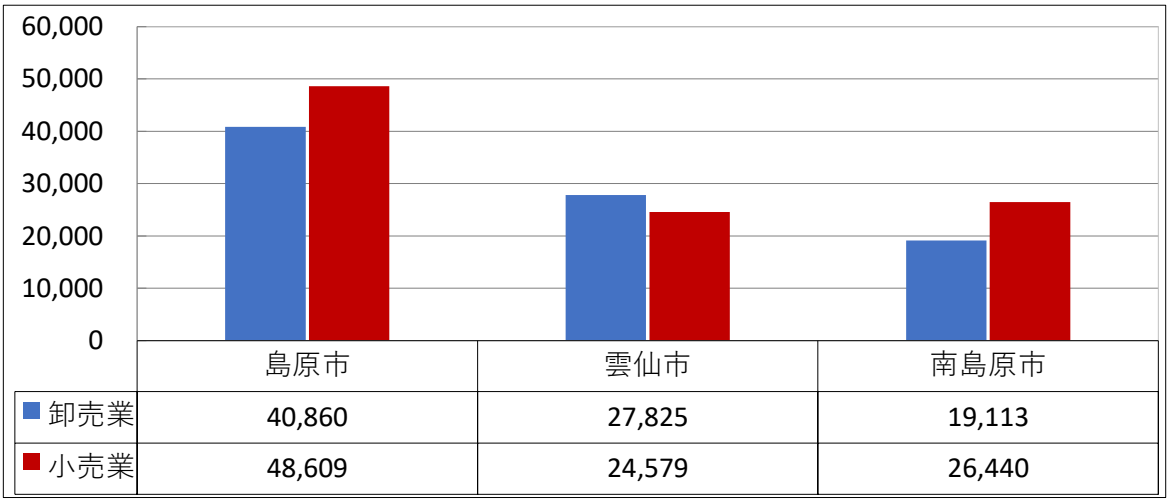
島原市の令和３年販売額は、平成２８年に比べると、大きく減少している。

【年間商品販売額の割合】　　（単位：百万円）

	平成26年	平成28年	令和３年
長崎県	2,787,832	2,986,949	2,691,621
島原市の割合	3.3%	3.4%	3.3%
半島３市	186,287	190,696	187,425
島原市の割合	48.7%	53.0%	47.7%

長崎県内、半島３市における島原市の割合は、減少している。

【年間商品販売額の比較】（令和３年）　　（単位：百万円）

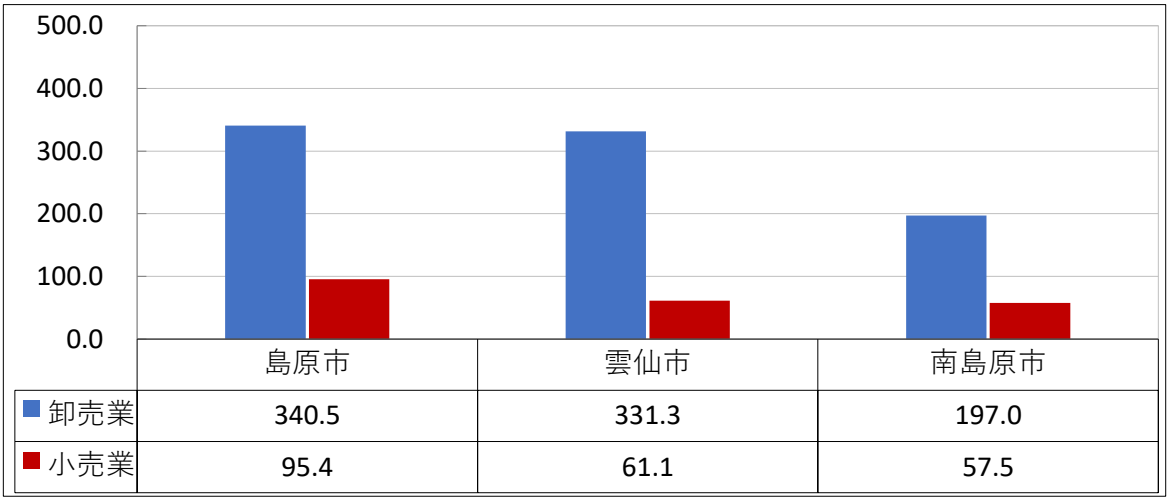


	島原市	雲仙市	南島原市
卸売業	40,860	27,825	19,113
小売業	48,609	24,579	26,440

半島３市の中で、島原市が卸・小売業とも販売額が一番高い。
また、雲仙市だけが、卸売業の販売額が小売業の販売額よりも高くなっている。

3．産業、経済

【１事業所あたりの年間商品販売額】（令和３年）　（単位：百万円）

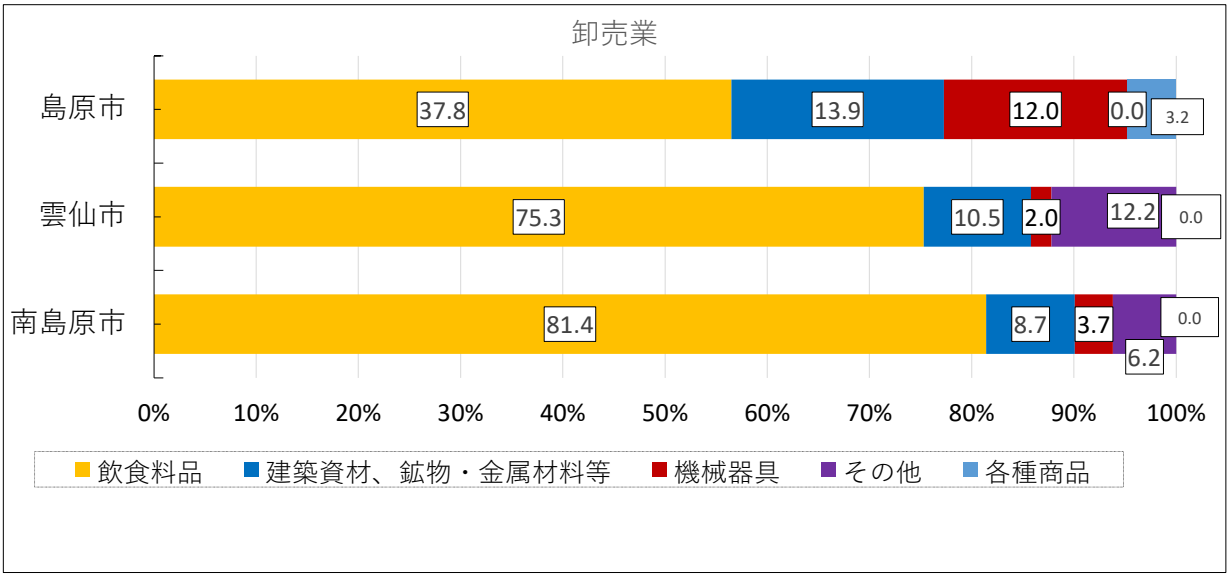


	島原市	雲仙市	南島原市
卸売業	340.5	331.3	197.0
小売業	95.4	61.1	57.5

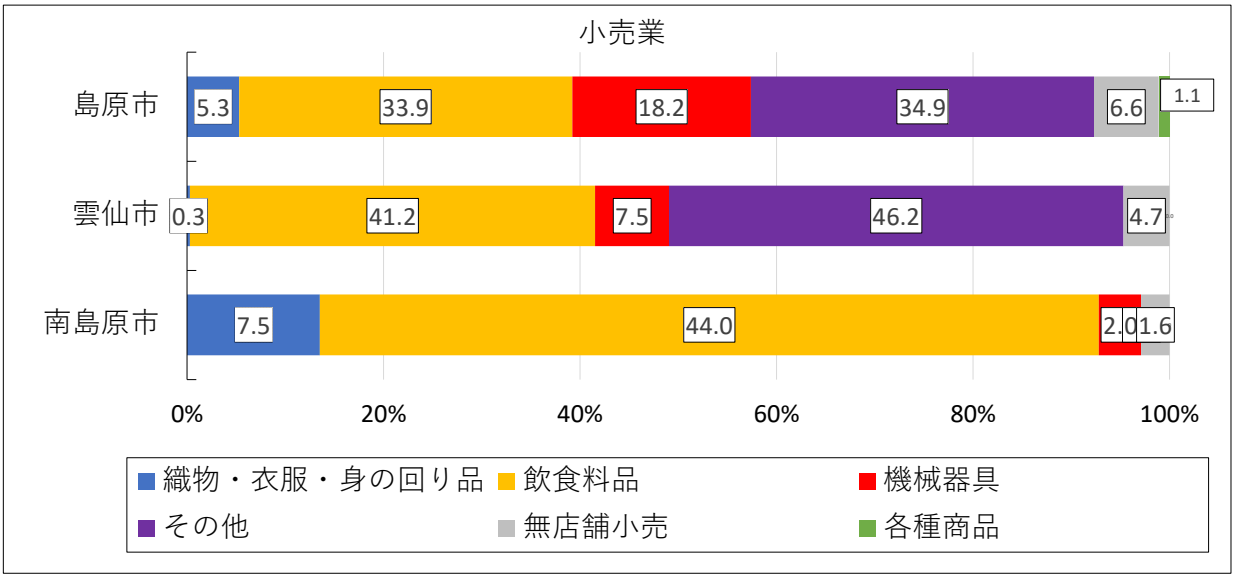
3．産業、経済

【業種別商品販売額の割合】（令和３年）

（単位：％）



（単位：％）



島原市は、卸・小売業ともに、半島３市の中で機械器具の占める割合が高い。

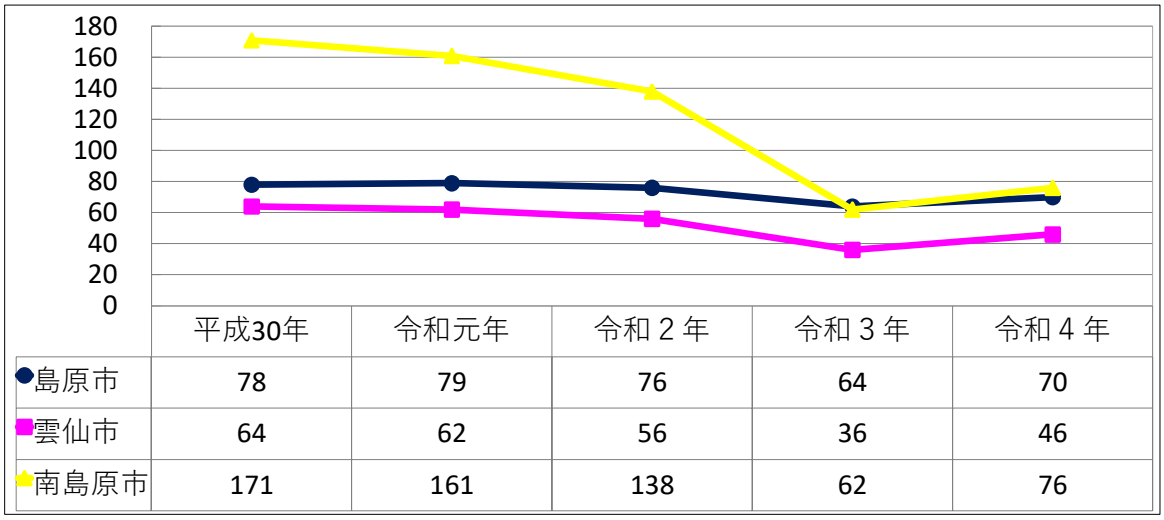
3. 産業、経済（製造業）

（４）製造業

①　事業所の状況

【事業所数の推移（従業員４人以上】

（単位：事業所）



	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
島原市	78	79	76	64	70
雲仙市	64	62	56	36	46
南島原市	171	161	138	62	76

事業所数は３市とも増加。

※令和３年の数値は経済センサス-活動調査（製造業）
　令和４年は経済構造実態調査（製造業事業所）の集計結果

【事業所の割合】

（単位：%）

	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
長崎県	1,638	1,640	1,581	1,386	1,646
島原市の割合	4.8%	4.8%	4.8%	4.6%	4.3%
半島３市	313	302	270	162	192
島原市の割合	24.9%	26.2%	17.1%	39.5%	36.5%

3. 産業、経済（製造業）

【業種別事業所数の比較】　（令和４年）　（単位：事業所）

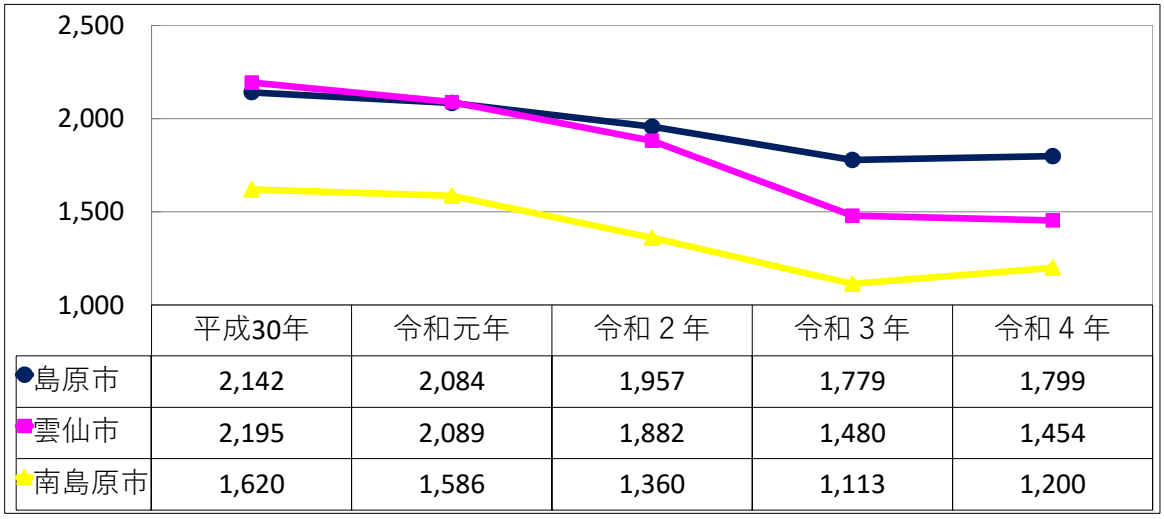
項　　目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	42	16	41
飲料・たばこ・飼料製造業	5	3	3
繊維工業	6	9	11
木材・木製品製造業	1	1	3
家具・装備品製造業	1	2	1
石油製品・石炭製品製造業	-	2	-
印刷・同関連業	2	2	2
化学工業　（雲仙市,南島原市　プラスチック製品製造業）	-	1	1
窯業・土石製品製造業	4	5	7
鉄鋼業	3	-	-
金属製品製造業	2	2	3
はん用機械器具製造業	1	-	1
生産用機械器具製造業	1	2	-
電子部品・デバイス・電子回路製造業	-	-	1
電気機械器具製造業	-	-	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-
輸送用機械器具製造業	1	1	2
その他の製造業	1	-	-
合　　計	70	46	76

半島３市の事業所数は食品製造業が多いが、前年から増加した。

3. 産業、経済（製造業）

② 従業員の現状

【従業者数の推移】 （単位：人）



	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
島原市	2,142	2,084	1,957	1,779	1,799
雲仙市	2,195	2,089	1,882	1,480	1,454
南島原市	1,620	1,586	1,360	1,113	1,200

従業員数については、島原市と南島原市は増加した。

※令和３年の数値は経済センサス-活動調査（製造業）、
令和４年は経済構造実態調査（製造業事業所）の集計結果

【従業者数の割合】 （単位：%）

	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
長崎県	57,358	56,145	54,630	52,842	53,990
島原市の割合	3.7%	3.7%	3.6%	3.4%	3.3%
半島３市	5,957	5,759	5,199	4,372	4,453
島原市の割合	36.0%	36.2%	37.6%	41.0%	40.3%

3. 産業、経済（製造業）

【業種別従業者数の比較】　（令和4年）

（単位：人）

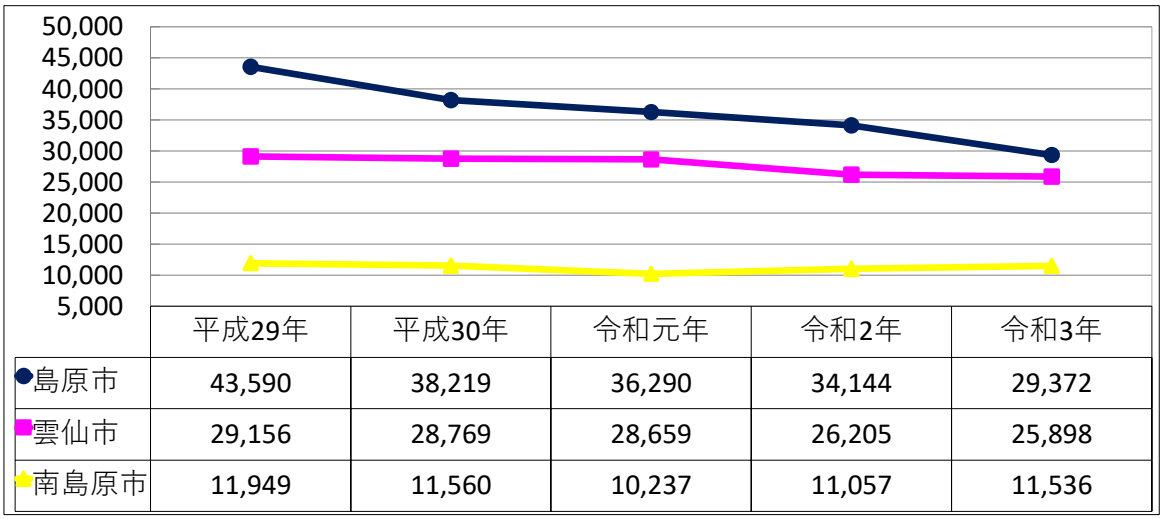
項　　目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	950	529	585
飲料・たばこ・飼料製造業	49	12	10
繊維工業	355	646	258
木材・木製品製造業	30	3	18
家具・装備品製造業	8	14	6
印刷・同関連業	16	6	11
化学工業（雲仙市、南島原市　プラスチック製品製造業）	-	8	4
石油製品・石炭製品製造業	-	7	-
窯業・土石製品製造業	51	83	88
鉄鋼業	64	-	-
金属製品製造業	35	46	26
はん用機械器具製造業	142	-	68
生産用機械器具製造業	22	87	-
電子部品・デバイス・電子回路製造業	-	-	114
電気機械器具製造業	-	-	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-
輸送用機械器具製造業	69	13	12
その他の製造業	8	-	-
合　　計	1,799	1,454	1,200

島原市の従業者数の半数は、食料品製造業に従事している。

3. 産業、経済（製造業）

③ 製造品出荷額

【製造品出荷額の推移】 （単位：百万円）



	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
島原市	43,590	38,219	36,290	34,144	29,372
雲仙市	29,156	28,769	28,659	26,205	25,898
南島原市	11,949	11,560	10,237	11,057	11,536

製造品出荷額は南島原市が増加している。

※令和３年の数値は経済構造実態調査（製造業事業所）の結果を掲載
製造品出荷額については令和3年1月～12月の実績。

【製造品出荷額の割合】 （単位：百万円　%）

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和３年
長崎県	1,829,520	1,788,961	1,719,212	1,622,930	1,517,657
島原市の割合	2.4%	2.1%	2.1%	2.1%	1.9%
半島３市	84,695	78,548	75,186	71,406	66,806
島原市の割合	51.5%	48.7%	48.2%	48.0%	43.9%

3. 産業、経済（製造業）

【製造品出荷額の比較】　（令和3年）　　（単位：百万円）

項　　目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	15,144	12,513	6,315
飲料・たばこ・飼料製造業	5,506	81	73
繊維工業	1,666	7,731	1,422
木材・木製品製造業	X	X	243
家具・装備品製造業	X	X	X
印刷・同関連業	X	X	X
化学工業（雲仙市、南島原市　プラスチック製品製造業）	-	X	X
石油製品・石炭製品製造業	-	X	-
窯業・土石製品製造業	401	647	1,130
鉄鋼業	848	-	-
金属製品製造業	X	X	577
はん用機械器具製造業	X	-	X
生産用機械器具製造業	X	X	-
電子部品・デバイス・電子回路製造業	-	-	X
電気機械器具製造業	-	-	-
情報通信機械器具製造業	-	-	-
輸送用機械器具製造業	X	X	X
その他の製造業	X	-	-
合　　計（※注）	29,372	25,899	11,536

（※注）表中の「X」は、事業所の秘密が漏れないよう秘匿処理したものであるため、合計額が一致しない。

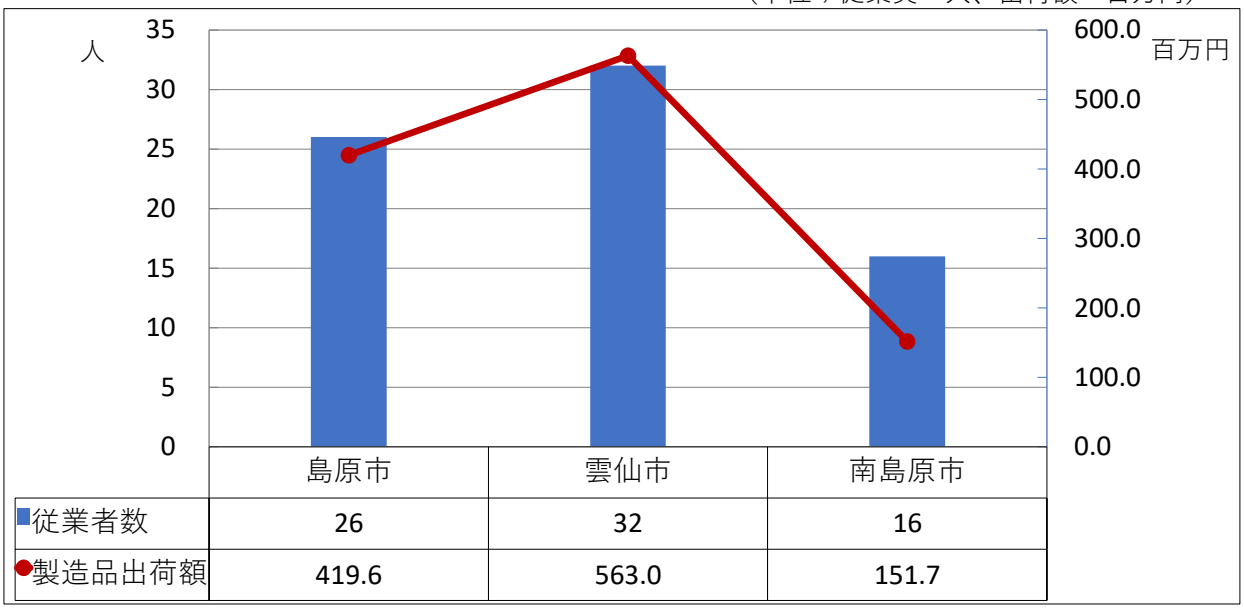
半島３市の出荷額を比較すると、島原市が一番多いが、飲料・たばこ・飼料製造業が前年に比べ大きく減少している。

3. 産業、経済（製造業）

【１事業所あたりの従業員数と製造品出荷額】

（従業員数：令和4年、製造品出荷額：令和3年）

（単位；従業員：人、出荷額：百万円）



	島原市	雲仙市	南島原市
従業者数	26	32	16
製造品出荷額	419.6	563.0	151.7

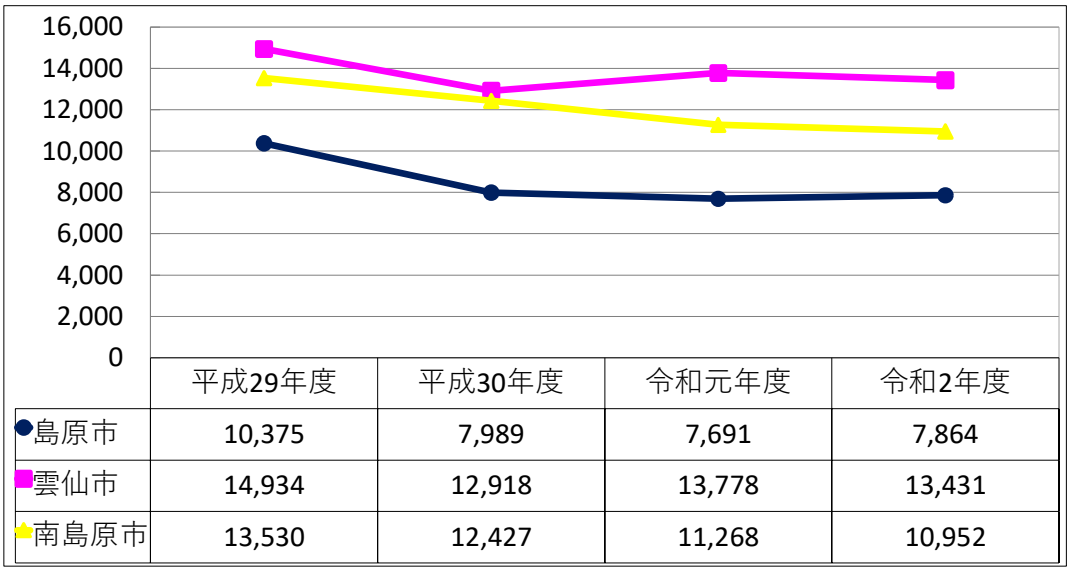
１事業所あたりの従業者数、製造品出荷額は雲仙市が多い。

3. 産業、経済（農林業）

（５）農　業

①　農業総生産額の推移

（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
島原市	10,375	7,989	7,691	7,864
雲仙市	14,934	12,918	13,778	13,431
南島原市	13,530	12,427	11,268	10,952

総生産額は、令和元年度と比較すると島原市のみ増加、他２市は減少した。

【農業総生産額の割合】

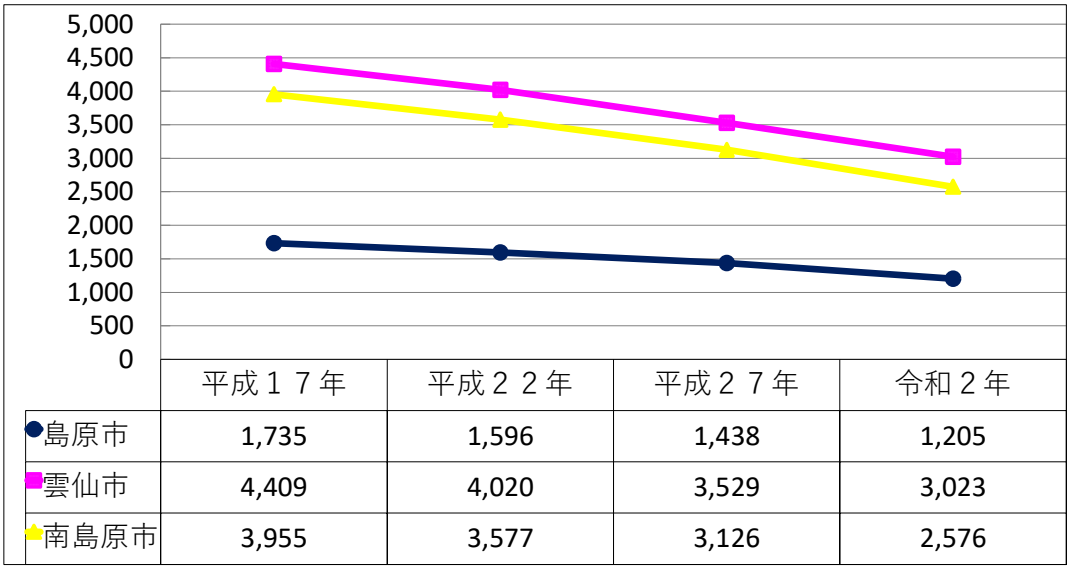
（単位：百万円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
長崎県	85,262	78,528	71,557	68,930
島原市の割合	12.2%	10.1%	10.7%	11.4%
半島３市	38,839	33,334	32,737	32,247
島原市の割合	26.7%	24.0%	23.5%	24.4%

長崎県内、半島３市における島原市の割合は、わずかに増加している。

②　総農家数の推移

（単位：戸）



	平成１７年	平成２２年	平成２７年	令和２年
島原市	1,735	1,596	1,438	1,205
雲仙市	4,409	4,020	3,529	3,023
南島原市	3,955	3,577	3,126	2,576

半島３市ともに、総農家数は減少している。

3. 産業、経済（農林業）

【総農家数の割合】

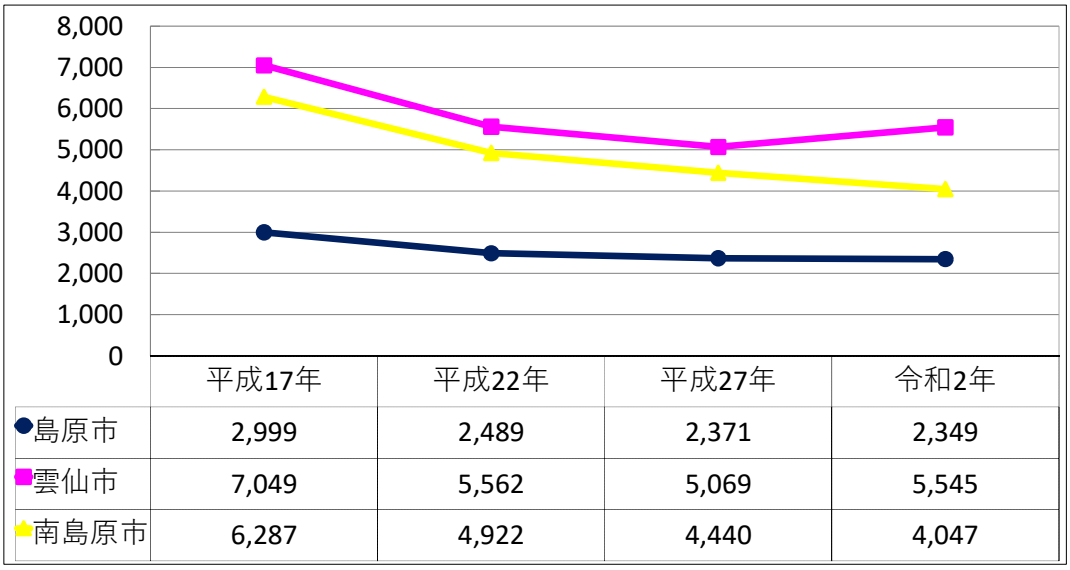
（単位：戸）

	平成17年	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	42,127	38,745	33,802	28,282
島原市の割合	4.1%	4.1%	4.3%	4.3%
半島３市	10,099	9,193	8,093	6,804
島原市の割合	17.2%	17.4%	17.8%	17.8%

半島３市における島原市の割合は、ほぼ横ばいである。

③　農業従事者数（自営農業に従事した世帯員数）の推移

（単位：人）



	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
島原市	2,999	2,489	2,371	2,349
雲仙市	7,049	5,562	5,069	5,545
南島原市	6,287	4,922	4,440	4,047

※　参考（2020年農林業センサス）

雇用労働者数は、島原市1,934人、雲仙市3,435人、南島原市3,363人

基幹農業従事者（ふだん仕事としておもに自営農業に従事）は、島原市1,914人

雲仙市3,779人　南島原市3,296人

【農業従事者数の割合】

（単位：人）

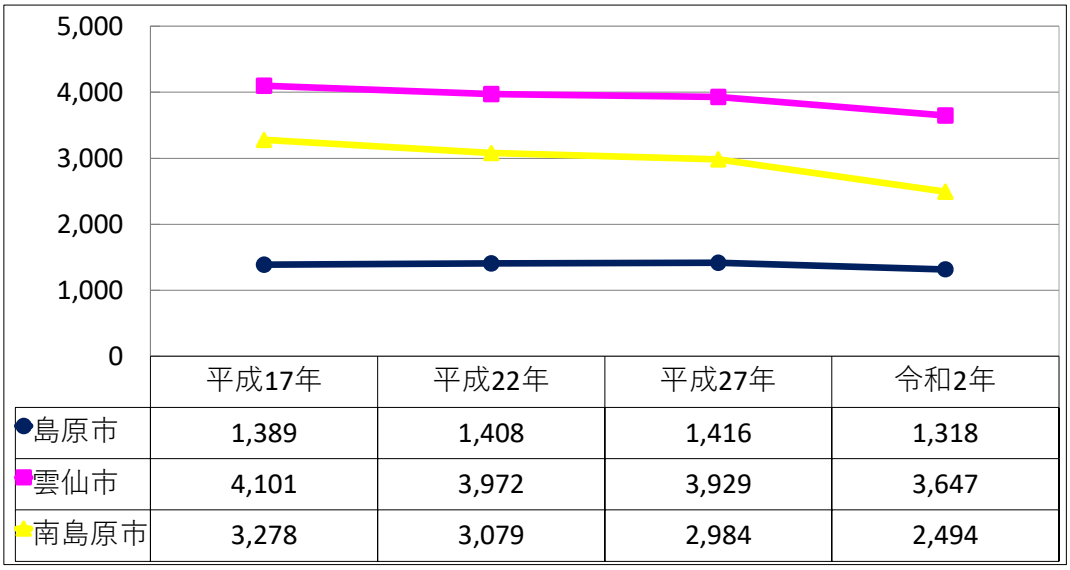
	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
長崎県	52,661	40,936	34,440	25,107
島原市の割合	5.7%	6.1%	6.9%	9.3%
半島３市	16,335	12,973	11,880	11,941
島原市の割合	18.4%	19.2%	20.0%	19.6%

長崎県内における島原市の割合は、増加している。

3. 産業、経済（農林業）

④ 経営耕地面積

（単位：ha）



	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
島原市	1,389	1,408	1,416	1,318
雲仙市	4,101	3,972	3,929	3,647
南島原市	3,278	3,079	2,984	2,494

半島３市共に縮小傾向にある。

【経営耕地面積の割合】

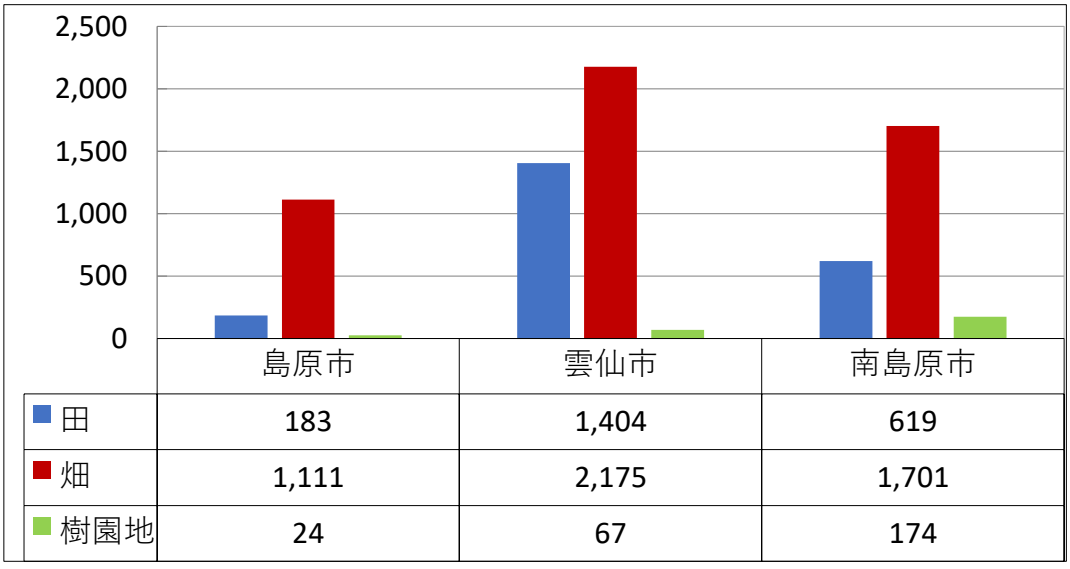
（単位：ha）

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
長崎県	32,595	31,010	30,756	27,146
島原市の割合	4.3%	4.5%	4.6%	4.9%
半島３市	8,768	8,459	8,329	7,459
島原市の割合	15.8%	16.6%	17.0%	17.7%

長崎県内及び半島３市における島原市の割合は、増加している。

【経営耕地面積の比較】　（令和２年）

（単位：ha）

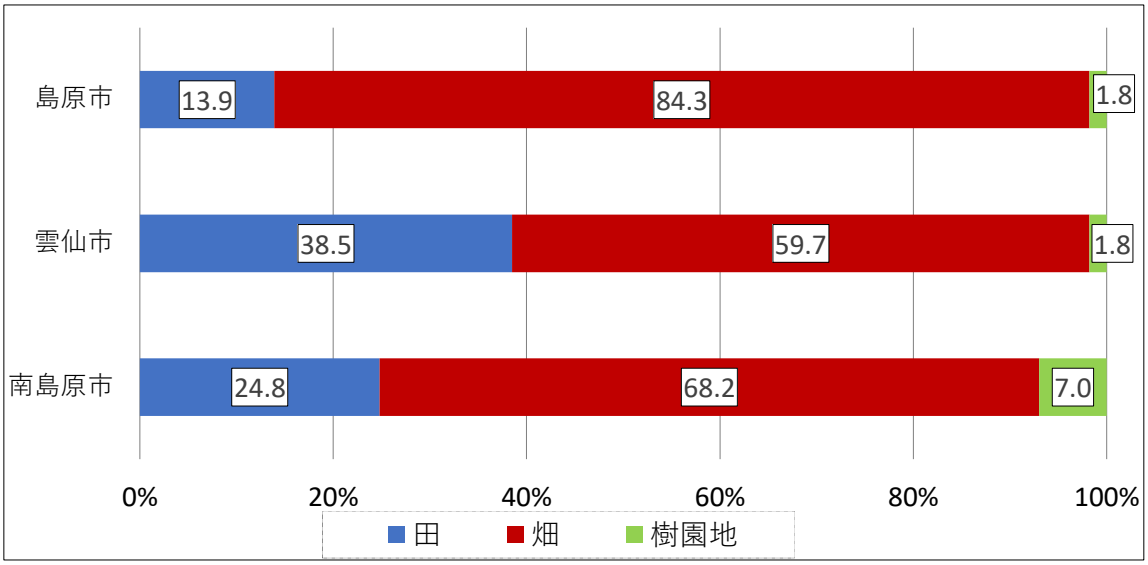


	島原市	雲仙市	南島原市
田	183	1,404	619
畑	1,111	2,175	1,701
樹園地	24	67	174

半島３市の面積は、畑が最も多く、次いで田、樹園地の順となっている。

3. 産業、経済（農林業）

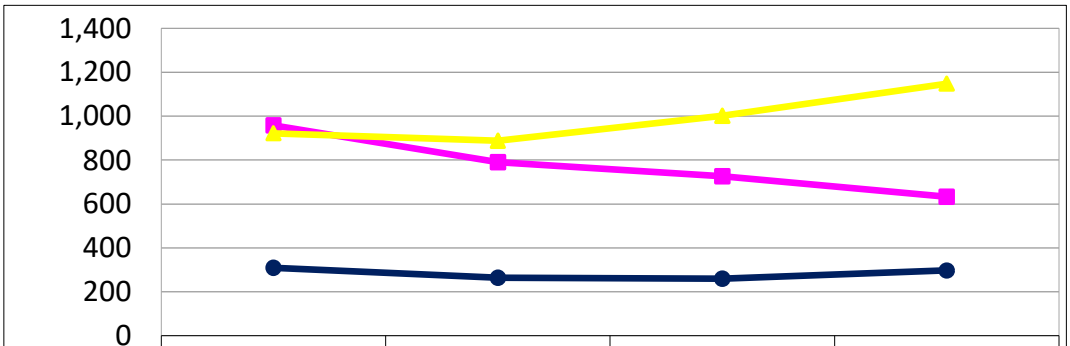
【経営耕地面積割合の比較】　（令和２年）　（単位：%）



半島３市の面積の割合は、３市とも畑の占める割合が一番高い。特に島原市は、約８割を占め、特徴的である。

（６）林　業

①　林業総生産額の推移　（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
島原市	310	264	260	297
雲仙市	958	790	726	633
南島原市	922	888	1,002	1,148

島原市、南島原市の令和２年度生産額は、前年と比べ増加した。

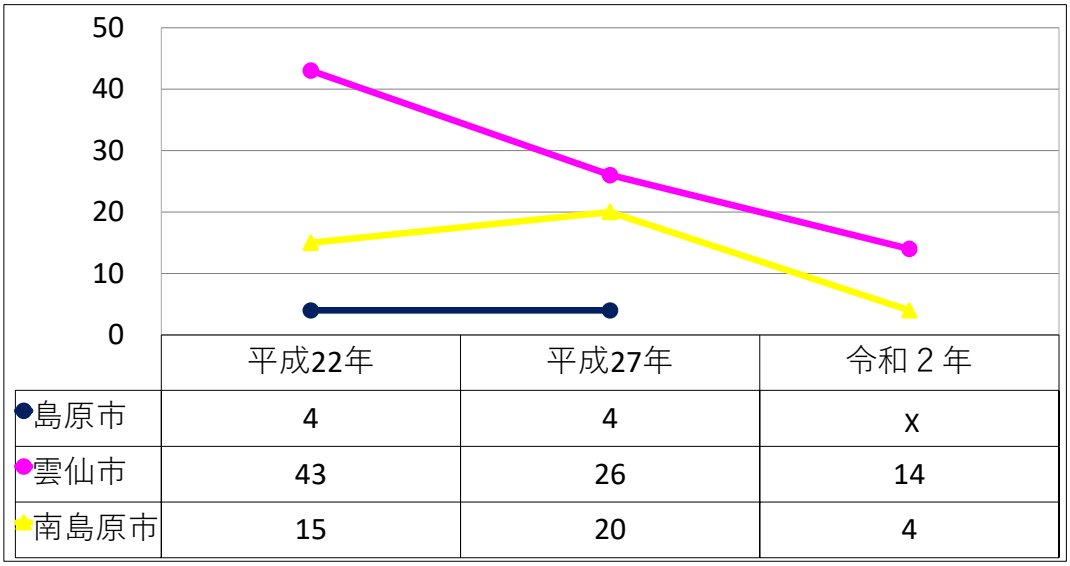
3. 産業、経済（農林業）

【林業総生産額の割合】　（単位：百万円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
長崎県	5,119	4,917	4,743	4,719
島原市の割合	6.1%	5.4%	5.5%	6.3%
半島３市	2,190	1,942	1,988	2,078
島原市の割合	14.2%	13.4%	13.1%	14.3%

長崎県内、半島３市における島原市の割合は、わずかに増加している。

② 林業経営体数の推移　（単位：経営体）



	平成22年	平成27年	令和２年
島原市	4	4	X
雲仙市	43	26	14
南島原市	15	20	4

半島３市の経営体数は大幅に減少している。

※島原市は、経営体数が少ないため秘匿処理され、数値が公表されていない。

【林業経営体数の割合】　（単位：経営体）

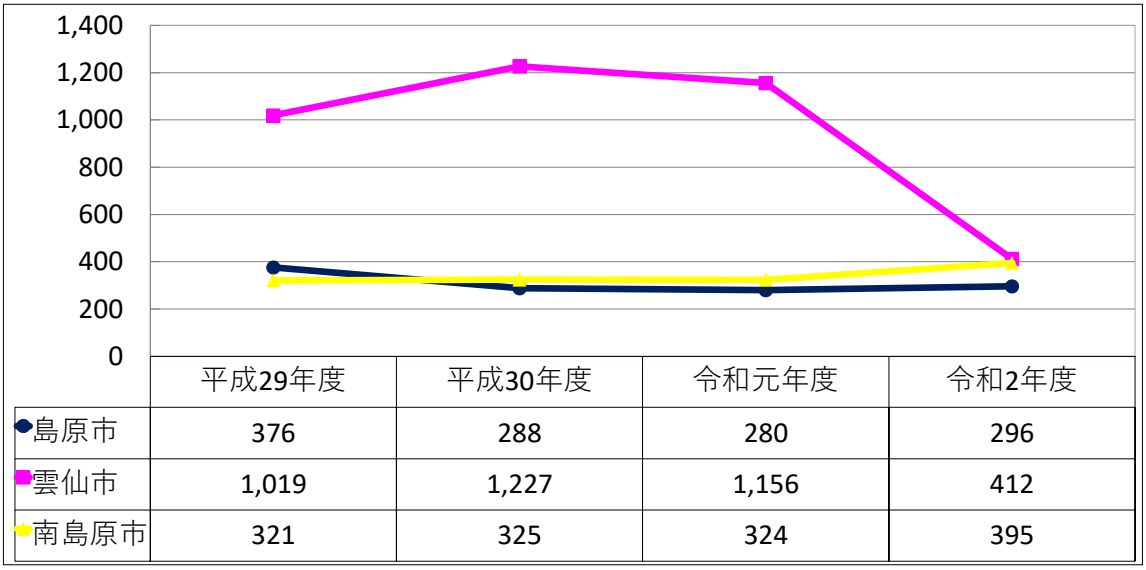
	平成22年	平成27年	令和２年
長崎県	675	559	178
島原市の割合	0.6%	0.7%	-
半島３市	62	50	-
島原市の割合	6.5%	8.0%	-

3. 産業、経済（水産業）

（７）水産業

①　水産業総生産額の推移

（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
島原市	376	288	280	296
雲仙市	1,019	1,227	1,156	412
南島原市	321	325	324	395

島原市、南島原市の水産業総生産額は横ばいを続けているが、雲仙市は令和２年度大きく減少した。

【水産業総生産額の割合】

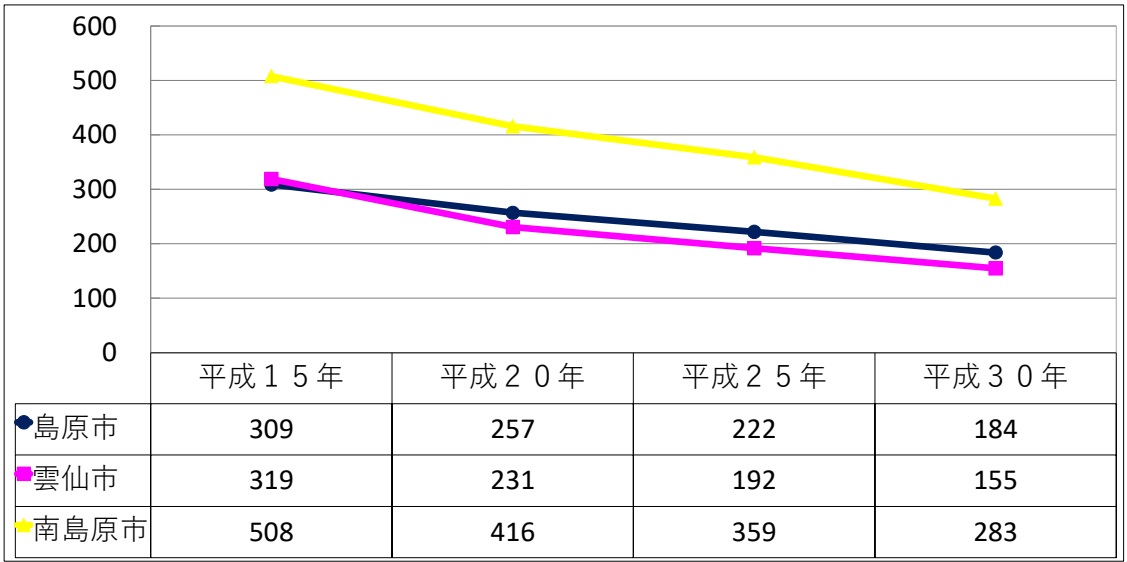
（単位：百万円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
長崎県	50,655	48,246	40,814	35,368
島原市の割合	0.7%	0.5%	0.7%	0.8%
半島3市	1,716	1,840	1,760	1,103
島原市の割合	0.22	16.0%	15.9%	26.8%

半島３市における島原市の割合は、増加している。

②　漁業経営体数の推移

（単位：経営体）



	平成１５年	平成２０年	平成２５年	平成３０年
島原市	309	257	222	184
雲仙市	319	231	192	155
南島原市	508	416	359	283

半島３市の経営体数は、平成２５年と比較すると約２割近く減少している。

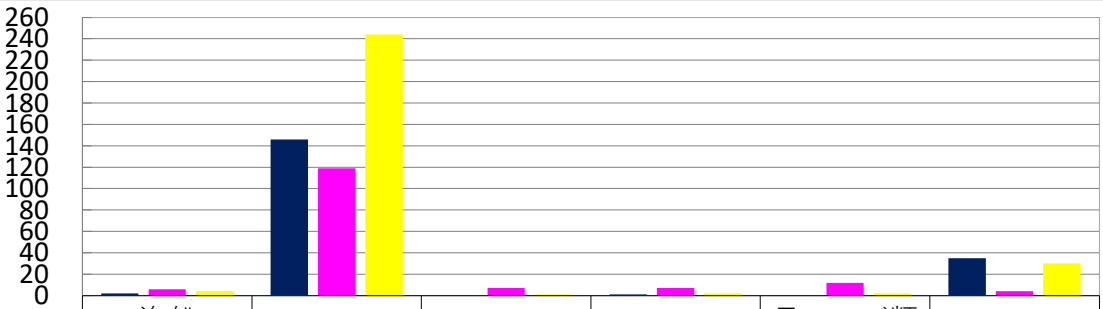
3. 産業、経済（水産業）

【漁業経営体数の割合】　　（単位：経営体）

	平成１５年	平成２０年	平成２５年	平成３０年
長崎県	10,756	8,849	7,690	5,998
島原市の割合	2.9%	2.9%	2.9%	3.1%
半島３市	1,136	904	773	622
島原市の割合	27.2%	28.4%	28.7%	29.6%

長崎県内及び半島３市における島原市の割合は、横ばいとなっている。

③　海面漁業に関する経営体数　（平成３０年）　　（単位：経営体）



	漁船非使用	漁船使用	小型定置網	魚類養殖	貝・エビ類養殖	海藻類養殖
島原市	2	146	0	1	0	35
雲仙市	6	119	7	7	12	4
南島原市	4	244	1	2	2	30

半島３市ともに、漁船による漁業が大半を占めている。島原市は、わかめ類やのり類などの海藻類養殖業が多い。

3. 産業、経済（農水産物）

（８）島原市の主な農水産物の出荷量、産出量

①　指定野菜の生産出荷量（令和3年）

（単位：ｔ）

	だいこん	にんじん	はくさい
島原市	24,600	17,850	11,800
長崎県	40,200	30,400	19,000
県内に占める割合	61.2%	58.7%	62.1%

②　海産物の年間産出量　（令和３年）

ア　がざみ類（天然）の年間漁獲量

（単位：ｔ）

がざみ類	長崎有明海区	（参考）橘湾海区
年間漁獲量	50	56

イ　くるまえび（天然）の年間漁獲量

（単位：ｔ）

くるまえび	長崎有明海区	（参考）橘湾海区
年間漁獲量	14	1

ウ　わかめ類（養殖）の年間収穫量

（単位：ｔ）

わかめ類	長崎有明海区	（参考）橘湾海区
年間収穫量	711	秘匿

エ　のり類（養殖）の年間収穫量

（単位：ｔ）

のり類	長崎有明海区	（参考）橘湾海区
年間収穫量	221	―

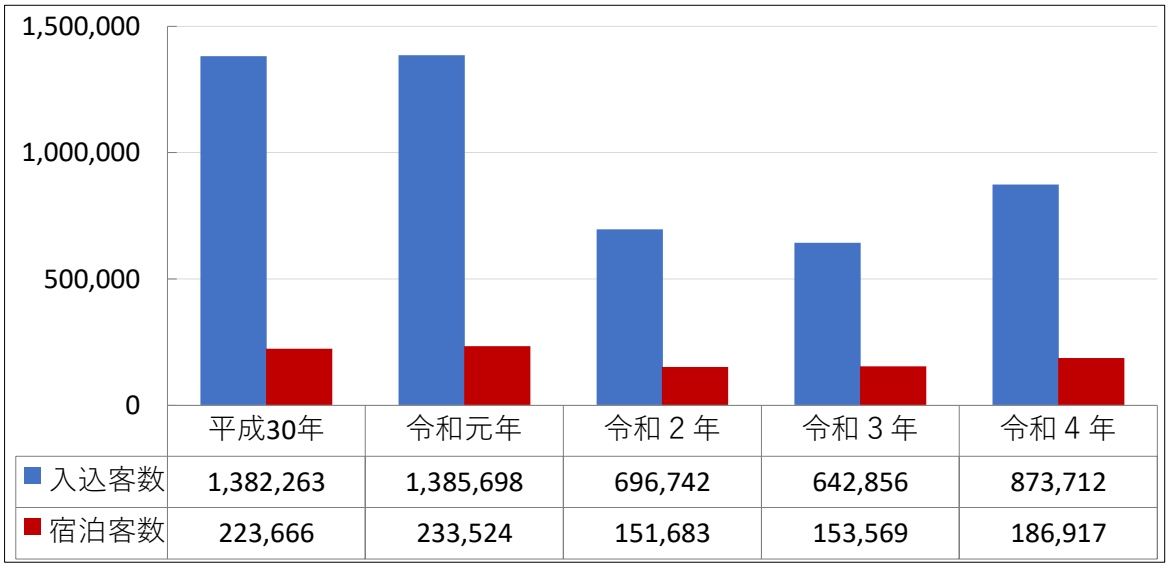
令和元年より、市町村別漁獲量は調査の見直しに伴い廃止。
令和4年度版から、漁獲量が把握できる最小の範囲として、小海区単位で掲載。
※長崎有明海区・・・島原市全域と、諫早市、雲仙市、南島原市（いずれも一部）
※橘湾海区・・・長崎市、諫早市、雲仙市、南島原市（いずれも一部）

4. 観光

（１）観光客数

①　入込客数及び宿泊客数

（単位：人）

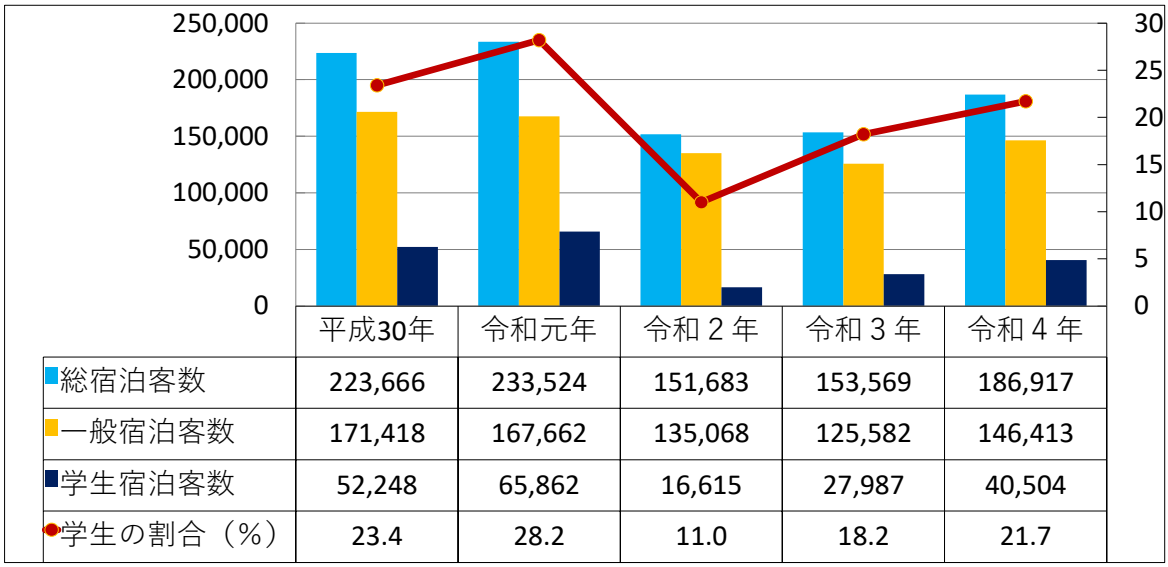


	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
入込客数	1,382,263	1,385,698	696,742	642,856	873,712
宿泊客数	223,666	233,524	151,683	153,569	186,917

令和２年以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、入込客数・宿泊客数ともに大幅に減少したが、令和４年は、全国旅行支援事業をはじめとする県や市の宿泊割キャンペーン実施等により、前年に比べ増加している。

②　宿泊客のうち学生宿泊客数

（単位：人、％）



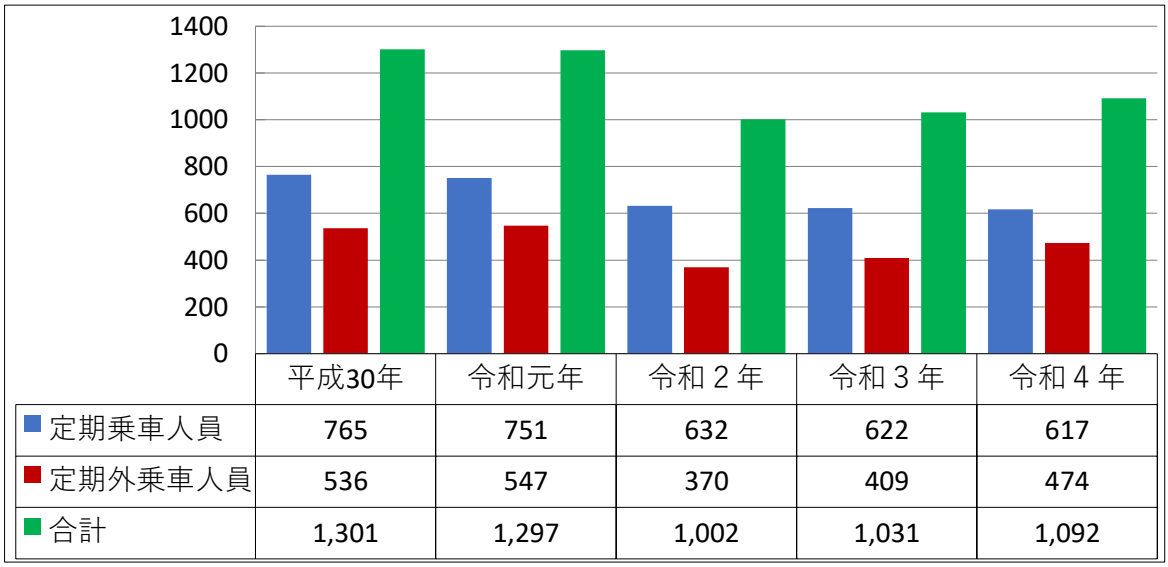
	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
総宿泊客数	223,666	233,524	151,683	153,569	186,917
一般宿泊客数	171,418	167,662	135,068	125,582	146,413
学生宿泊客数	52,248	65,862	16,615	27,987	40,504
学生の割合（％）	23.4	28.2	11.0	18.2	21.7

令和元年までは、総宿泊客数・学生（児童、小学生を含む）宿泊客数ともに、増加傾向にあったが、令和２年以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大幅に減少した。令和４年は、「近場志向」が高まったことにより、県内の修学旅行が増加している。

4. 観光

（２）公共交通機関利用状況

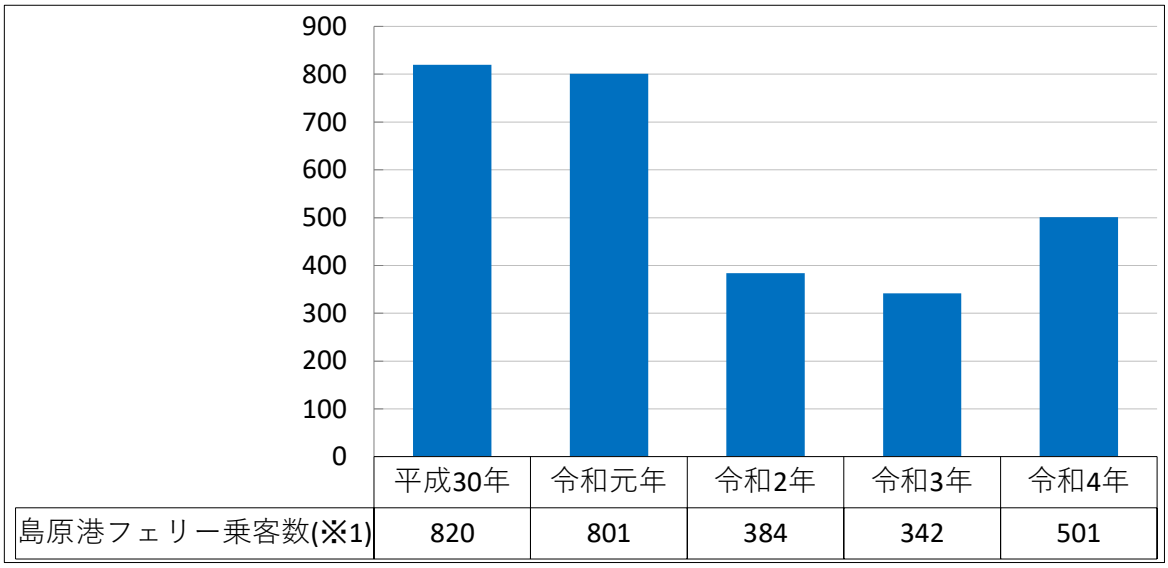
①　島原鉄道乗車人員数　　（単位：千人）



	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
定期乗車人員	765	751	632	622	617
定期外乗車人員	536	547	370	409	474
合計	1,301	1,297	1,002	1,031	1,092

定期外乗車人員は、令和２年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していたものの、徐々に回復している。一方、定期乗車人員は、少子化の影響により減少傾向が続いている。

②　島原港フェリー乗客数　　（単位：千人）



	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
島原港フェリー乗客数(※1)	820	801	384	342	501

島原港フェリー乗客数は令和２年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により減少しているが、令和4年は入込客数の増加に伴い、増加が見られた。

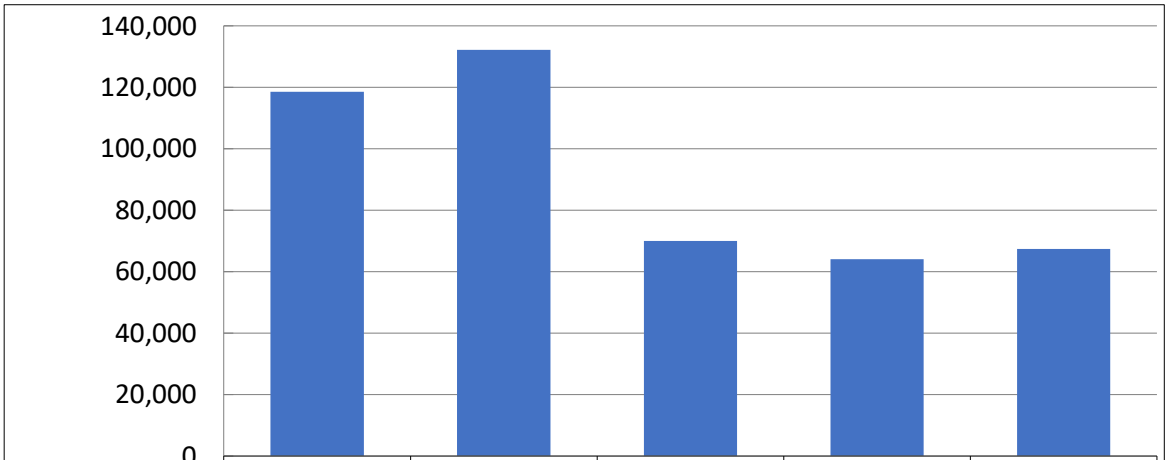
（※1）乗客数は、高速船三池島原ライン、熊本フェリー、九商フェリーの総計

4. 観光

（３）各観光施設の入場者等の状況

①　島原城

（単位：人）



	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
島原城入館者数	118,483	132,160	69,984	64,041	67,338

2024年に築城400年を迎える、島原を代表する観光名所。明治維新で廃城となったが、昭和39年に天守閣が復元された。令和２年以降は新型コロナウイルス感染症の流行により、入館者数が大幅に減少した。令和４年は、まん延防止等重点措置が解除されたことで、観光客が徐々に戻り始め、増加に転じ始めている。

②　武家屋敷

武家屋敷は、島原市の観光名所の１つで、平成２１年度に景観計画を策定し、街並みを保存するために、武家屋敷街なみ保存整備事業等の補助事業を実施している。山本邸、鳥田邸、篠塚邸の３棟を一般公開し、より身近に藩政時代の面影に触れることができるようにしている。

③　鯉の泳ぐまち

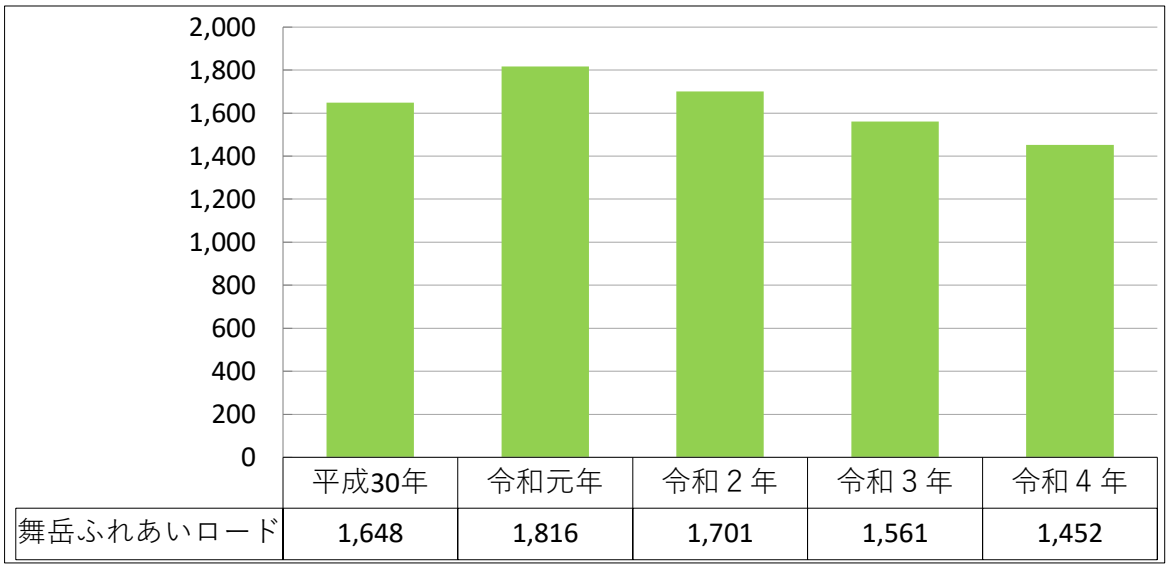
昭和５６年から地域住民のまちづくりとして整備。平成２１年度には湧水庭園四明荘を購入、平成２７年度には鯉の泳ぐまち観光交流センター「清流亭」をオープンし、さらに観光客の誘客を図っている。

④　島原湧水群

島原市内には７０カ所以上の湧水ポイントがあり、全体の湧水量は１日に２２万トンといわれている。四明荘、浜の川湧水、鯉の泳ぐまち、清流亭、武家屋敷水路などが見どころ。

4. 観光

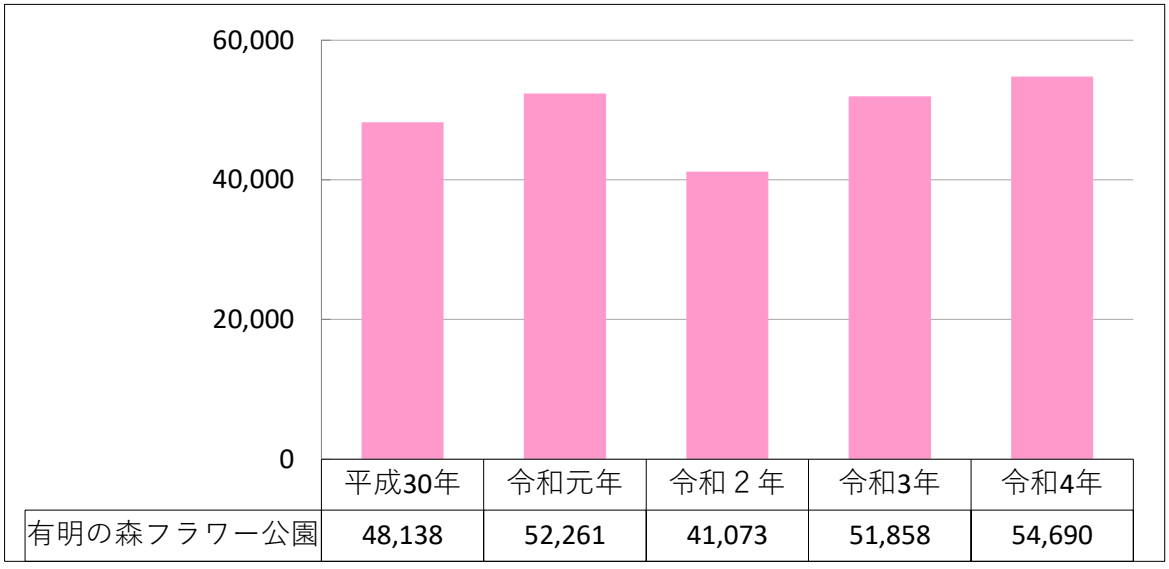
⑤　舞岳ふれあいロード　　（単位：人）



	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
舞岳ふれあいロード	1,648	1,816	1,701	1,561	1,452

舞岳を頂点に扇状に広がる有明の台地にちなみ、８８８８段と全て末広がりの平成８年８月８日午前８時に開通。緑あふれる自然の中で多くの人々のふれあいと健康づくりを願って造られた。全長３km、標高差３１４m、片道約１時間で、気軽にハイキングが楽しめる。

⑥　有明の森フラワー公園　　（単位：人）



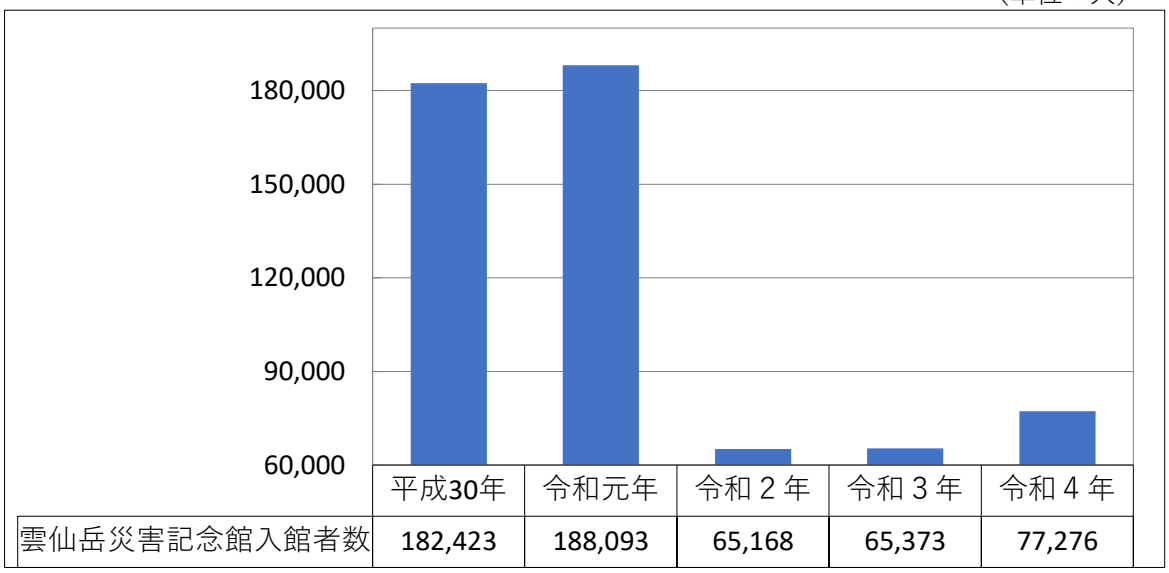
	平成30年	令和元年	令和２年	令和3年	令和4年
有明の森フラワー公園	48,138	52,261	41,073	51,858	54,690

舞岳のふもと、県道愛野・島原線沿いにあり、眼下に有明海、背後には平成新山を望む風光明媚な場所で、四季折々の花が楽しめる公園。秋には、サルビアやコスモスが、まるで花のじゅうたんのように咲き乱れ、公園内を埋め尽くし観光スポットとして親しまれている。

4. 観光

⑦　雲仙岳災害記念館

（単位：人）



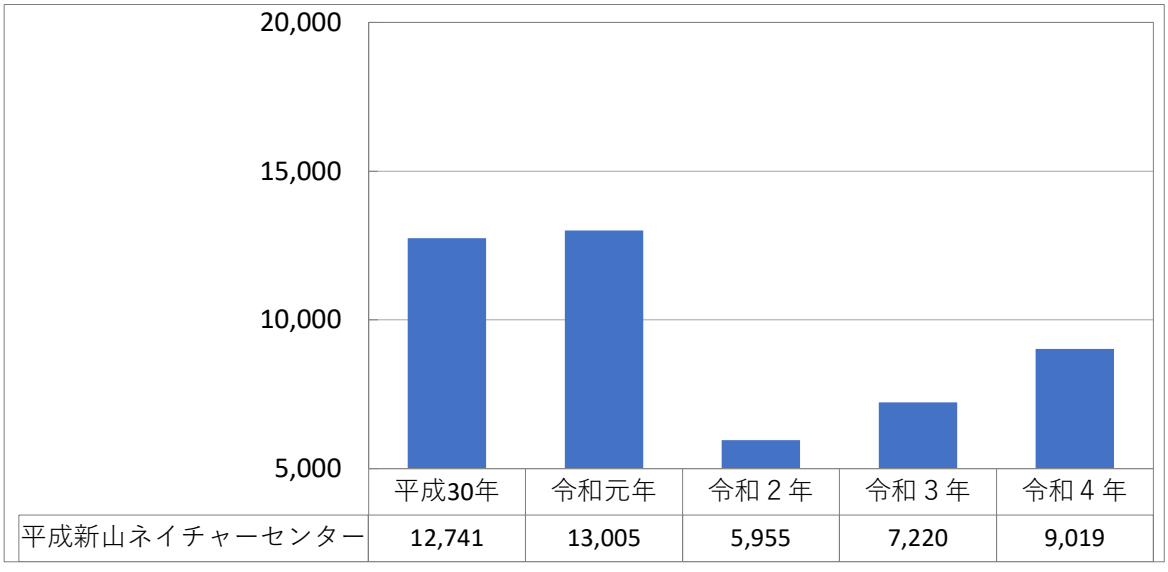
	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
雲仙岳災害記念館入館者数	182,423	188,093	65,168	65,373	77,276

平成１４年に開館した火山体験学習施設で、雲仙・普賢岳の噴火活動を、映像や様々な資料により学ぶことができる。

令和２年以降は新型コロナウイルス感染症の流行のため、入館者数が大幅に減少したが、令和４年は修学旅行生も戻りつつあり、入館者数は増加傾向にある。

⑧　平成新山ネイチャーセンター

（単位：人）



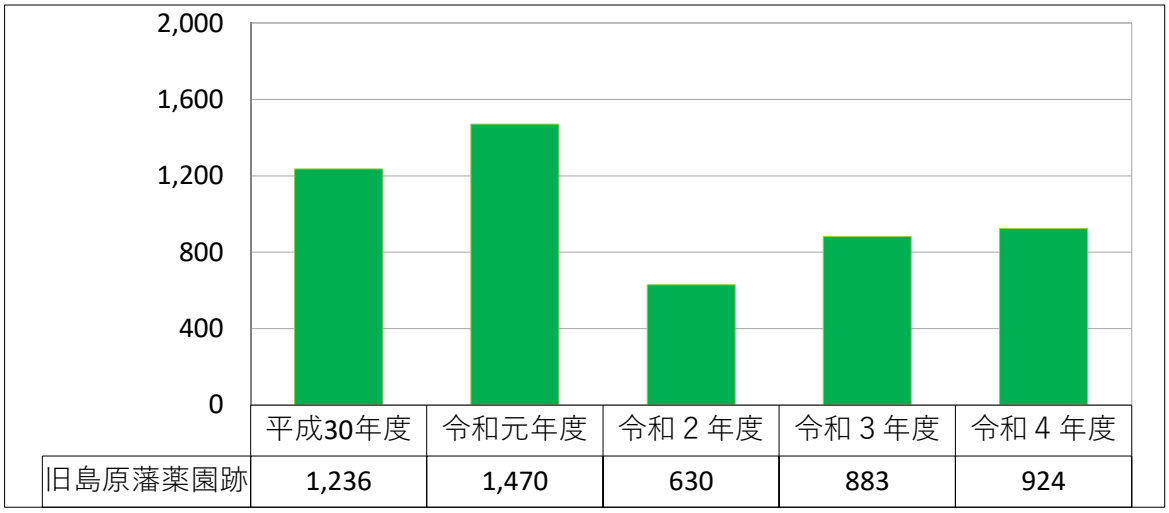
	平成30年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
平成新山ネイチャーセンター	12,741	13,005	5,955	7,220	9,019

島原半島ユネスコ世界ジオパークの見どころの一つで、垂木台地という高台にあり「平成新山」を最も近くで見ることができる。

4. 観光

（４）文化財の観光客の状況

旧島原藩薬草園跡　　（単位：人）



	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
旧島原藩薬園跡	1,236	1,470	630	883	924

国指定史跡である旧島原薬園は、例年1,000人を超える観光客が訪れていたが、令和２年度以降「薬草フェア」が中止され、令和４年度も令和元年度までの水準に戻っていない。

（５）島原市の年間イベント

①　島原初市

３月上旬開催。江戸時代初期、島原城築城の際に、各地から集められた労働者たちのために開かれた「市」が始まりとされる。今では、島原を代表とする春の風物詩のひとつであり、霊丘公園グラウンドに多くの出店が並び、飲食物や植木等の販売を行う。

②　島原ふるさと産業まつり

地場産業のＰＲを目的として開催されている。島原の特産品や地元産品・日常品などを取り扱う店舗が一堂に会し開催される。

③　島原水まつり

昭和６２年から実施。毎年、水の週間に合わせ８月上旬に、水に感謝する祭りとして、地域住民に親しまれ、水に因んだ各種イベント等が開催される。

④　精霊流し

毎年、８月１５日に市内各所で開催。３００年の長きに渡り続いている伝統行事。切子灯ろうにロウソクを灯した精霊船が闇夜の有明海に浮かぶ姿は幻想的です。

⑤　島原温泉ガマダス花火大会

毎年、８月下旬に島原港で開催され、豪華な花火が温泉郷の夜空に打ち上げられる。市内外からも多くの観光客が訪れ、露店約１００軒が立ち並び多くの人で賑わいを見せている。

⑥　島原城薪能

毎年、１０月上旬に実施される秋の伝統行事。１６８６年（貞享３年）３月６日、肥前島原藩初代藩主松平忠房が帰国するにあたって将軍綱吉より馬を拝領し、閏３月２６日に島原に帰るや、それを祝っての御能の会が催されたのが起源。昭和５８年秋、日本古来の芸能と現代庶民との文化の接点を求めて復活。

⑦　しまばら温泉不知火まつり

毎年、１０月中旬に実施される秋の伝統行事。不知火奉納舞台やしまばらガマダス阿波踊り大会、島原コスプレの乱が行われる。不知火奉納舞台では、「歴史、文化や大地の恵みに感謝」を表現する伝統芸能や舞踊が披露される。

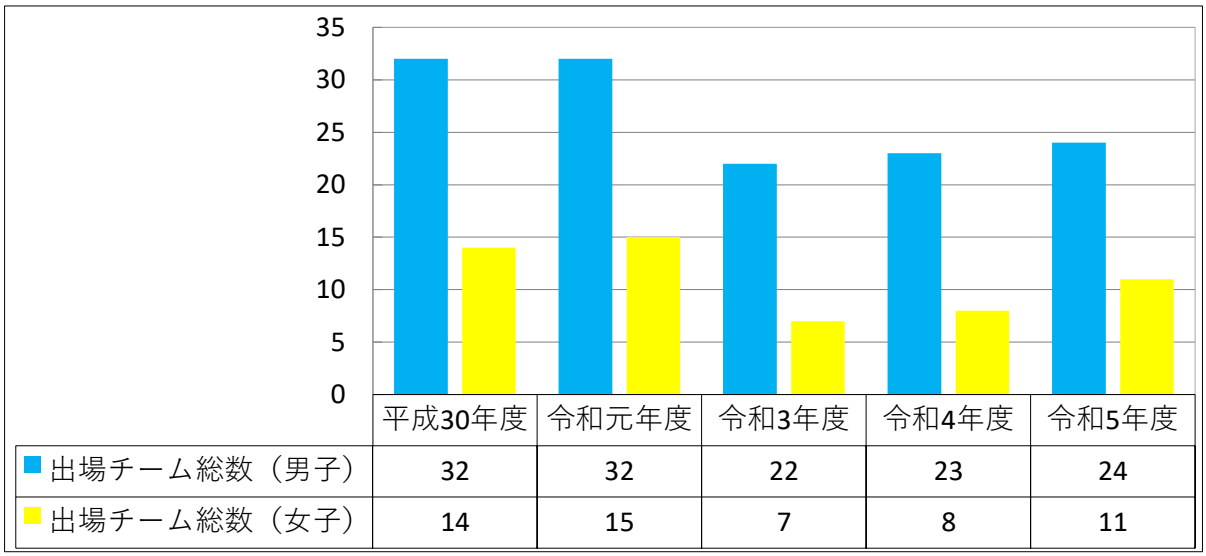
⑧　島原ウィンターナイト・ファンタジア

毎年１２月上旬から１月上旬まで開催。人気のSNS映えスポットや「遊べるイルミ」「動くイルミ」など、約２０万球のイルミネーションが飾られ、子どもから大人まで楽しめる冬の風物詩となっている。

4. 観光

⑨　平成新山　島原学生駅伝

（単位：チーム）



	平成30年度	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
出場チーム総数（男子）	32	32	22	23	24
出場チーム総数（女子）	14	15	7	8	11

※出場チーム総数はオープン参加チーム数を含む。

※令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

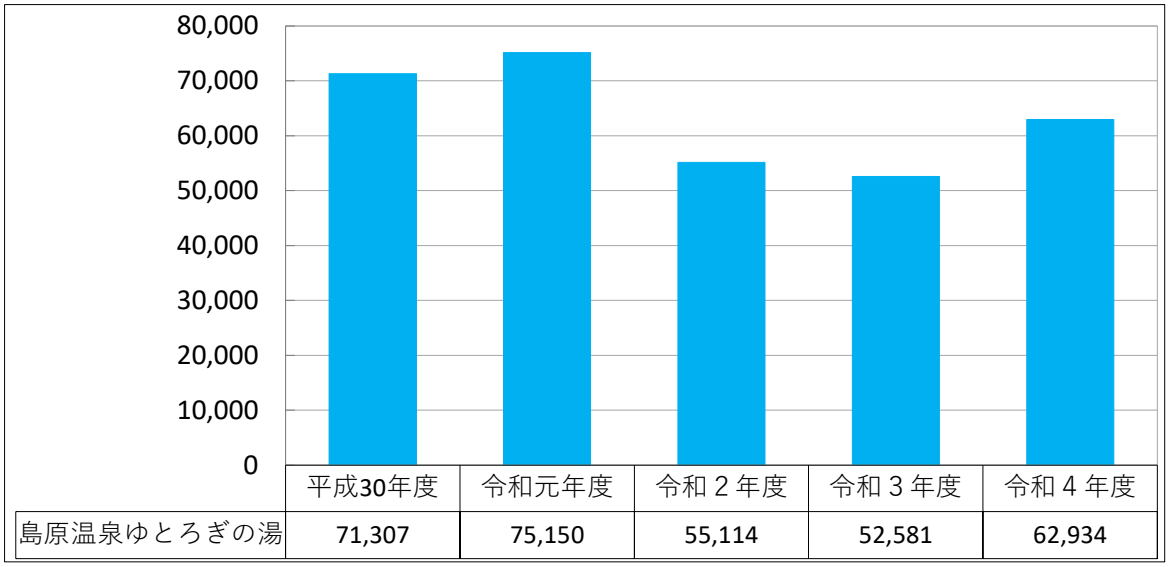
駅伝大会は、「平成新山」を冠とする大会として、島原の魅力・情報を発信し、交流人口の拡大と地域の活性化に寄与することを目的に、平成１０年度、半島３市でスタートした。

平成２０年度からは、島原市内のコースのみで１２月第１週の土曜日に開催しており、冬の一大スポーツイベントとして定着している。男子の優勝校には、翌年度の出雲全日本大学選抜駅伝競走の出場権が与えられる。

4. 観光

（６）温泉施設の利用状況

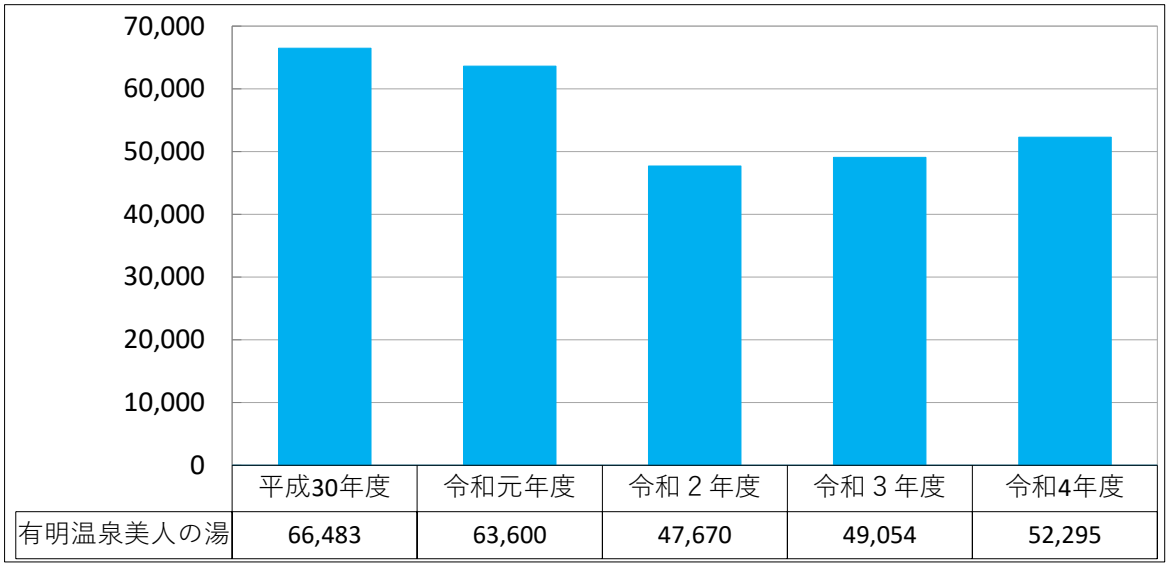
①　島原温泉ゆとろぎの湯　　（単位：人）



	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
島原温泉ゆとろぎの湯	71,307	75,150	55,114	52,581	62,934

島原市中心部の一番街アーケードに隣接し、「鯉の泳ぐまち」からも程近く、平成２０年４月１日にオープンした。令和３年度は、新型コロナウイルス感染症対策として休館措置がとられたこともあり、利用者数が落ち込んだが、令和４年度にはまん延防止等重点措置が解除され、地元客を中心に利用者が戻ってきた。

②　有明温泉美人の湯　　（単位：人）



	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和4年度
有明温泉美人の湯	66,483	63,600	47,670	49,054	52,295

平成１５年１２月、有明福祉センター付近で温泉採掘に成功し、その温泉は入浴すると肌がツルツルになることから「美人の湯」と名付けられた。

③　島原温泉の特徴

島原温泉（２源泉の混合泉）　元池源泉と観音島源泉を３：７の割合で混合
泉質：マグネシウム・ナトリウム－炭酸水素塩温泉
泉温：６１．８℃
加温前泉温：３０．１℃

島原温泉泉源公園とゆとろぎの湯に無料の足湯を設置
島原市内５カ所に飲泉所を設置

【参考】
雲仙温泉
泉質：酸性硫黄泉

小浜温泉
泉質：塩化物泉、泉温：１０５℃

4. 観光　特産品（農水産物）

（７）島原の特産品、郷土料理

①　特産品（農水産物）

ア　ガザミ（有明ガネ）

ここでいう「有明ガネ」とは「ワタリガニ」のことを指します。有明海沿岸で獲れ、夏は７月から９月にオスの「ガネ」が、冬は１１月から４月に卵を持ったメスの「ガネ」が美味です。一般的な食べ方は塩ゆでで、ぎゅっと詰まった身は甘くて風味豊かです。また、みそや卵も食通をうならせる味わいです。

イ　ガンバ

島原地方の方言では、河豚（ふぐ）のことを総称して「ガンバ」と呼びます。語源は外国語に由来するものを含め諸説ありますが、あまりに美味しいので、命と引き換えに「龕（がん）（棺のこと）桶を用意してでも食べたい」（龕ば→ガンバ）との切なる思いを代弁したもの、との説が一般的です。魚類図鑑等によれば、河豚の種類は１００以上あるといわれていますが、日本近海に生息しているのは約５０種類。

島原地方で食べられているのは主に、「トラフグ」と「ナシフグ（通称・ムキガンバ）」の二種類です。「ガンバ」料理は秋（彼岸）から春（彼岸）にかけてが、シーズンです。島原の人々は花見の時に、郷土料理の「湯引き」や「ガネ炊き」を持ち込んで酒の肴としています。

ウ　海苔

遠浅で波静かな有明海では昔から、対岸の熊本や福岡、佐賀と競うかのように「海苔」の養殖が盛んに行われています。種付け（菌の植え付け）は十月ごろから始まり、十二月から三月ごろにかけて収穫されます。収穫された海苔は、ほとんどが薄い板状に乾燥させた「乾海苔」として出荷されます。軽くあぶった「乾海苔」の香りと食感は食欲をそそります。また、生産施設は「ノリヒビ」と呼ばれ、冬の風物詩ともなっており、写真愛好家にとっては絶好の被写体として高い人気を誇っています。

エ　大根

大地にまっすぐ根をおろし、太くしっかりと育った大根。雲仙・普賢岳の火山灰土を利用した土地は水はけが良く、光沢のあるなめらかな肌の大根となります。実が詰まり甘みがあるので、おでんなどの煮物のほか、サラダなどの生食にも適しています。

オ　白菜

白菜は「養生三宝」（白菜・大根・豆腐）と言われる食材の一つ。冬の寒さに負けず雲仙・普賢岳を背景にもつ広大で肥沃な大地の栄養をたっぷり蓄えます。ハウス・トンネル栽培での「春はくさい」の生産が盛んで、全国でも指折りの産地となっております。

カ　人参

そよそよとなびく緑の葉の下は鮮やかな橙赤色の人参。その色の濃さは、βカロチンが豊富な表れです。果肉は、柔らかく甘みを含んでおり、色の美しさゆえ、和風にも洋風にも料理を鮮やかに彩ります。

4. 観光　特産品（工芸品）

②　特産品（工芸品等）

ア　島原焼

島原焼窯元は、昭和６０年、南崩山町に創業しました。生地に島原半島南部の土を使い、釉薬には眉山のセレクト土、みかん灰、わら灰などを使用して食器、茶器、花器などが制作されています。雲仙・普賢岳の火山灰をそのまま天然の釉薬として用いた、落ち着いた色合いが特徴です。島原焼「流し掛け釉四方大皿」は、平成八年の新春に、皇居応接の間を飾る栄誉を賜っています。

イ　島原木綿

有明町史によると、江戸時代既に「島原木綿」について記されており、大正・昭和初期になると大三東村・湯江村・三会村・杉谷村を中心に盛んに織られ、品質の良い織布は更に足踏み改良機の出現によって、九州一円、関西、朝鮮と販路を広げたと記されています。当時の記録では、県下の機数は１，１９６台、大三東村だけでも６００台余りあります。織りの中心だったことがわかります。その島原木綿も化学繊維の進出、衣料の大量生産時代を迎えたことで人々の記憶からも薄れていきました。

昭和６２年の有明町記念行事を契機に島原木綿再現の機運が高まり、数人の婦人によって実現しました。その後保存会が発足し、平成の島原木綿として現在約１０名の会員によって織り継がれています。島原木綿はもともと仕事着として織られ、縞立ては男縞（細）・女縞・若者縞（太）に大別されていました。有明町民族資料館には大正・昭和初期の白絣・紺絣もありますが、多くは縞木綿で占められています。

ウ　和ろうそく

寛政４年（１７９２）４月、大地震による眉山崩壊で津波が城下町を襲い、その復興に藩財政は大変困っていました。藩ではハゼ・木蝋の増産でその危機を切り抜けています。ハゼの実百万斤の生産体制をとり、大阪商人へ売出して、年７千～９千両の収入を上げていたようです。他の木よりも良質の実が多量に結実する変種が杉谷村で発見され、昭和３５年（１９６０）、その「昭和福ハゼ」は、長崎県の天然記念物に指定されました。その和ろうを県下で唯一、郷土の伝統産業として根付かせようとしているところが、有明町の本多木蝋工業所です。

西洋ロウソクは吹けばすぐ消えますが、和ろうそくはゆらぎながらも少々の風では消えません。また、和ろうの用途は、ろうそくはもちろん、化粧品・薬・ボールペン・ビン付け油など多種多様にわたっています。

4. 観光　（郷土料理）

③　郷土料理

ア　ガンバ（ふぐ）料理

ガンバ料理の代表格と言えば「湯引き」と「ガネ炊き」です。「湯引き」は、厚切りにした身をさっと湯通しして、氷水で身を引きしめます。タレはダイダイ酢（なければポン酢）。
薬味には地元で「フクシュ」と呼ばれるニンニクの茎のほか、梅干し、ネギ、モミジおろしなどを使います。「ガネ炊き」は余った骨の部分を使用します。通常の煮付けと違って、煮汁にそのまま浸けないで「乾煎り」するのがコツです。そのときに出るアブクが「まるで蟹のようだ」ということから名前が付いたと言われています。炊き合わせの材料はタケノコやフクシュ、梅干しなどです。

イ　ガネ（カニ）料理

「ワタリガニ」のことを地元では「ガネ」と呼びます。調理方法はいたってシンプル。お湯を沸かしながら20分ほど茹でれば、極上の味ができ上がります。その際に注意しなければならないのは、しっかりと脚の部分をくくりつけておくこと。最初から熱湯に浸けないこともポイントです。甲羅に日本酒の熱燗を注ぎ込んでいただく「ツザケ」の味はまた格別。一杯目はそのまま。二杯目からは柿色がかった「セキ」を溶かしながらいただきます。

ウ　かんざらし

白玉粉で作った小さな団子を冷水で冷やし、蜂蜜、砂糖等で作った特製の蜜をかけたもの。島原城や市内の飲食店で食べられ、最終的な味付けはその店の秘伝。 浜の川湧水に隣接する「銀水」は、かつて「かんざらし」の名店として多くの著名人が訪れ、テレビ番組等で幾度となく紹介されたことで「かんざらし」の名前は一躍全国版となりました。

その後、「銀水」は閉店となったものの、平成２８年に２０年近い時を経て復活し、観光客と地域住民の交流の場となる観光スポットとして、新たな歴史をスタートさせました。

平成３０年２月には、島原を舞台としてＮＨＫ長崎地域発ドラマ「かんざらしに恋して」が放送されています。

エ　具雑煮

島原郷土料理の代表格。正月の雑煮は各地で色々と違いますが、島原地方の雑煮は具だくさんで、山の幸、海の幸がいっぱい盛り込まれていて、豊かな島原の産物を集大成化したようなものです。また、一説には、その考案者は一揆軍の総大将、天草四郎時貞、とも言われています。

材料は、鶏肉、アナゴ、シロナ、レンコン、ゴボウ、凍り豆腐、椎茸、 卵焼き、丸もち、春菊など十数種類。平成19年には、農林水産省の「農山漁村の郷土料理百選」に卓袱料理と並び選定されています。

オ 島原手延べそうめん

島原の乱の後、瀬戸内海の小豆島などから移住してきた人々によって製造がはじまったとされています。手延べ素麺は小麦、塩、綿実油、水を原料として製造されます。熟成の時間も必要となるため、１回の製造に１～２日かかります。厳選された小麦粉を用いるのはいうまでもありませんが、粉を見極め、その性質を最大限に生かしながら最高の状態のめんに仕上げていくのが伝統の技術です。

島原手延べそうめんの特徴は何といっても腰の強さです。夏の暑い日に食べる冷やしそうめんも最高ですが、地獄そうめんを作る時のように、煮込んでもなかなか煮崩れないのが自慢です。

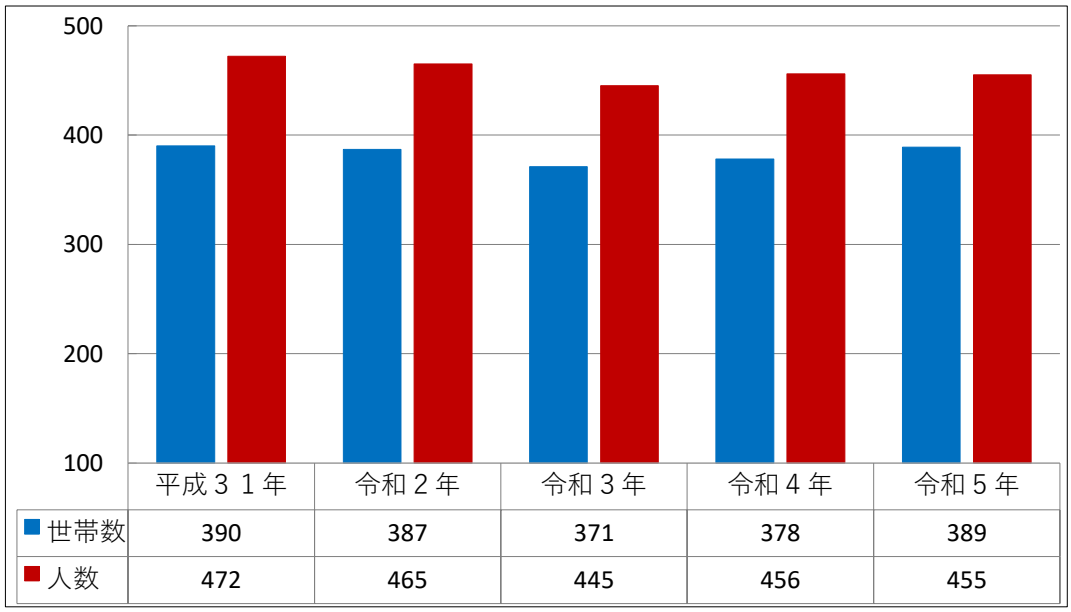
カ ろくべえ

かつて島原一帯が大飢饉に見舞われた際に、名主の六兵衛という人が考え出したとされる耐乏食です。暖かい気候の島原では早くから甘薯作りが盛んでした。それで凶作も乗り越えることができたそうです。原料のサツマイモの粉に、つなぎに粘性のある山芋を使用しています。見た目は太麺のソバのようですが、甘味があるのが特徴です。ダシはすまし汁で、ねぎや七味唐辛子をかけると美味しさが増します。

5. 社会福祉、保健、環境

（１）生活保護の状況

①　生活保護の世帯、人数の推移　　（各年４月１日現在）



	平成３１年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
世帯数	390	387	371	378	389
人数	472	465	445	456	455

生活保護世帯は、前年より若干増加している。無年金や低年金の高齢者の増加、新型コロナウイルス感染症の経済的影響等による預貯金の減少等が要因にある。

②　生活保護の実人数及び保護率の割合　　（※令和５年１２月末）

	実人数（人）	半島における割合（%）	県における割合（%）	保護率（%）
島原市	457	34.6	1.8	1.10
雲仙市	555	42.0	2.2	1.40
南島原市	310	23.4	1.2	0.79
半島３市	1,322		5.2	1.10
長崎県	25,603			2.02

島原市は、長崎県内と比較すると、実人数に占める割合は約1.８％程度となっている。

（２）保育所・幼稚園の状況

（島原半島３市、令和6年1月1日現在）

	施設数（園）（※１）				半島での施設設置割合（%）	入園児数（人）			
	計	保育所	幼稚園	認定こども園		計	保育所	幼稚園	認定こども園
島原市	26	19	0	7	30.6	1,630	1,013	0	617
雲仙市	28	19	0	9	32.9	1,481	842	0	639
南島原市	31	22	0	9	36.5	1,411	836	0	575
合　　計	85	60	0	25	100.0	4,522	2,691	0	1,831

半島３市中、島原市は、施設数は最も少ないが、入園児数は最も多い。

（※1）施設数は、休園中の園を除く。（島原市：幼稚園２園、雲仙市：保育所1園）

（３）医療の状況

① 医療施設（精神科病院及び一般診療所を含む）　（※令和４年１０月１日現在）

	病院数	病院数の半島内割合（%）	病院病床数（床）	病床数の半島内割合（%）	人口千人対病床数（床）
島原市	53	40.2	1,248	48.6	28.8
雲仙市	40	30.3	779	30.3	19.0
南島原市	39	29.5	542	21.1	12.8
半島３市	132		2,569		20.3
長崎県	1,483		28,213		21.5

島原市の医療施設数（病院、病床）及び人口対千人当たりの病床数は、半島３市の中で最も多く、人口対千人当たりの病床数については長崎県と比較しても多い。

※人口は令和２年国勢調査の結果による

② 医師数　（※令和２年１２月末現在）

	医師数（人）	医師数の半島内割合（%）	人口千人対医師数（人）
島原市	125	47.7	2.9
雲仙市	84	32.1	2.0
南島原市	53	20.2	1.3
半島３市	262		2.1
長崎県	4,399		3.4

島原市の医師数及び人口対千人当たりの医師数は、半島３市の中で最も多いが、長崎県と比較すると少ない。

③ 歯科医院・歯科医師数　（※令和２年１２月末現在）

	歯科医院数	医院数の半島内割合（%）	歯科医師数（人）	医師数の半島内割合（%）	人口千人対歯科医師数
島原市	29	39.2	42	41.2	1.0
雲仙市	22	29.7	31	30.4	0.8
南島原市	23	31.1	29	28.4	0.7
半島3市	74		102		0.8
長崎県	716		1,203		0.9

島原市は、どの項目も半島３市の中で最も多く、人口対千人当たりの歯科医師数については、県よりも多いことがわかる。

④　薬剤師の状況　　（※令和２年１２月末現在）

	薬剤師数（人）	薬剤師数の半島内割合	人口千人対薬剤師数
島原市	111	52.4	2.6
雲仙市	55	25.9	1.3
南島原市	46	21.7	1.1
半島３市	212		1.7
長崎県	2,954		2.3

島原市の薬剤師数及び人口対千人当たりの薬剤師数については、半島３市の中で最も多く、県と比較しても多いことがわかる。

5. 社会福祉、保健、環境（環境）

（４）ごみの状況

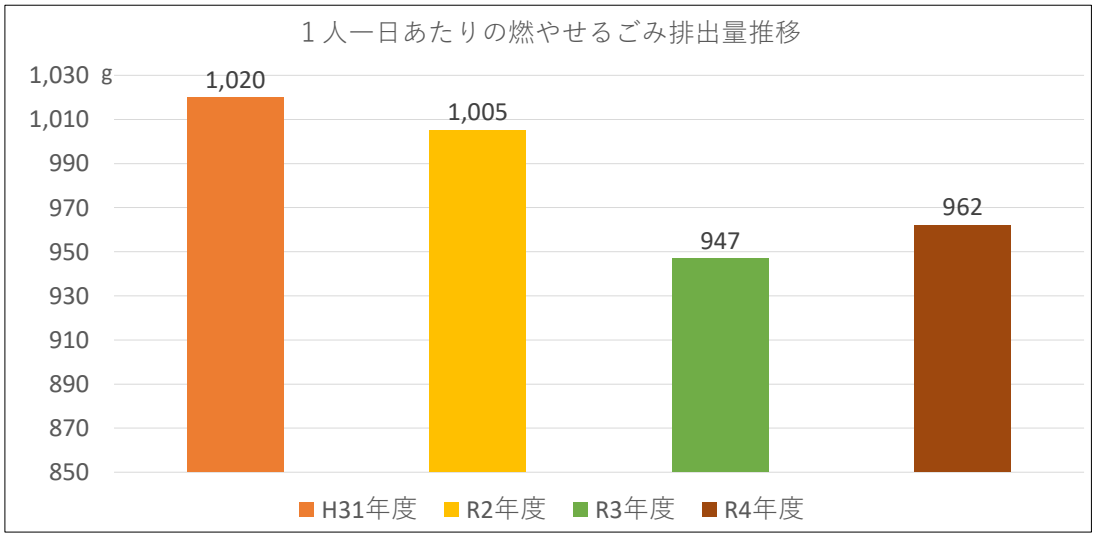
①　ごみの排出量とリサイクル率　（令和４年度）

	年間排出量（ｔ）（※１）	一人１日当たり排出量（ｇ）	リサイクル率（%）（※２）
島 原 市	17,442	1,105	20.4
雲 仙 市	15,577	1,019	14.5
南島原市	16,263	1,043	16.6
半島３市	49,282	1,055	17.2
長 崎 県	453,534	953	15.9

島原市のリサイクル率は、半島３市の中で最も高い。

（※１）年間排出量　・・可燃ごみ、資源・不燃ごみの合計
（※２）リサイクル率・・廃棄物からの資源回収率のこと

②　４万人のごみ減量プロジェクト



島原市では、１人一日あたりの燃やせるごみ排出量を８５０ｇに抑えることを目標として、令和２年４月に「４万人のごみ減量プロジェクト」をスタートした。平成３０年度の排出量から、１人一日缶コーヒー１本分（１７５ｇ）を削減できれば目標達成となる。　令和4年度で６３ｇ減量。目標まであと１１２ｇである。

6. 教育、文化

（１）小学校の状況

①　学校数、児童数

（令和５年５月１日現在）

	学校数	学校数半島内割合（%）	児童数（人）	児童数半島内　割合（%）	人口千人対児童数（人）
島原市	10	23.8	2,273	36.4	54.5
雲仙市	17	40.5	2,070	33.1	52.0
南島原市	15	35.7	1,905	30.5	47.8
半島３市	42		6,248		51.5
長崎県	318		66,615		52.4

半島３市の中で、島原市の小学校数は一番少ないが、児童数は一番多い。

②　教員数

	教員数（人）	教員１人当たり児童数（人）
島原市	179	12.7
雲仙市	229	9.0
南島原市	188	10.1
半島３市	596	10.5
長崎県	5,395	12.3

半島３市の中で、教員１人当たりの児童数は島原市が一番多い。

（２）中学校の状況

①　学校数、生徒数

（令和５年５月１日現在）

	学校数	学校数半島内割合（%）	生徒数（人）	生徒数半島内割合（%）	人口千人対生徒数（人）
島原市	5	25.0	1,092	35.3	26.7
雲仙市	7	35.0	1,017	32.9	25.6
南島原市	8	40.0	984	31.8	24.7
半島３市	20		3,093		25.5
長崎県	184		35,119		27.6

半島３市の中で、島原市の中学校数は一番少ない。

②　教員数

	教員数（人）	教員１人当たり生徒数（人）
島原市	95	11.5
雲仙市	107	9.5
南島原市	115	8.6
半島３市	317	9.8
長崎県	3,273	10.7

半島３市の中で、教員１人当たりの生徒数は島原市が一番多い。

6. 教育、文化

（３）高等学校の状況

①　学校数、生徒数　　（令和５年５月１日現在）

	学校数	学校数半島内　割合（%）	生徒数（人）	生徒数半島内　割合（%）
島原市	5	55.6	1,574	71.4
雲仙市	2	22.2	296	13.4
南島原市	2	22.2	334	15.2
半島３市	9		2,204	
長崎県	79		33,330	

半島３市の中で、島原市の高等学校数は一番多く、生徒数も一番多い。

②　教員数

	教員数（人）	教員１人当たり生徒数（人）
島原市	170	9.3
雲仙市	47	6.3
南島原市	57	5.9
半島３市	274	8.0
長崎県	3,167	10.5

半島３市の中で、高等学校教員１人当たりの生徒数は、島原市が一番多い。

（４）特別支援学校の状況

（令和5年5月1日現在）

	島原市	長崎県	県内割合(%)
学校数	1	18	5.6
児童・生徒数	127	1,769	7.2
教員数	74	1,108	6.7
教員1人当たり生徒数	1.7	1.6	

島原市には、特別支援学校が１校設置されている。

6. 教育、文化

（５）図書館の状況

①　図書館、図書室等及び登録者

（令和5年3月末現在）

	公立図書館数	公民館 図書室等数	登録者数 （人）
島原市	2	5	53,915
雲仙市	1	6	19,071
南島原市	6	2	25,110
半島３市	9	13	98,096
長崎県(※1)	37	154	479,595

島原市は、図書館を２館設置している。

（※１）長崎県は県立図書館を除く市町の分の合計

②　蔵書数、貸し出し冊数

	蔵書数	蔵書数半島内　割合（%）	人口１人当たり蔵書冊数	年間貸し出し冊数	人口1人当たり貸出冊数
島原市	229,732	23.3	5.2	217,522	5.2
雲仙市	217,681	22.1	5.5	188,401	4.7
南島原市	536,829	54.5	13.4	343,621	8.6
半島3市	984,242		8.0	749,544	6.2
長崎県	5,526,542		4.4	5,699,884	4.5

（注）長崎県は県立図書館を除く市町分の合計

島原市の人口１人当たり蔵書冊数、貸出冊数は、長崎県と比較しても多い。

6. 教育、文化（文化財）

（６） 文化財の状況

① 指定文化財の状況

（令和5年3月末現在）

国指定文化財数	5
県指定文化材数	11
市指定文化財数	78

区別		種　別	名　称	所　在	指　定　時
1	国	特別名勝	温泉岳	温泉岳国有林	昭和27年3月29日
2	国	天然記念物	普賢岳紅葉樹林	温泉岳国有林	昭和3年3月31日
3	国	天然記念物	野岳いぬつげ群落	温泉岳国有林	昭和3年3月31日
4	国	史跡	旧島原藩薬園跡	小山町4703	昭和4年4月2日
5	国	天然記念物	平成新山	三会・安中温泉岳国有林	平成16年4月5日
6	県	史跡	まだれいな銘キリシタン墓碑	山寺町　共同墓地	昭和2年11月8日
7	県	天然記念物	有明町の大樟	有明町大三東甲2114	昭和33年6月5日
8	県	天然記念物	熊野神社の大楠	杉山町	昭和35年7月13日
9	県	天然記念物	熊野神社の大椋	杉山町	昭和35年7月13日
10	県	天然記念物	島原のシマバライチゴ自生地	南千本木町	昭和35年3月22日
11	県	有形文化財 （歴史資料）	混一疆理歴代国都地図	本光寺町　本光寺	平成11年2月17日
12	県	有形文化財 （歴史資料）	日本大地図３鋪（一組）	本光寺町　本光寺	平成17年3月25日
13	県	有形文化財 （考古資料）	景華園遺跡出土の 一括遺物百二十二点	城内一丁目　島原図書館	平成18年3月3日
14	県	有形文化財 （工芸品）	刀　折返銘　神氣　附 本阿弥光温折紙一通	城内一丁目　島原城	平成19年8月31日
15	県	有形文化財 (典籍)	肥前島原松平文庫	城内一丁目　島原図書館	平成25年3月29日
16	県	史跡	島原城跡	城内一丁目1181-5ほか	平成28年2月28日

7. 市民生活

（1）居住、安全

【消防関係】

項　　目	数　値	単位	備　　考
消防団員数	585	人	令和5年4月1日現在
消防団員数 （人口千人当たり）	13.7	人	令和５年3月31日現在（住民基本台帳）
年間出火数	13	件	令和5年中実積

【交通関係】

項　　目	数　値	単位	備　　考
交通事故発生件数	68	件	令和4年中実積（雲仙市 106 件、南島原市 55件）
交通事故発生件数 （人口千人当たり）	1.58	件	令和4年12月31日現在 43,169人
交通事故発生件数 （１日当たり）	0.19	件	

【刑法犯関係】

項　　目	数　値	単位	備　　考
年間刑法犯認知件数	83	件	令和4年中実積(雲仙市 95件、南島原市 57件)
刑法犯認知件数 （人口千人当たり）	1.92	件	令和4年12月31日現在 43,169人
刑法犯認知件数 （１日当たり）	0.23	件	

【自主防災会関係】

項　　目	数　値	単位	備　　考
自主防災会数	223	団体	
自主防災会組織率	100	%	令和5年4月1日現在

7. 市民生活

（2）水　道

（※令和5年３月末現在）

項　　目	数　値	単　位	備　　考	
給水人口	42,486	人	雲仙市 41,290人	南島原市 38,772人
給水率	99.3	%	99.6%	99.9%
年間給水量	5,842	千㎥	5,906千㎥	5,164千㎥
年間給水量 （１世帯１日当たり）	793	ℓ	925ℓ	829ℓ

（3）町内会・自治会

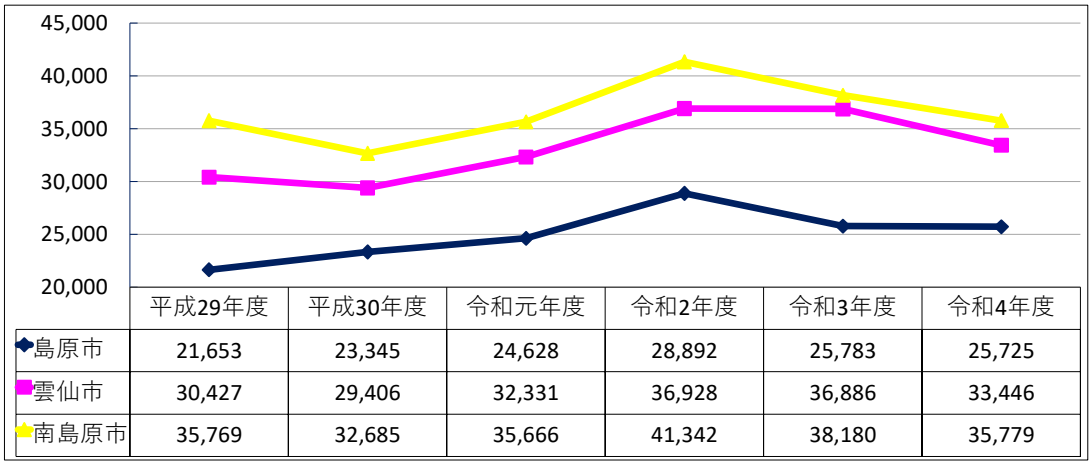
項　　目	数　値	単位	備　　考
町内会・自治会数	223	団体	令和5年4月現在
集会施設数	111	館	
集会施設設置率	49.8	%	
町内会・自治会 加入世帯	12,657	世帯	令和5年5月現在
町内会・自治会 加入率	63.94	%	令和5年5月現在

8. 財政

（1）島原市の歳入、歳出の状況

① 歳入決算の推移

（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
島原市	21,653	23,345	24,628	28,892	25,783	25,725
雲仙市	30,427	29,406	32,331	36,928	36,886	33,446
南島原市	35,769	32,685	35,666	41,342	38,180	35,779

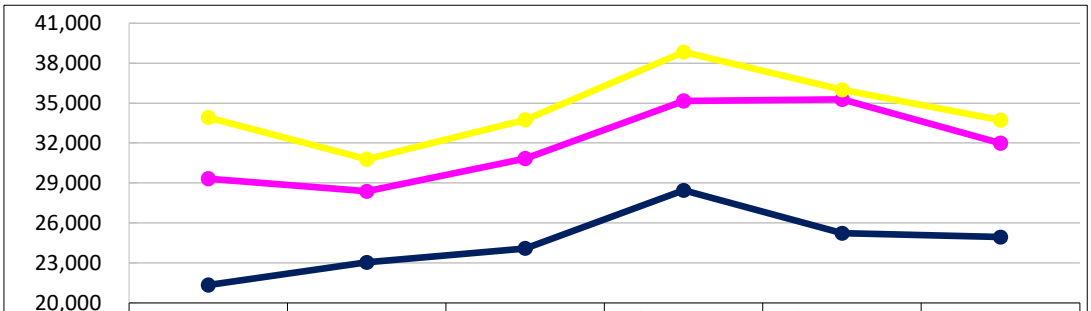
【歳入決算の割合】

（単位：百万円）

	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	令和3年度	令和4年度
県内市町	769,101	767,712	807,484	980,002	905,918	865,366
島原市の割合	2.8%	3.0%	3.0%	2.9%	2.8%	3.0%
半島３市	87,849	85,436	92,625	107,162	100,849	94,950
島原市の割合	24.6%	27.3%	26.6%	27.0%	25.6%	27.1%

② 歳出決算の推移

（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
島原市	21,345	23,039	24,093	28,451	25,232	24,939
雲仙市	29,327	28,379	30,841	35,161	35,274	31,992
南島原市	33,920	30,786	33,746	38,828	35,988	33,713

【歳出決算の割合】

（単位：百万円）

	平成２９年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
県内市町	746,591	744,403	782,655	950,683	871,050	832,003
島原市の割合	2.9%	3.1%	3.1%	3.0%	2.9%	3.0%
半島３市	84,592	82,204	88,680	102,440	96,494	90,644
島原市の割合	25.2%	28.0%	27.2%	27.8%	26.1%	27.5%

8. 財政

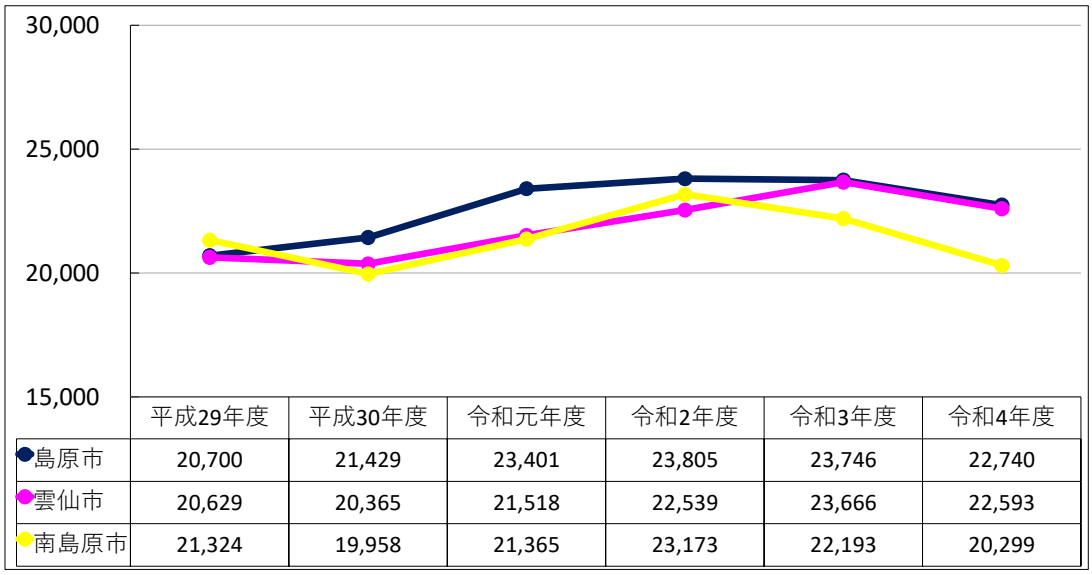
【人口１人当たり歳出決算額】

（単位：千円）

	歳出決算額
島原市	578
雲仙市	772
南島原市	799

（２）島原市の地方債、積立金の状況

①　地方債現在高の推移　　（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
島原市	20,700	21,429	23,401	23,805	23,746	22,740
雲仙市	20,629	20,365	21,518	22,539	23,666	22,593
南島原市	21,324	19,958	21,365	23,173	22,193	20,299

【地方債現在高の割合】　　（単位：百万円）

	平成２９年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
県内市町	753,232	750,256	771,816	783,371	785,720	765,492
島原市の割合	2.7%	2.9%	3.0%	3.0%	3.0%	3.0%
半島３市	62,653	61,752	66,284	69,517	69,605	65,632
島原市の割合	33.0%	34.7%	35.3%	34.2%	34.1%	34.6%

【人口１人当たり地方債現在高】

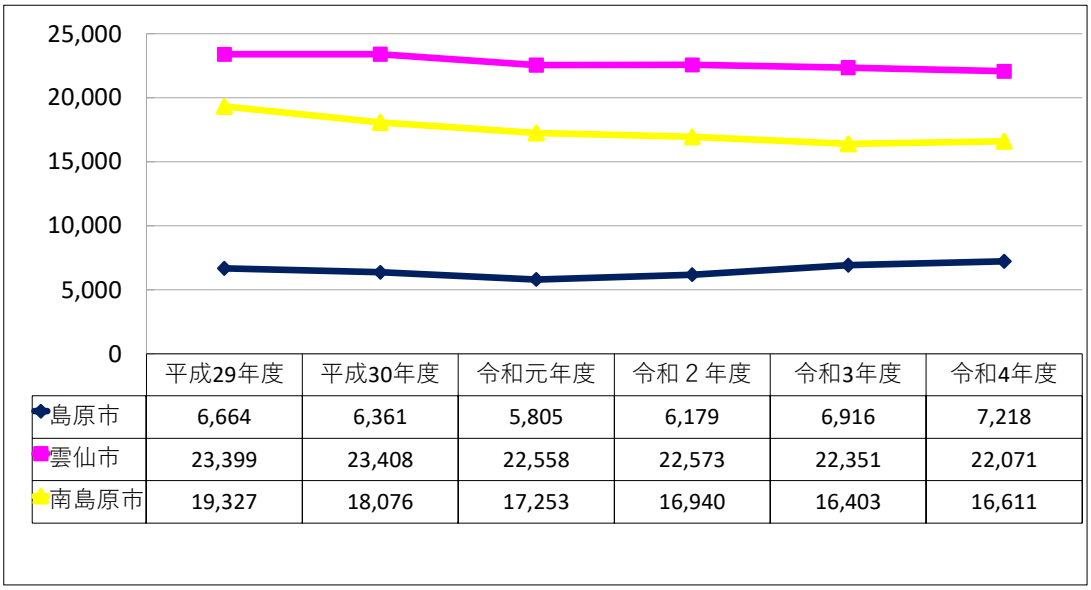
（単位：千円）

	地方債現在高
島原市	527
雲仙市	545
南島原市	481

8. 財政

② 積立金現在高の推移

（単位：百万円）



	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和3年度	令和4年度
島原市	6,664	6,361	5,805	6,179	6,916	7,218
雲仙市	23,399	23,408	22,558	22,573	22,351	22,071
南島原市	19,327	18,076	17,253	16,940	16,403	16,611

【積立金現在高の割合】

（単位：百万円）

	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
県内市町	264,190	259,994	254,748	253,815	272,516	283,297
島原市の割合	2.5%	2.4%	2.3%	2.4%	2.5%	2.5%
半島３市	49,390	47,845	45,616	45,692	45,670	45,900
島原市の割合	13.5%	13.3%	12.7%	13.5%	15.1%	15.7%

【人口１人当たり積立金現在高】

（単位：千円）

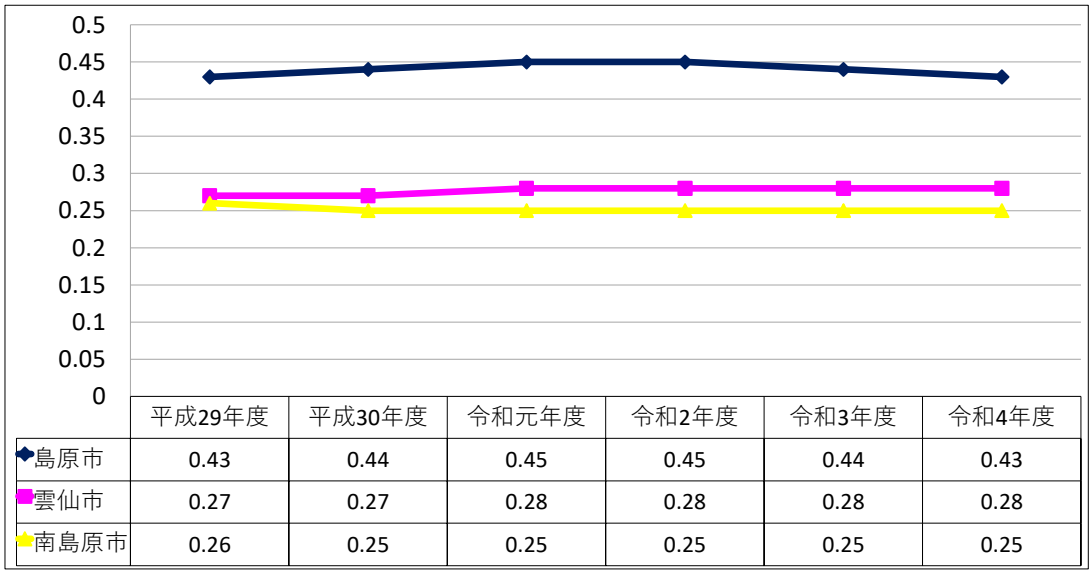
	積立金現在高
島原市	167
雲仙市	533
南島原市	394

8. 財政

（3）各種指数

① 財政力指数

（単位：%）



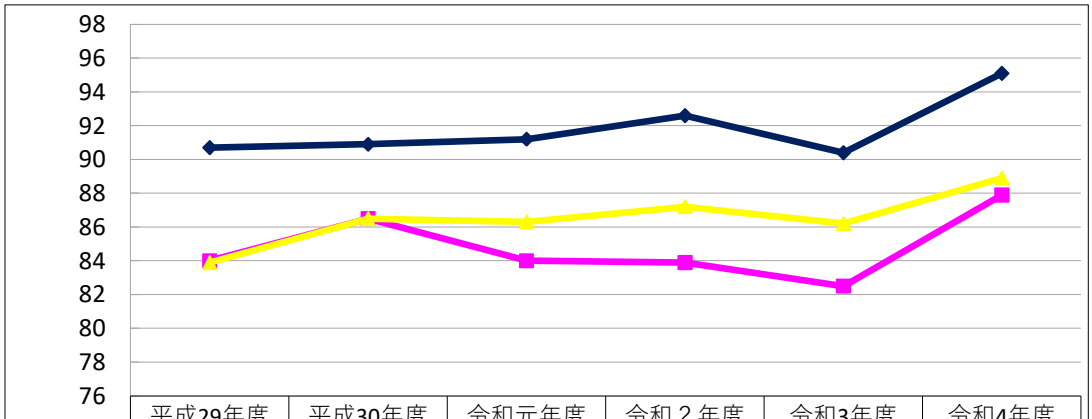
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
島原市	0.43	0.44	0.45	0.45	0.44	0.43
雲仙市	0.27	0.27	0.28	0.28	0.28	0.28
南島原市	0.26	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25

財政力指数とは、地方公共団体の財政力を示す指標であり、自主財源の割合が高いほど数値が高くなるもので、財政力が強い団体となる。

島原市は、半島３市の中で最も高い数値を示している。

② 経常収支比率

（単位：%）



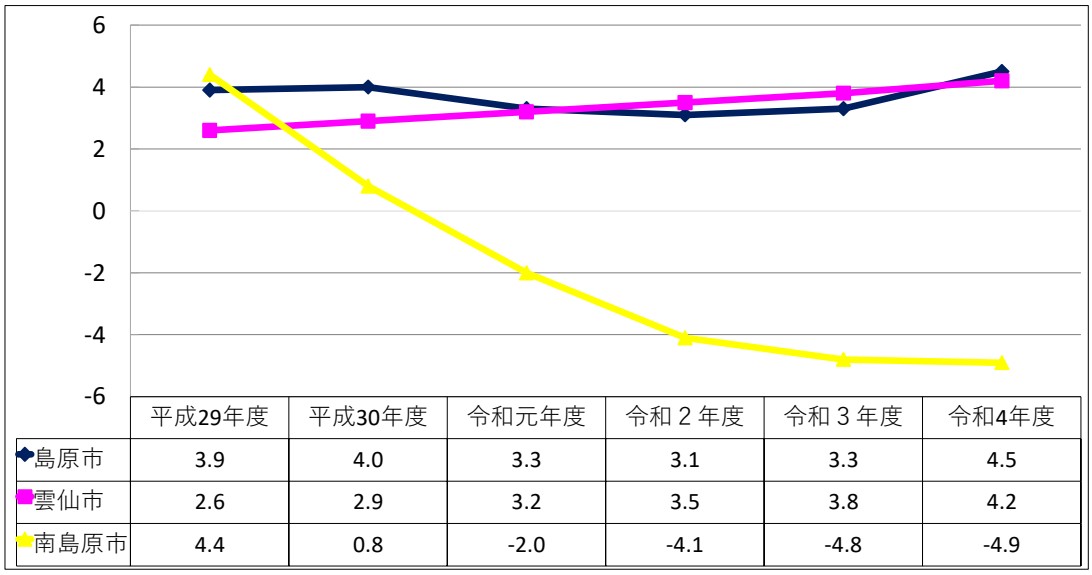
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和3年度	令和4年度
島原市	90.7	90.9	91.2	92.6	90.4	95.1
雲仙市	84.0	86.5	84.0	83.9	82.5	87.9
南島原市	83.9	86.5	86.3	87.2	86.2	88.9

経常収支比率とは、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標であり、比率が高くなると弾力性を失いつつある状態となる。

島原市は、比率は高く上昇傾向にある。

③　実質公債費比率

（単位：%）



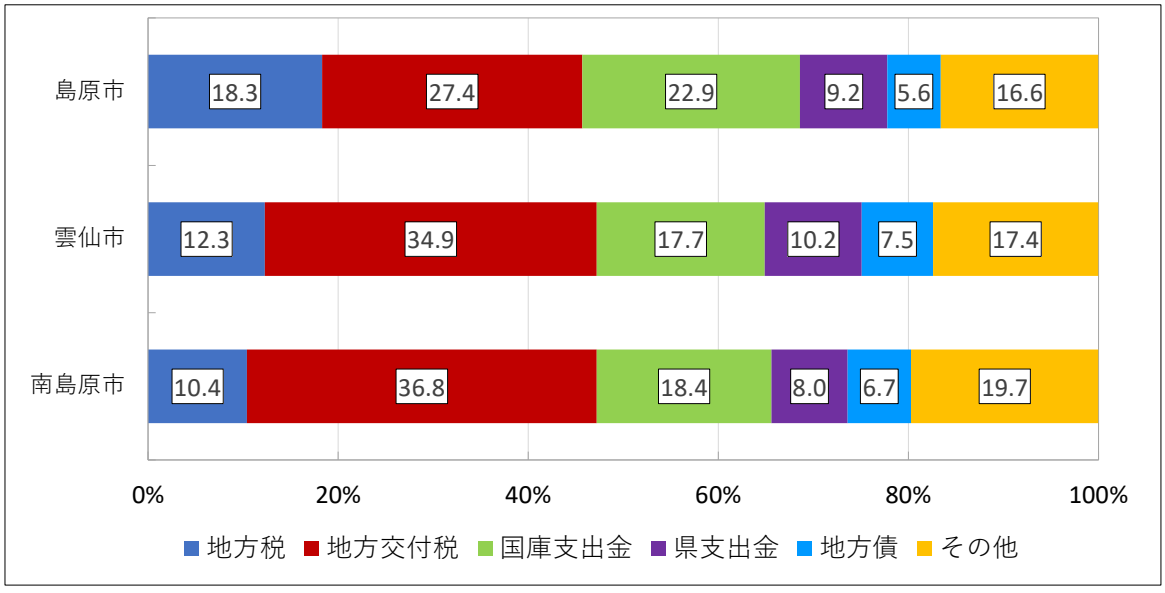
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和4年度
島原市	3.9	4.0	3.3	3.1	3.3	4.5
雲仙市	2.6	2.9	3.2	3.5	3.8	4.2
南島原市	4.4	0.8	-2.0	-4.1	-4.8	-4.9

実質公債費比率とは、一般会計などの実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもので、率が低いほど健全といえる。島原市は、比較的緩やかな増加傾向にある。

（４）令和４年度決算内訳の比較

①　歳入決算

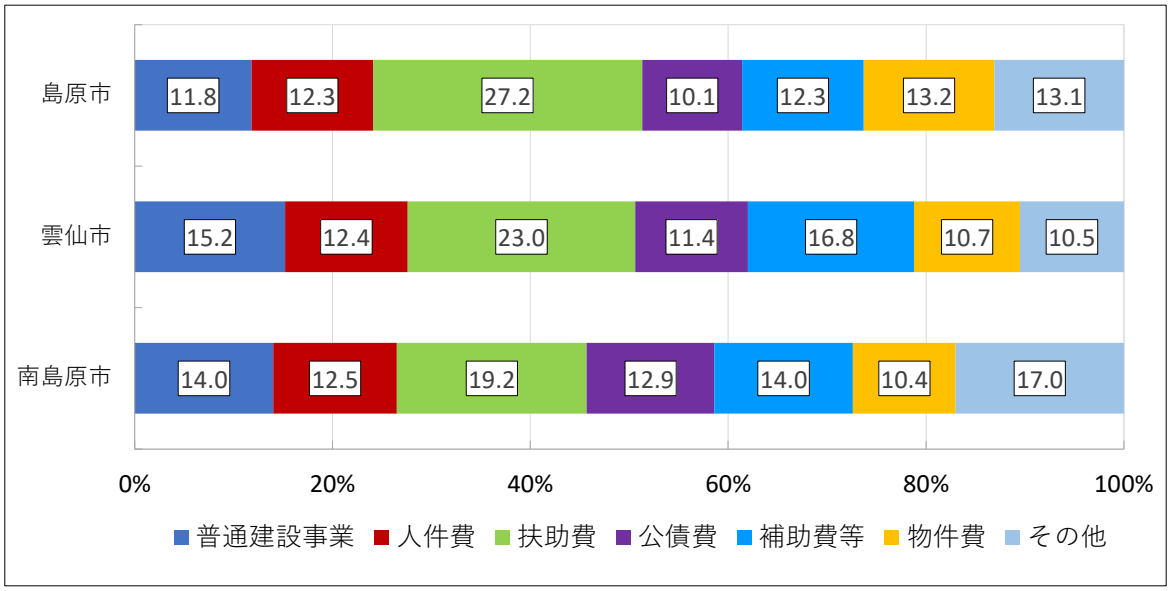
（単位：%）



8. 財政

② 歳出決算

（単位：%）


島原市
11.8
12.3
27.2
10.1
12.3
13.2
13.1
雲仙市
15.2
12.4
23.0
11.4
16.8
10.7
10.5
南島原市
14.0
12.5
19.2
12.9
14.0
10.4
17.0
0%
20%
40%
60%
80%
100%
普通建設事業
人件費
扶助費
公債費
補助費等
物件費
その他

9. 市政の状況

（１）国、県の指定状況

①　雲仙天草国立公園（自然公園）「※県ホームページ　長崎県の自然公園より」

昭和９年３月１６日に指定された我が国最初の国立公園である。雲仙地域については雲仙火山のほぼ全域を含む我が国屈指の火山景観を中心としており、有明海とセットで大パノラマを楽しむことができる。

（面積）12,858ヘクタール（海域を除く）

②　島原半島県立公園（自然公園）「※県ホームページ　長崎県の自然公園より」

昭和４５年１月２０日に県立自然公園に指定された。島原半島周辺の変化に富んだ海岸線と、雲仙天草国立公園の周縁部及び史跡を中心とし、千々石断層や愛野地峡の雄大な景観、雲仙火山の関係する溶岩円頂の猿葉山、眉山崩壊によってできた九十九島、火山性山麓扇状地の礫石原、百花台等の特徴的な景観が見られる。

（面積）1,835ヘクタール（海域を除く）

（２）今後予定されている大型事業

島原城築城４００年記念事業

１６１８年（元和４年）松倉豊後守重政が築城開始し、１６２４年（寛永元年）に７年の歳月をかけて築いたとされ、２０２４年に築城４００年を迎える。

10. 我がまち自慢

（１）島原市の日本一、日本初など全国ランクで上位に該当するもの

① 白土湖

日本で一番小さな陥没湖

② 平成新山

日本で一番新しい山

③ 舞岳ふれあいロード

８８８８段の遊歩道の段数

④ 水無川砂防事業

全国初の無人化機械施工

⑤ ジオパーク国際ユネスコ会議（平成２４年５月）

島原復興アリーナをメイン会場として、日本で初めて開催

⑥ 火山都市国際会議（平成１９年１１月）

アジア（日本）で初めての開催

⑦ 島原半島ジオパーク

「日本ジオパーク」国内認定第１号（平成２０年１２月）

「世界ジオパーク」国内認定第１号（平成２１年８月）

⑧ 自衛隊災害派遣日数（雲仙・普賢岳噴火災害時）

１，６５８日（平成３年６月３日から平成７年１２月１６日まで）は

災害派遣としては過去最長（※参考　第２位は、東日本大震災の１７４日）

⑨ だいこんの年間収穫量（令和3年）

春だいこん・・・収穫量12,000トンは全国で第２位

秋冬だいこん・・収穫量14,900トンは全国で第４位

⑩ はくさいの年間収穫量（令和3年）

春はくさい・・・収穫量　12,500トンは全国で第２位

⑪ にんじんの年間収穫量（令和3年）

春夏にんじん・・収穫量10,500トンは全国で第３位

冬にんじん・・・収穫量 8,440トンは全国で第７位

10. 我がまち自慢

⑫　眉山

日本三大難山の一つ（他は妙義山（群馬県）と茶臼山（長野県））寛政４年（１７９２年）に起きた「島原大変」は、日本の火山災害史上最大の被害をもたらした。

⑬　旧島原藩薬園跡

江戸時代に経営された薬園で国指定史跡となっている３件のうちの一つ
（他は佐多旧薬園（鹿児島県）と森野旧薬園（奈良県））

⑭　島原城

一国一城令発布後に、新規築城が許された全国でも数少ない新設の城郭。
島原・天草一揆という実戦経験を有し、かつ落城しなかった城郭。
県内の藩庁として、機能をした城郭の中では最大規模の城郭。

⑮　島原温泉

環境省・観光庁・内閣府・経済産業省が後援として実施されている全国コンテスト「温泉総選挙２０１８」で島原温泉が、「歴史・文化部門」で全国第１位に輝いた。

⑯　島原市温泉給湯所

民間工場からの排湯を熱源とするヒートポンプ方式により、高度な複合熱利用システムを構築することで、ＣＯ２排出量を約１，００１トン、年間６８％、エネルギーコスト７３％削減することに成功した。これにより「平成２９年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（対策技術先導導入部門）」を受賞した。

⑰　一野遺跡

一野式土器（円筒形貝殻条痕文土器）が多数出土し、この形の土器を西九州の縄文早期の土器として位置づけられた初めての遺跡。

⑱　礫石原遺跡

礫石原式土器が出土し、この形の土器を西九州の縄文晩期の土器として位置づけられた初めての遺跡。

10. 我がまち自慢

（２）島原市の長崎県一、長崎県初など県ランクで上位に該当するもの

① 市政

長崎県内では市政施行３番目昭和１５年４月、長崎県下で３番目に市政を施行。令和２年４月１日で８０周年を迎えた。昭和３０年には三会村と、平成１８年１月１日には有明町と合併し平成２８年１月１日に１０周年を迎えた。

② 鶏・鶏卵年間算出額（令和3年）

年間算出額　３６５千万円は県内で第１位

③ 島原市島原湊

坂本龍馬長崎初上陸地

④ 島原守護神「しまばらん」

「ゆるキャラブランプリ２０１８」にて、全国１０位。県下で第１位（３連覇）

⑤ 小原下遺跡

長崎県による発掘調査　県内第一号

（３）その他

①　島原新聞

全国でも２、３紙しかない１００年以上続いている地方紙で、前身は明治３２年、「開国新聞」という名で月３回発行され、戦時中は言論統制により「長崎日報」に統合されたが、昭和２１年１２月、再び「島原新聞」として復刊された。

島原新聞は１００年余り、地元に密着した紙面作りに徹し、島原地方の政治・経済・文化などが多く記載されており、近現代史料の宝庫となっている。

②　島原鉄道

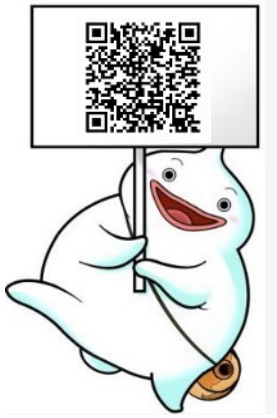
明治４１年（1908年）５月創立
明治４４年（1911年）開業「諫早－愛野間」
大正２年（1913年）開通「諫早－島原湊間」

島原鉄道の開業時の蒸気機関車は、鉄道院から譲り受けた鉄道院150型（１号機関車）。これは、日本で最初の鉄道開業のため輸入された第１号機で、歴史の教科書にも出てくる新橋－横浜間の鉄道開業に使用された機関車である。その後、昭和５年に鉄道省に返還、現在は、さいたま市にある鉄道博物館に展示され、国の重要文化財となっている。現在の１号機関車の左サイドタンクには、当時の植木元太郎島鉄社長直筆の「惜別感無量」の銘板が今も装着されている。

なお、植木元太郎氏は、島原市の初代市長を務められ、島原市霊丘公園内に植木氏の銅像が設置されている。

③　島原市役所　新庁舎

公益財団法人日本デザイン振興会が主催する２０２１年度グッドデザイン賞を受賞。街の賑わいの中心となるピロティ空間の「大手広場」や、大手川沿いの「川床デッキ」は島原の歴史・文化・自然が重なる場である設計と評価され、市庁舎としては珍しい庁舎見学会も実施している。



島原守護神しまばらん

島原市ホームページからもご覧いただけます。